

半田市地域福祉計画 別冊

～第2次中間評価・見直し版～

平成29年4月

半 田 市

はじめに

『半田市地域福祉計画』は、多くの市民のみなさんのご協力により平成22年4月に策定されました。その後、平成25年度に計画の一部見直しを行い、時宜に合わせ対応してきました。この計画の基本理念として策定当初から掲げる「誰もが自分らしく生きられるまち・はんだ」は、現在国を挙げて推し進めている地域包括ケアシステムの理念と一致しています。

私たちが住む地域には、子どもから高齢者まで、さまざまな年代の人がともに暮らしています。生まれてからずっと同じ地域で暮らしている人もいれば、他の地域から半田市に引っ越してこられた方、外国から来られた方もいます。その中には、さまざまな理由で支援を必要としている人もいます。これらの方は決して特別な存在ではなく、家族以外の誰かの支えが必要になるときは、私たちみんなに必ずやってきます。「特別な誰かが、特別な誰かを支援する」のではなく、このまちに住むみんなが「困ったときはお互い様」という気持ちが大切だと考えます。

こうした気風づくりのために、そして支えあうしくみづくりとして、半田市地域福祉計画の、現時点における中間評価と必要な部分についての一部見直しを行いました。

なお、今回の評価及び見直しの取組については、この計画の仕上げ段階（後期）として、特に当初に「重点施策」と位置付けた5項目の、到達点の検証と今後の取組について集中的に掘り下げた内容としているため、別冊による構成としています。

平成29年4月 半 田 市



目 次

1	半田市地域福祉計画 第2次中間評価について・・・・・・・・・・	1
2	半田市の現状について・・・・・・・・・・	3
3	重点施策（第4章）の中間評価と一部見直し・・・・・・・・・・	6
	重点施策	
	（1）地域での課題共有と課題解決のしくみづくり	
	（2）地域学習の体系化による市民力の育成	
	（3）課題を地域住民と行政で協議する場づくり	
	（4）総合的な地域生活支援のしくみづくり	
	（5）新たな課題に取り組むプロジェクト体制の整備	
	用語解説集・・・・・・・・・・	20

<資料>

i 名簿

ii アンケート結果

1 半田市地域福祉計画 第2次中間評価について

(1) 中間評価・見直しの趣旨

「半田市地域福祉計画（平成26年4月見直し版）」第6章「地域福祉計画の推進にあたって」（P75～）の「2(1)計画の進行管理」に基づき、これまでの進捗状況を評価し、必要に応じて進め方の見直しを行うことを目的とします。

今回は、計画の仕上げ段階である「後期（※平成29～31年度）」の推進のためのものであるため、特に策定当初「重点施策」として掲げた項目を中心に取り組むとともに、一部、次期計画（32年度～）に向けた課題の洗い出しについても併せて行います。

※平成26年4月見直し版「半田市地域福祉計画」のP77「計画の評価」では、「計画期間（10年）を前期（3年）、中期（3年）、後期（4年）に分け、平成24年度及び27年度に計画の評価などを行います。」と記述がありますが、前回（第1次）の見直しを平成25年度に行っているため、計画期間を、前期（4年：22～25年度）、中期（3年：26～28年度）、後期（3年：29～31年度）と定義し直します。

(2) 評価と見直しの体制

今回の中間評価については、次の体制で行いました。資料 i 「名簿」参照

① 地域福祉計画評価委員会

地域関係者、福祉関係者、福祉事業所、ボランティア団体、NPO法人等で構成する既存の地域福祉計画推進委員会から、今回の評価のために組織を再編。地域福祉計画の進捗状況の評価、今後の方向性について審議しました。

② 地域福祉計画評価庁内委員会

半田市福祉部、健康子ども部を始め、教育、市民協働、経済、防災等の地域福祉に関連する業務を担当する関係課で構成する庁内委員会において、内部評価を行いました。

③ 地域福祉計画評価作業部会（コア会議）

①、②の事務局機能として、地域福祉に関して特に関連のある半田市福祉部地域福祉課、高齢介護課、生活援護課、健康子ども部子育て支援課及び社会福祉法人半田市社会福祉協議会で構成した作業部会において、計画の評価、今後の方向性等を検討しました。

(3) 半田市地域福祉計画見直しにあたってのアンケート調査

中間評価の基本資料として、時系列による変化を検証するため、前回のアンケートとほぼ同一の内容で実施しました。

◇対 象 20～80歳の市民3,000人（無作為抽出）

◇方 法 郵送で依頼・回答

◇調査期間

平成28年7月7日に発送し、7月22日締め切り

◇有効回収数 1,105票（有効回収率：36.8%）

◇調査結果：資料ii「アンケート調査結果」参照

(4) 重点施策の評価～見直し～今後の指針

「半田市地域福祉計画」第4章「地域福祉計画の重点施策」（P45～）に掲げた重点施策について、現時点における評価と計画後期（平成29～31年度）に向けての課題の検証を行い、今後（次期計画含む）の取組を検討しました。

○第4章「重点施策」の評価【P6～】

1) 地域での課題共有と課題解決のしくみづくり

⇒小学校区（第3層）における「しくみ」づくり

2) 地域学習の体系化による市民力の育成

⇒小学校区～地域（第3～4層）における「ひと」づくり

3) 課題を地域住民と行政で協議する場づくり

⇒小学校区（第3層）における「場」づくり

4) 総合的な地域生活支援のしくみづくり

⇒市全域～中学校区（第1～2層）における「連携体制」

5) 新たな課題に取り組むプロジェクト体制の整備

⇒市全域～中学校区（第1～2層）における「取り組み」

今回の評価及び見直しにあたり、地域福祉計画第5章「地域福祉を推進するための施策」の中間評価も併せて行いました。

⇒資料iii「地域福祉を推進するための施策（第5章）中間評価」参照

2 半田市の現状について

(各年度4月1日現在)

半田市地域福祉計画の第2章では、半田市の概要について記載しています。別冊では半田市の現状として、評価・見直しにあたり特徴的なものについて記載します。

(1) 人口

半田市の人口は、年々減少傾向にあります。

平成28年4月1日現在における年少人口（0～14歳）は16,503人で総人口の約13.9%を占めており、今後も年少人口の減少が見込まれています。

対して65歳以上（高齢者）の人口は増加しています。

また、外国人人口は25年度と比べると約300人増加しています。

<年齢別人口推移> (単位：人)

区 分	22年度	25年度	28年度
0歳～14歳	18,626	17,703	16,454
15歳～64歳	78,777	76,763	74,771
65歳～	22,997	24,943	27,488
合 計	120,400	119,409	118,713

<人口推移> (単位：人)

区 分		22年度	25年度	28年度
日本人人口	男	58,921	58,665	58,258
	女	58,662	58,218	57,642
外国人人口	男	1,398	1,247	1,403
	女	1,419	1,279	1,410
合 計		120,400	119,409	118,713
総世帯数(単位：世帯)		47,103	47,822	49,268

(2) 子ども

子どもの出生数は引き続き減少傾向が続いています。

<年度内出生数> (単位：人)

	21年度	24年度	27年度
出生数	1,087	1,064	989

(3) 自治区

自治区加入世帯数は微減ですが、住民基本台帳世帯数は世帯分離等により、大幅に増加しています。

<自治区（自治組織）加入率> (単位：世帯)

区 分	22年度	25年度	28年度
住民基本台帳世帯数	47,103	47,822	49,268
自治区加入世帯数	33,474	33,107	32,720
自治区加入率 (%)	71.1	69.2	66.4

(4) 高齢者（要介護（要支援）認定）

要介護（要支援）認定者数は、全体的に増加しています。その中でも区分が軽度なほど増加傾向にあります。

<要介護（要支援）認定者数> (単位：人)

区 分	22年度	25年度	28年度
要支援1	540	746	904
要支援2	310	391	450
要介護1	768	996	1,142
要介護2	501	538	568
要介護3	449	401	482
要介護4	404	504	500
要介護5	313	346	358
合 計	3,285	3,922	4,404

(5) 生活保護

平成20年末に起こったリーマンショックの影響による生活保護受給者の急増状態は落ち着き、25年度以降は生活保護世帯数・人員・保護率ともに緩やかな増加傾向にあります。

<生活保護世帯数>

区 分	22年度	25年度	28年度
世帯数（世帯）	438	617	648
人 員（人）	602	848	859
保護率（‰）	5.0	7.1	7.3

※‰：パーミル（1,000分の1）

(6) 障がい者（児）

障がい者（児）手帳交付者数は、全体的に増加しています。特に近年、精神障がい者保健福祉手帳の交付が増加傾向にあります。

<身体障がい者手帳の交付状況>

(単位：人)

等 級	22年度	25年度	28年度
1 級	976	1,030	1,072
2 級	610	628	587
3 級	884	879	839
4 級	704	744	756
5 級	221	222	225
6 級	145	147	153
合 計	3,540	3,650	3,632

<療育手帳の交付状況>

(単位：人)

判 定	22年度	25年度	28年度
A判定	266	294	318
B判定	235	246	274
C判定	204	255	308
合 計	705	795	900

<精神障がい者保健福祉手帳の交付状況>

(単位：人)

等 級	22年度	25年度	28年度
1 級	75	87	129
2 級	407	490	520
3 級	170	176	194
合 計	652	753	843

3 重点施策の中間評価と一部見直し

半田市地域福祉計画は、次の5つを重点施策としています。

- 地域での課題共有と課題解決のしくみづくり
- 地域学習の体系化による市民力の育成
- 課題を地域住民と行政で協議する場づくり
- 総合的な地域生活支援のしくみづくり
- 新たな課題に取り組むプロジェクト体制の整備

この計画が策定されてから今日に至る間に、地域社会の状況は日々変化しています。今回の中間評価では「地域での身近な支え合いが基盤となっているか」「市や社会福祉協議会はそれを支援するための取組を適切に実施しているか」「地域で支えきれない課題を関係機関のネットワークで解決しようとしているか」等を論点としました。その上でこの重点施策に向けての取り組み方について、その一部を見直しました。

表記した【今後の取組（見直した点）】については、計画後期（平成29～31年度）に向けた取組（目標）とするとともに、次期「地域福祉計画」への展望を見据えたものとしています。



これまでに、どこまでできたダシ？
これからどうなっていくダシか？

1) 地域での課題共有と課題解決のしくみづくり

半田市地域福祉計画P. 46～49参照

【計画策定時の目標】

住民が気軽に集まれる場所に『ふくし相談窓口』を開設します。

【これまでの取組】

- ① 相談ボランティアの担い手として『にじいろサポーター』を養成。
(平成28年4月現在 65人登録)
- ② ふくし相談窓口のモデル拠点として、半田市社会福祉協議会が運営する『おっかわハウス』を指定。
- ③ 多世代交流や介護予防拠点等を目的とした『地域ふれあい施設』を開設。
(平成28年4月現在 5か所開設)
- ④ 身近な地域単位で“お助け隊”が住民主体で組織化され、地域貢献を実施。
- ⑤ 地域福祉の推進を通じて、地域ごとのキーパーソンの存在や住民の気質、社会資源の分布状況などの地域特性が読み取れるようになってきている。

【残された課題】

- ① 相談ボランティア（にじいろサポーター）講座修了者相互の情報共有や連携の仕組みがない。
- ② 計画上の「ふくし相談窓口」について、おっかわハウス以外に把握できていない。
- ③ 特定の場所に設置することは、限られた人しか利用しにくい形になるのではないだろうか。
- ④ 地域拠点の設置状況に大きな地域差がある。また地域組織化が実現していないため、「担い手が変わっても続けることができる」実践になりきれていない。
- ⑤ 特性に応じた地域ごとの取組の必要性がある。

【今後の取組（見直した点）】

- ① ふくし相談窓口は場所という概念を見直し、「気軽に相談に応じてくれる人（にじいろサポーター）が、人の集まる場所（地域ふれあい施設等）に出向く」体制を敷くとともに、人の集まる場所のスタッフ等が、にじいろサポーターになっていくよう養成講座の受講などを勧めていきます。
- ② 上記①の活動単位は「小学校区」を基本とし、そのために地域格差をできるだけ少なくするように、養成講座を実施していきます。
- ③ 相談ボランティア（にじいろサポーター）と高齢・障がい・子育て・生活困窮の各相談窓口の連携を強化していきます。
- ④ 持続可能な地域拠点（人・場所）の整備（発掘・開拓）に努めるとともに、地域組織化を進めます。
- ⑤ 地区診断シート（地域資源把握ツール）を充実させ、地域の実態把握に努めます。

時期	段階	実施内容及び予定
前期 (平成 22～25 年度) 地域福祉活動 の基盤整備	相談ボランティア の公募 ↓ ↓	◇『にじいろサポーター』の育成 ⇒養成講座の開始 ◇『おっかわハウス』の開設 (H23.4) ⇒ふくし相談窓口のモデル地区として開設 ◇『地域ふれあい施設』(地域拠点)の開設 やなべふれあいセンター(H18)・さくらの家(H21) かりやど憩の家(H24) ◇地域の生活支援組織の立ち上げと支援 亀崎思いやり応援隊(H24)・やなべお助け隊(H25) ならわ思いやり隊(H26)・住吉ささえたい(H27) ◇『乙川子育てネットワーク連絡会』発足(H25) ⇒子育てに関する社会資源の連携等
中期 (平成 26～28 年度) 福祉人材の 発掘と育成	『ふくし相談窓口』 (モデル地区)の開設 ↓ ↓	◇『にじいろサポーター』の育成 ⇒養成講座を各中学校区で開催。 ◇『地域ふれあい施設』の開設・活用 フレンド乙川(H26 移転) ◇生活困窮者自立相談事業の開始(生活援護課内) (H27) ◇にじいろサポーターフォローアップ講座の開催 (生活支援コーディネーター養成講座)(H27) ◇『プラチナカフェ(認知症カフェ)』の開設(H27) (NPO 法人りんりん・かりやど憩の家) ◇『地域ふれあい施設』関係者交流会(H27～) ⇒情報交換、横の連携の構築 ◇『地域ふれあい施設』の開設・活用 有脇ふれあいセンター(H28) ～可能な地域への展開 ◇『やなべ子育てネットワーク連絡会』発足(H28.6) ～可能な地域への展開
後期 (平成 29～31 年度) 住民主体の 地域福祉活動 実践	『ふくし相談窓口』 (全小学校区)の開設 持続可能な地域の 仕組みづくり(新) ↓	◇『にじいろサポーター』の育成・活動場所の検討 ⇒日常の地域活動の中での相談受付 ⇒地域でのサロン活動のほか、あらゆる機会を通じた地域課題の吸い上げ ◇地域拠点整備 ⇒持続可能な地域拠点の発掘、開拓 ◇地域実態把握～分析～地域特性に応じた展開 ⇒地区診断シート(把握ツール)の充実・活用

※時期・段階については、半田市地域福祉計画P. 64参照

2) 地域学習の体系化による市民力の育成

半田市地域福祉計画P. 50～52参照

【計画策定時の目標】

『ふくし勉強会』を身近な地域で開催し、福祉人材を育成します。

【これまでの取組】

- ① 『知ってク！ふくしゼミナール』の開催。障がいや高齢だけではなく、子育てや防災、健康等幅広いテーマ設定を行い、市民のふくし意識の底上げを図った。
- ② 上記①が、にじいろサポーター養成講座へのステップアップやボランティア活動につながるケースがあり、市民力の向上につながった。
- ③ 日常の活動の中にふくしの視点を取り入れられるようになった。事業所が認知症サポーター養成講座を主催し従業員が受講することや、地域見守り活動協定締結すること等で、本業（社業）にも好影響があったとの声がある。

【残された課題】

- ① ふくし共育や勉強会を通じた人づくりの将来像が、関係者間で共有できていない。
- ② 『ふくし共育』は学校を中心に実施されているが、企業や商店等にも拡大する必要があると思われる。
- ③ 『知ってク！ふくしゼミナール』が地区別開催となり、地区によって開催数に格差ができています。
- ④ 人材育成の成果（活躍の場など次の段階）が見えにくい。
- ⑤ 類似の講座が複数開催されており、住民からすると違いがわかりにくい。

【今後の取組（見直した点）】

- ① 「まちづくりは人づくり」であり、地域福祉計画の取組は半田市総合計画を実行する「人づくり」の原点である、という気風づくりに努めます。
- ② 企業や商店街等に対し、ふくしに力を入れることで自社の発展につながった好事例を紹介するなど、考え方の拡大に努めます。
- ③ ふくし共育は、すべての世代、多様な層に向けて実施していきます。
- ④ 「個の困りごとを、みんなで支援した」という経験（支援事例）を積み上げ、そのための器づくり（地域組織化）を念頭におき、地域力の向上に努めます。
- ⑤ 各種講座の体系化を行うとともに、積極的な受講修了者（地域人財）を把握し、その活躍の場づくりを検討します。

時期	段階	実施内容及び予定
前期 (平成 22～25 年度) 地域福祉活動 の基盤整備	『ふくし勉強会』 (テーマ別) の開催 『福祉人材養成講座』 の開催 ↓ ↓	◇『知っとク！ふくしゼミナール』の開催 (約2か月に1回開催) ⇒題材は市・社協から提供 ◇『ふくし共育』への転換 ⇒「福祉実践教室」から「ふくし共育」へ ◇『認知症サポーター』養成講座 (H19～) ◇『認知症予防教室学習サポーター』養成講座開催 (はなまる先生養成講座) (H24～) ⇒地域住民の自主グループによる認知症予防教室の開催 の支援
中期 (平成 26～28 年度) 福祉人材の 発掘と育成	養成された福祉人材 の地域福祉活動への 参加 ↓ ↓ ↓ ↓	◇『知っとク！ふくしゼミナール』の開催 ⇒各地区の井戸端会議で開催 (各地区1年に1回) ◇『ふくし共育』の開催 ⇒市内各小学校、一部中学校・高等学校・専門学校にて実施。 ◇地域サロンの立ち上げ (H27～) ⇒半田南区 山ノ神共集館サロン、成岩4区 同胞園ならわ サロンのサポート ◇『認知症サポーター』フォローアップ講座の開催 (H27～) ◇『生活支援コーディネーター』養成講座の開催 (H27～ にじいろサポーターフォローアップ講座) ◇行方不明高齢者捜索訓練 (H27～) ⇒訓練参加者が連絡・通報を行うようになる ◇『成年後見サポーター研修講座』の開催 ⇒講座受講者がサポーターとして活動 ◇『権利擁護サポーター講座』の開催 ⇒講座受講者がサポーターとして活動 ◇『ジョブライフサポーター養成講座』の開催 ⇒講座受講者による、障がい者の一般企業就職後の定着支 援 (企業内または地域) の充実
後期 (平成 29～31 年度) 住民主体の 地域福祉活動 実践	『ふくし共育』の 充実 (新) ↓	◇『ふくし共育』の開催 ⇒各小学校、中学校、高等学校を始め、企業や商店など、 すべての世代・多様な層に開催を促す ◇各種講座の体系化 ⇒積極的な受講修了者の把握～活躍の場の検討

※時期・段階については、半田市地域福祉計画P. 64参照

3) 課題を地域住民と行政で協議する場づくり

半田市地域福祉計画P. 53～55参照

【計画策定時の目標】

『ふくし井戸端会議』を開催し、地域の福祉課題について話し合います。

【これまでの取組】

- ① 中学校区または小学校区単位で『ふくし井戸端会議』を定期的で開催し、高齢・障がい・防災等のさまざまな分野をテーマとして、地域課題を話し合えた。
- ② ふくし井戸端会議から、地域お助け隊や地域サロン（常設型）が立ち上げられ、住民主体の地域福祉活動の基盤ができた。

【残された課題】

- ① 計画上は小学校区単位での開催であるが、多くの地域で実現していない。
- ② 地域課題に対して住民間の温度差がある。
- ③ ふくし井戸端会議参加者の固定化や減少。

【今後の取組（見直した点）】

- ① 小学校区を主なエリアとして、気軽な雰囲気での地域の課題等について話し合える、『ふくし井戸端会議』を開催します。
また、地域住民のみなさんと一緒に「困っている人」を支えるための話し合い（仮称：見守り会議）も並行して実施します。
- ② 民生委員児童委員協議会など既存組織のあり方について再考し、より効果的な「地域課題を協議する場」づくりを目指します。
- ③ ふくし井戸端会議と地域包括ケアシステムにおける『在宅生活支援協議会』との関係の構築を図ります。



時 期	段 階	実施内容及び予定
前期 (平成 22～25 年度) 地域福祉活動 の基盤整備	『ふくし井戸端会議』 (旧：地区ミーティ ング) の試行 ↓	◇『ふくし井戸端会議』の開催～単位の細分化 ⇒計画策定時の「地区ミーティング」を基に、中学校区ご とで『ふくし井戸端会議』を開催 ⇒小学校区ごとに地域課題の違いが明確な青山中学校区に おいて、小学校区(花園・板山)単位の「ふくし井戸端会 議」を開催(H25～)
中期 (平成 26～28 年度) 福祉人材の 発掘と育成	『ふくし井戸端会議』 (全小学校区) の開催 ↓ ↓	◇『地域担当職員』の配置(H26～) ⇒配置を希望する自治区等(地域)に対し、各地域2名の 担当職員を配置。H28年度12地域 ◇『ふくし井戸端会議』の開催単位の細分化 (小学校区で開催へ) ⇒亀崎中学校区において、小学校区(亀崎・有脇)単位で 「ふくし井戸端会議」を開催(H28～)
後期 (平成 29～31 年度) 住民主体の 地域福祉活動 実践	効果的な協議の場の 構築(新) ↓	◇効果的な協議の場のあり方の検討 ⇒全体の枠組みを検討

※時期・段階については、半田市地域福祉計画P. 65参照

4) 総合的な地域生活支援のしくみづくり

半田市地域福祉計画P. 56～58参照

【計画策定時の目標】

相談支援機関のネットワークを強化します。

【これまでの取組】

- ① 生活困窮者自立支援法の施行後、既存の制度や部署の垣根を越えた支援ネットワークが形成されてきた。
- ② 半田市社会福祉協議会が定期的実施している事例検討会に、保健・医療・福祉・司法等のあらゆる分野の専門職が参加し、ケアマネジメント技術の向上等の成果をあげている。
- ③ 地域包括支援センター、障がい者相談支援センター等が核となって、現場職員向けの研修会を継続的に実施している。

【残された課題】

- ① 庁内連携はずいぶん円滑になってきたという評価があるが、法律や制度の枠を越えた相談体制には成り得ていない。また、地域住民のみなさんによる相談ボランティア（にじいろサポーター）と専門職ネットワークがまだつながっていない。
- ② 地域包括ケアシステム構築に向けた取組を始め、課題の多さに比例して会議の数が多くなっている。各会議の位置づけや役割の整理が必要。
- ③ 複合的な課題を抱える世帯の増加

【今後の取組（見直した点）】

- ① 在宅生活支援協議会や生活困窮者自立支援調整会議等の取組において、地域住民が「個（世帯）をみんなで支えた実践例」の蓄積と専門職ネットワークとのつながりについて検討します。
- ② 各協議会等の位置づけを精査し、整理統合の可能性を検討します。
- ③ 分野を問わない総合的な相談支援の仕組みについて検討します。



時 期	段 階	実施内容及び予定
<p>前期 (平成 22～25 年度)</p> <p>地域福祉活動 の基盤整備</p>	<p>共通する福祉課題解 決を図るネットワー クづくり</p> <p>↓</p> <p>↓</p>	<p>相談支援機関（専門職）のネットワーク</p> <p>【高齢者関係】</p> <p>◇在宅ケア推進地域連絡協議会（H4～継続）</p> <p>◇半田市介護保険運営協議会（H12～継続）</p> <p>【障がい者関係】</p> <p>◇障がい者自立支援協議会（H20～継続）</p> <p>【子育て支援関係】</p> <p>◇地域子育て支援拠点事業（H18～） 子育て支援センターはんだっこ（H18～）・岩滑こども園 子育て支援室（H22～）</p> <p>◇要保護児童対策地域協議会（H19～）</p> <p>【分野横断的取組】</p> <p>◇高齢者・障がい者虐待防止連絡協議会（H24～）</p>
<p>中期 (平成 26～28 年度)</p> <p>福祉人材の 発掘と育成</p>	<p>↓</p> <p>↓</p> <p>↓</p> <p>↓</p>	<p>【高齢者関係】</p> <p>◇地域包括ケアシステム推進協議会（H26～） 認知症対応検討会議（H26～）・高齢者の住まいに関する 検討会議（H27～）・認知症初期集中支援チーム（H27～） 在宅医療連携システム（在宅 ICT：だし丸くんネット）（H27 ～）・高齢者見守りメール（H27～）・行方不明・見守り SOS ネットワーク（H28～）</p> <p>【生活困窮者関係】</p> <p>◇生活困窮者自立支援ネットワーク協議会（H27～） 生活困窮者自立支援調整会議（H27～）・生活困窮者自立 支援制度運営会議（H27～）</p> <p>【子育て支援関係】</p> <p>◇地域子育て支援拠点事業 板山ふれあいセンター（H26）・青山児童センター（H26）</p> <p>◇利用者支援事業（H28～） ⇒妊娠期から子ども・子育て支援までに関する「相談支援」、 「各種事業（社会資源）の円滑な利用促進」、「関係機関との連 絡調整」を行う。</p> <p>【分野横断的取組】</p> <p>◇半田市地域見守り活動（協定）（H26～）</p>
<p>後期 (平成 29～31 年度)</p> <p>住民主体の 地域福祉活動 実践</p>	<p>総合的な相談支援の 仕組の構築（新）</p> <p>↓</p>	<p>【分野横断的取組】</p> <p>◇分野横断的な相談支援機関ネットワーク ⇒個別支援～家族支援、家庭支援の体制整備</p> <p>◇相談ボランティアと専門職ネットワークとの連携</p>

※時期・段階については、半田市地域福祉計画 P. 65 参照

5) 新たな課題に取り組むプロジェクト体制の整備

半田市地域福祉計画P. 59～61参照

【計画策定時の目標】

課題解決プロジェクトチームを結成し、福祉課題の解決を図ります。

【これまでの取組】

- ① 半田市社会福祉協議会と協力して、防災・減災、ふくし共育を推進するプロジェクトチームを発足させ、地域に向けて活動を展開した。
- ② 岩滑区や亀崎小学校区では、地域住民とNPO法人等の協働によって「まちづくりの視点」による課題解決型の取組が実践された。
- ③ 生活困窮者自立支援や地域包括ケアシステムを推進するため、庁内の連携強化に努めた。

【残された課題】

- ① これまで立ち上げたプロジェクトは制度上必要なものであって、「住民主体」「市民協働」というかたちになっていないものが多かった。
- ② プロジェクトの成果が数値化されにくい。地域住民と一緒に「どんな福祉課題を、どうやって解決したか」の実例が見えにくい。
- ③ 福祉分野に限らない分野横断的な取組の可能性はないか。
- ④ 災害時要配慮者の対策（避難行動要支援者に対する支援方法、福祉避難所の運営）
- ⑤ 社会福祉法人制度改革に伴う「社会福祉法人の地域における公益的な取組」のあり方の検討
- ⑥ 国の示す「地域共生社会（“我が事・丸ごと”の地域づくり）」構築の検討

【今後の取組（見直した点）】

- ① ふくし井戸端会議等から抽出された「個人の困りごと」について、地域住民の皆さんとともに解決をめざす『(仮称)見守り会議』を実施し、支援します。
- ② 上記①での実践をきちんと記録し、ノウハウを蓄積できる仕組みを整えます。
- ③ 市内の産業や経済の関係者に対する意識調査を行い、福祉分野とのコラボレーション（住民との協働と多職種連携）が可能か検討します。
- ④ 防災プロジェクト等、既存の課題別プロジェクトの取組をさらに進めます。
- ⑤ 社会福祉法人の「地域における公益的な取組」のあり方について地域福祉推進の観点から検討します。
- ⑥ 「地域共生社会（“我が事・丸ごと”の地域づくり）」構築の検討を開始します。
 - 地域における住民主体の課題解決の体制づくり（第3～4層）
 - 包括的・総合的な相談支援体制の確立（第1～2層）

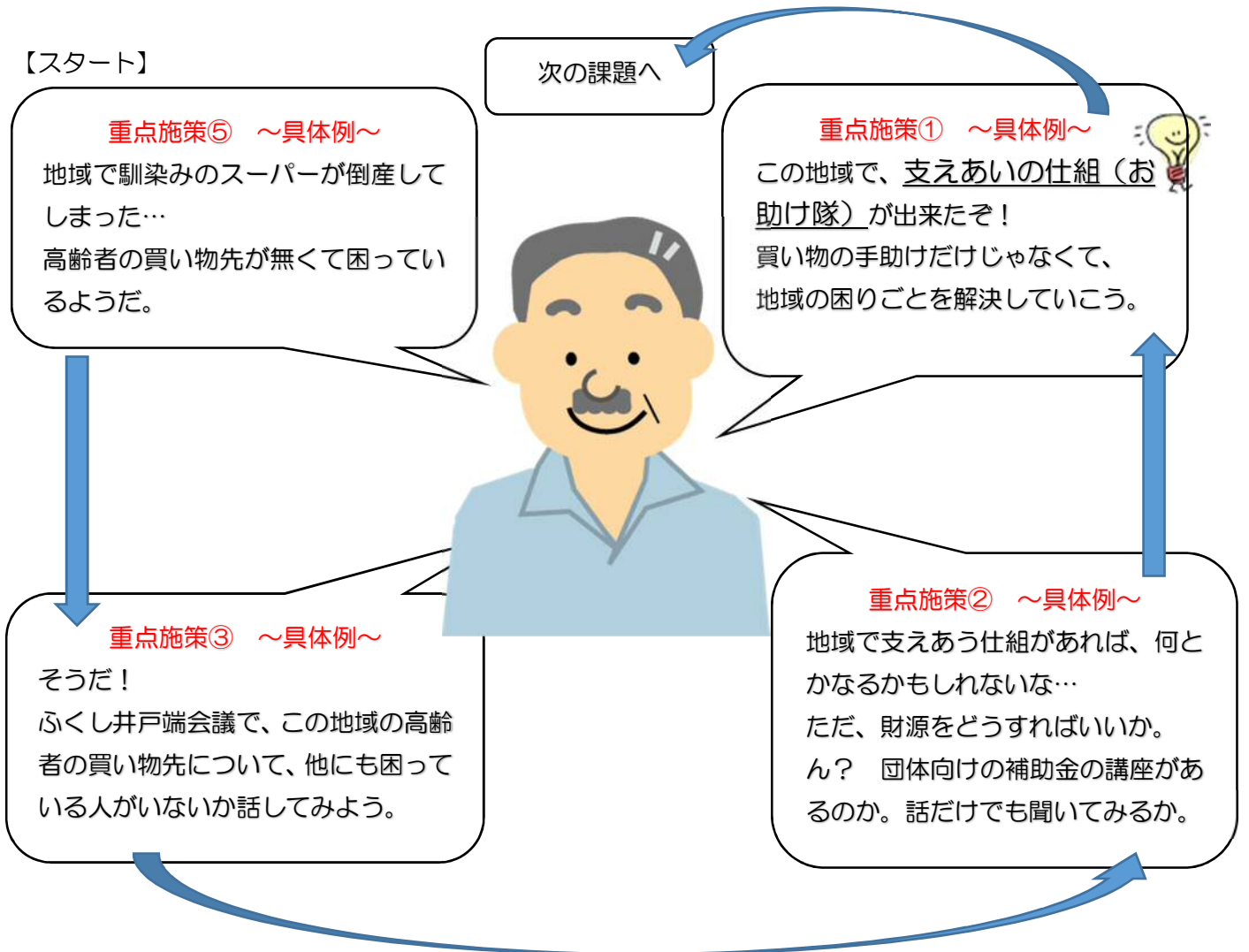
時 期	段 階	実施内容及び予定
<p>前期 (平成 22～25 年度)</p> <p>地域福祉活動 の基盤整備</p>	<p>課題別のプロジェクトチームの結成</p> <p>↓</p>	<p>◇課題別プロジェクトチームの結成 ⇒福祉課題の解決（ふくし共育プロジェクト）</p> <p>◇地域包括ケアシステムの構築（H25～） ⇒地域に住む誰もが、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けられるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される仕組の構築</p>
<p>中期 (平成 26～28 年度)</p> <p>福祉人材の 発掘と育成</p>	<p>↓</p> <p>↓</p>	<p>◇生活困窮者支援体制の構築（H26～） ⇒必須事業の実施とともに、任意事業の計画的実施や生活困窮者を地域で支える仕組（出口対策）の構築</p> <p>◇障がい者関連課題解決プロジェクト ⇒行動障がいに係る支援体制検討会 ⇒虐待防止事業所研修プロジェクト</p> <p>◇防災プロジェクト ⇒災害時要配慮者の対策（避難行動の支援・福祉避難所の運営）</p>
<p>後期 (平成 29～31 年度)</p> <p>住民主体の 地域福祉活動 実践</p>	<p>プロジェクトチーム の結成・継続</p> <p>↓</p> <p>↓</p>	<p>◇課題解決プロジェクト ⇒複合的な課題を抱える世帯を、地域住民との協働と多職種連携で地域ごとに“何件”解決したか。ノウハウを積み上げ、共有する。</p> <p>◇社会福祉法人の地域貢献検討プロジェクト ⇒社会福祉法人制度改革（H29～）に伴う「社会福祉法人の地域における公益的な取組」のあり方を地域福祉推進の観点から検討する。</p> <p>◇地域共生社会（我が事・丸ごと）構築の検討 ⇒住民主体による地域課題解決力強化・体制 ⇒市域における包括的な相談支援体制の整備 ほか</p>

※時期・段階については、半田市地域福祉計画P. 65参照

コラム 重点施策の繋がり

地域の課題について5つの重点施策が相互に関連して解決に導いている事例があります。そのうちのいくつかを紹介します。

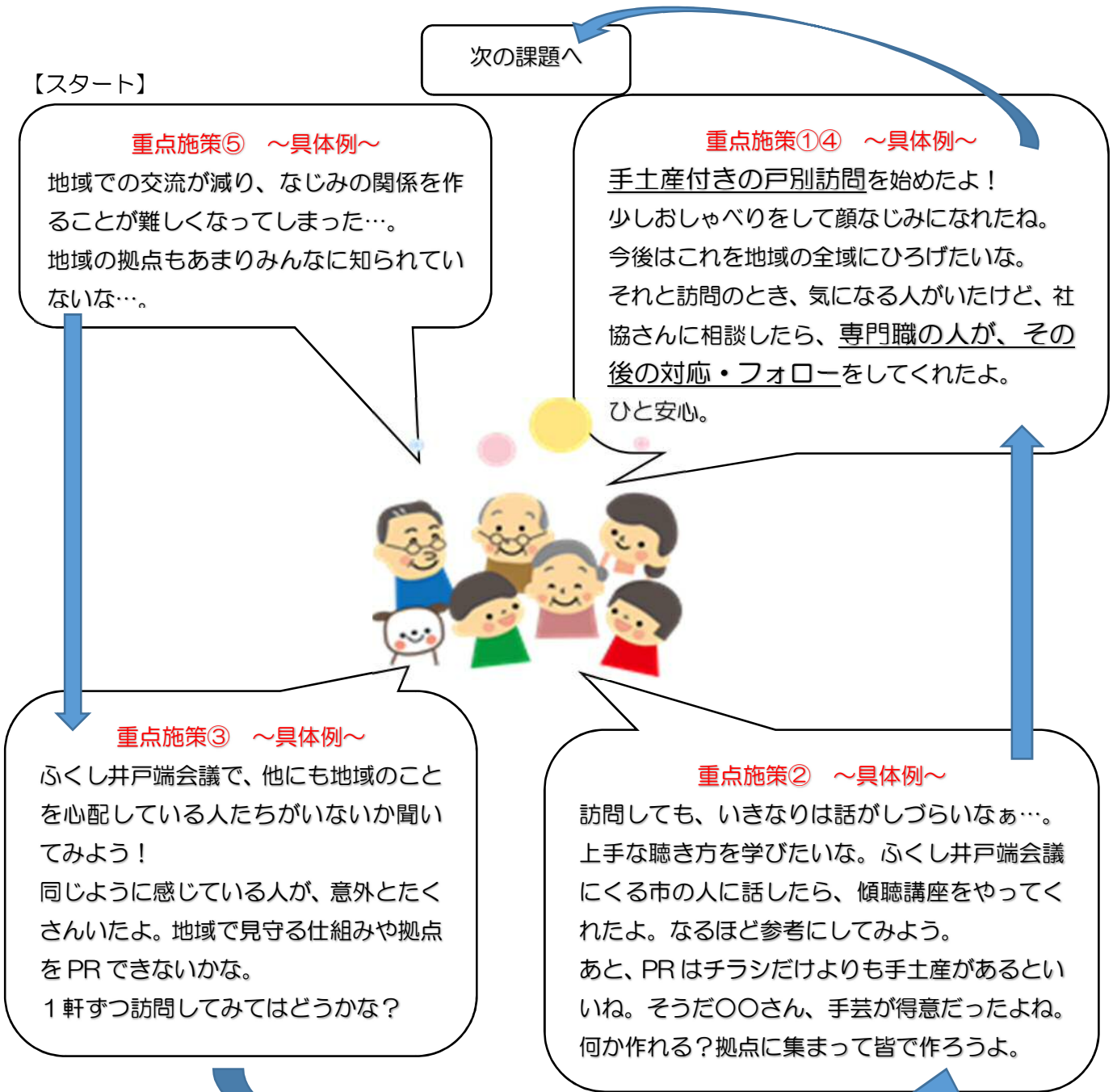
①お助け隊発足の事例



○ポイント

- ・地域の気になる課題を話し合える場があること
- ・活動に役立つ講座等の情報をキャッチできる環境にあること
- ・他の課題へも挑戦できる「仕組」を作ることができたこと

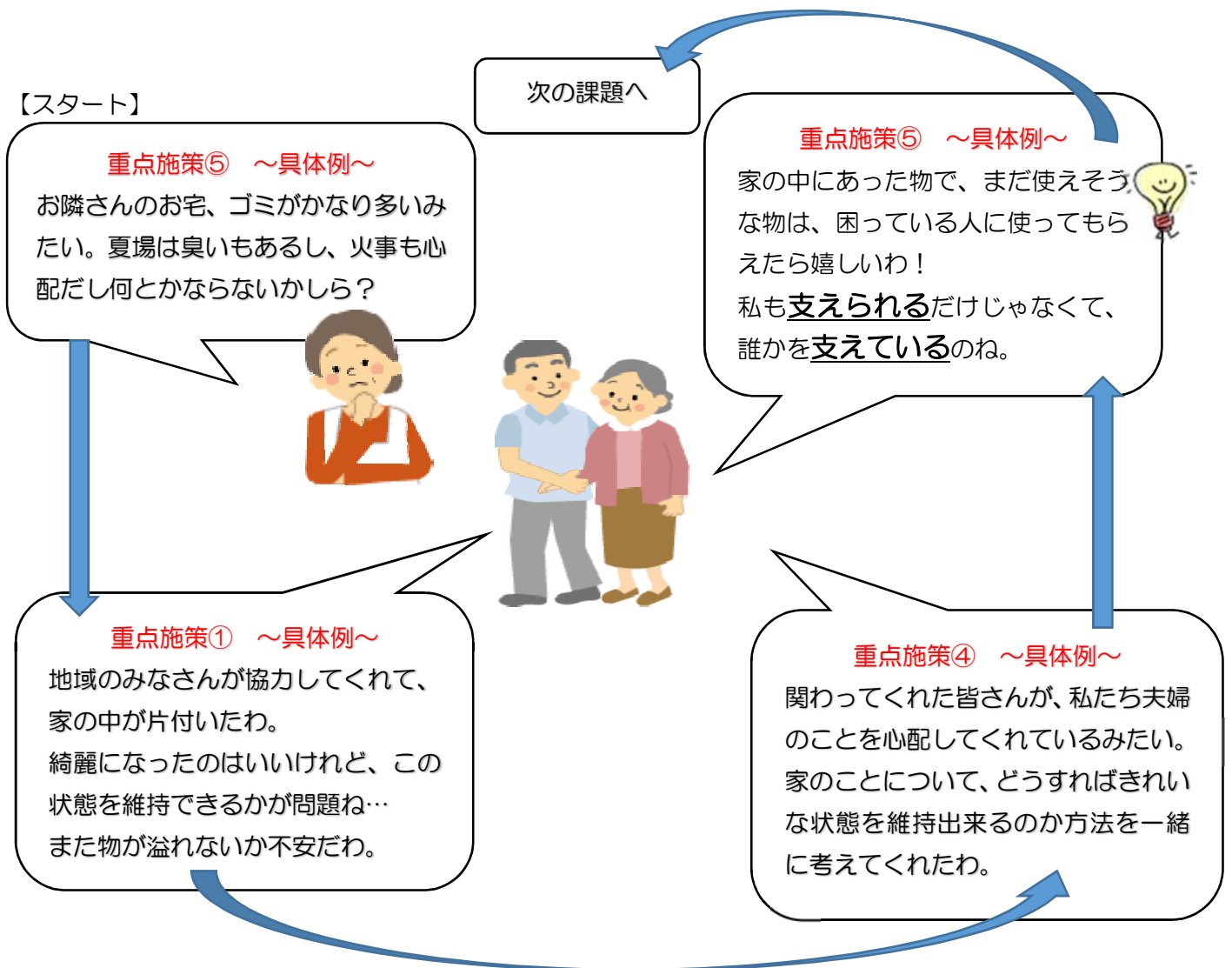
②訪問活動（アウトリーチ）の事例



○ポイント

- 地域の気になる課題を話し合える場があること
- 地域の方が課題を「我が事」として捉えていること（主体性）
- 専門職へ繋ぐという手段を知っていること

③ごみ屋敷クリーンアップ作戦の事例



○ポイント

- 地域の方が課題を「我が事」として捉えていること（主体性）
- 地域の課題を地域の方が解決する仕組みがあること
- 「支えられる」だけでなく、誰かを「支える」という経験が出来たこと

● ○ ● 用語解説集 ● ○ ●

* 1 地域包括ケアシステム (※別冊はじめに)

医療・介護・予防・生活支援・住まいが地域において切れ目なく一体的に提供される体制です。その体制を構築するために、半田市においても地域の実態を踏まえた「在宅医療・介護連携の強化」、「認知症施策の推進」、「生活支援・介護予防サービスの基盤整備の推進」などに取り組んでいます。

* 2 おたすけ隊 (※別冊 7 ページ)

地域のお年寄りや一人暮らしの方のちょっとした困りごとを手助けする、井戸端会議から生まれたボランティアグループです。

* 3 生活支援コーディネーター (※別冊 10 ページ)

高齢者の生活支援・介護予防サービスの充実に向けて、ボランティア等、担い手の養成・発掘や関係する団体のネットワーク化など様々なコーディネートを行う人のことです。

* 4 在宅生活支援協議会(協議体) (※別冊 11 ページ)

高齢者の生活支援・介護予防サービス等を行うボランティア・NPO・地域の方などが、団体間の情報共有や連携を図るために定期的な協議をする場のことです。

* 5 生活困窮者自立支援法 (※別冊 13 ページ)

生活保護に至る前の段階の自立支援策の強化を図るため、生活困窮者に対し、自立相談支援事業の実施、住居確保給付金の支給その他の支援を行うこととして、平成 27 年 4 月に施行された法律です。

* 6 社会福祉法人 (※別冊 15 ページ)

特別養護老人ホームや障がい者施設、保育園の運営など福祉を幅広く担う社会福祉法に基づく法人で、利益を目的としない非営利団体をいいます。

*** 7 地域共生社会** (※別冊 15 ページ)

平成28年6月2日に各議決定された「ニッポン一億総活躍プラン」の中で提唱された「子供・高齢者・障がい者など全ての人々が地域、暮らし、生きがいを共に創り、高め合うことができる」社会のことです。地域のあらゆる住民が役割を持ち、支え合いながら、自分らしく活躍できる地域コミュニティを育成し、福祉などの地域の公的サービスと協働して助け合いながら暮らすことのできる仕組みを構築するものです。

資料

i 名簿

①地域福祉計画評価委員会

<敬称略>

氏名	所属	備考
市川 幸夫	社会福祉法人椎の木福祉会特別養護老人ホーム 瑞光の里	
今井 友乃	特定非営利活動法人知多地域成年後見センター	
下村 裕子	特定非営利活動法人りんりん	
加戸 和徳	社会福祉法人ダブルエッチジャー	
○鷺野 林平	社会福祉法人半田同胞園	
水野 尚美	特定非営利活動法人共育ネットはんだ	
藤田 千晴	福祉部長	事務局
石島 貴伸	福祉部 生活援護課	
上口 美智代		
吉川 真人	福祉部 高齢介護課	
柘植 偉昭	健康子ども部 子育て支援課	
竹部 益世	福祉部 地域福祉課	
山本 勇夫		
渡辺 富之		
大竹 一美		
前山 憲一	半田市社会福祉協議会	
中根 靖幸		

※○は委員長

②半田市地域福祉計画評価庁内委員会

氏名	所属	備考
石島 貴伸	福祉部 生活援護課 保護担当(生活困窮)	作業部会
上口 美智代	福祉部 生活援護課 保護担当(生活困窮)	作業部会
吉川 真人	福祉部 高齢介護課 高齢者福祉担当	作業部会
森下 直孝	福祉部 国保年金課 医療福祉担当	
柘植 偉昭	健康子ども部 子育て支援課 家庭相談担当	作業部会
今井 美里	健康子ども部 保健センター 母子保健担当	
田中 宏幸	企画部 企画課 企画担当	
藤井 寿芳	企画部 市民協働課 市民交流センター担当	
深川 芳行	総務部 防災交通課 防災減災担当	
佐藤 章貴	市民経済部 経済課 農務担当	
澤田 里奈	教育委員会 学校教育課 学校担当	
村上 裕子	教育委員会 生涯学習課 生涯学習担当	
竹部 益世	福祉部 地域福祉課長	事務局 作業部会
山本 勇夫	福祉部 地域福祉課 地域福祉担当	
渡辺 富之	福祉部 地域福祉課 障がい者援護担当	
大竹 一美	福祉部 地域福祉課 地域福祉担当	
前山 憲一	半田市社会福祉協議会 ふくし支援グループ長	
中根 靖幸	半田市社会福祉協議会 総務担当	

③半田市地域福祉計画評価作業部会

②半田市地域福祉計画評価庁内委員会名簿備考欄参照

ii アンケート結果

「半田市地域福祉計画」見直しにあたっての
アンケート調査

平成 28 年 9 月

半 田 市

目 次

I 調査の概要	1
1 調査の目的.....	1
2 調査対象.....	1
3 調査期間.....	1
4 調査方法.....	1
5 回収状況.....	1
6 調査結果の表示方法.....	1
II 市民アンケート調査結果	2
1 回答者自身について.....	2
2 日常生活について.....	5
3 自治区やコミュニティなどの地域活動・ボランティア活動について.....	21
4 災害時における助け合いについて.....	52
5 地域の課題について.....	57
6 半田市地域福祉計画の重点施策について.....	61
7 社会福祉協議会について	65
参考資料（アンケート調査票）	70

I 調査の概要

1 調査の目的

半田市地域福祉計画の評価・見直しにあたり、地域福祉の核となる地域住民が自分たちで何ができるのか、地域活動についてどのような思いがあるのか等について現状を把握し、基礎資料を得ることで、「地域の力」を効果的に計画に反映させることを目的としています。

2 調査対象

20歳以上80歳以下の市民3,000人を対象に無作為に抽出しました。

3 調査期間

平成28年7月7日に発送し、平成28年7月22日を投函締切としました。

4 調査方法

郵送配布、郵送回収

5 回収状況

	配付数	有効回収数	有効回収率
市民アンケート調査	3,000票	1,105票	36.8%

6 調査結果の表示方法

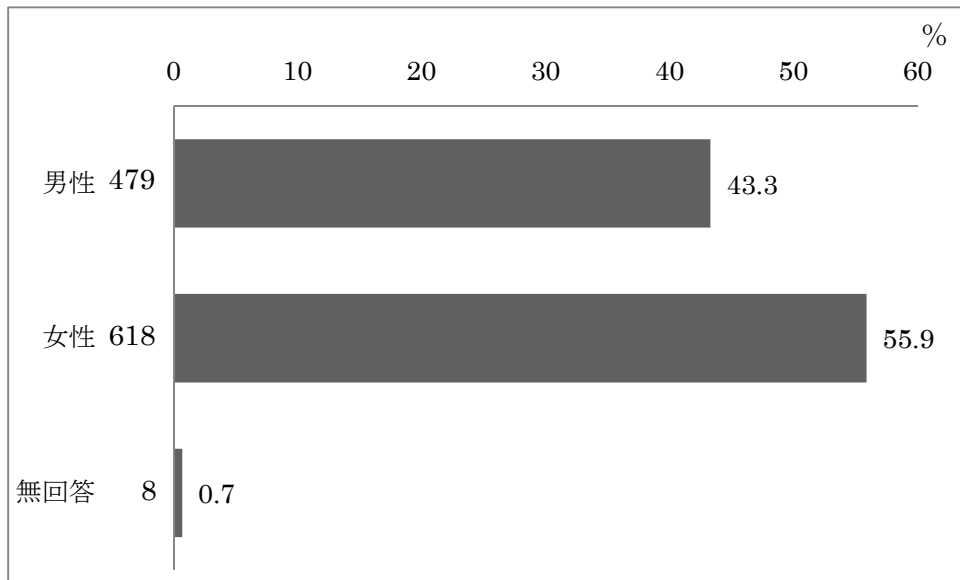
- ・集計結果の%表示は、小数点以下第2位を四捨五入してありますので、内訳の合計がちょうど100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、すべての比率の合計がちょうど100.0%にならない場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。

Ⅱ 市民アンケート調査結果

1 回答者自身について

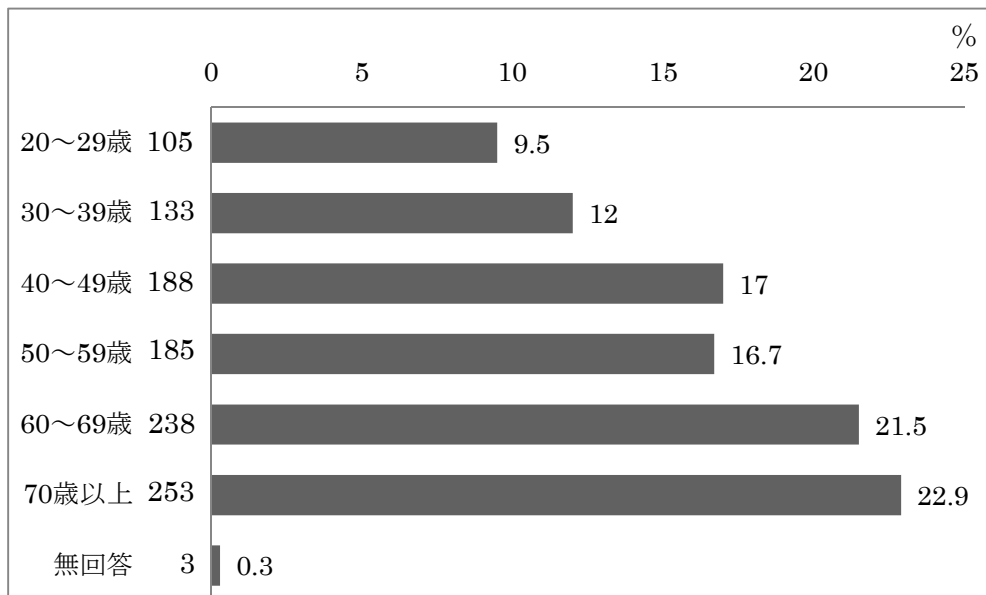
(1) 性別

N=1105



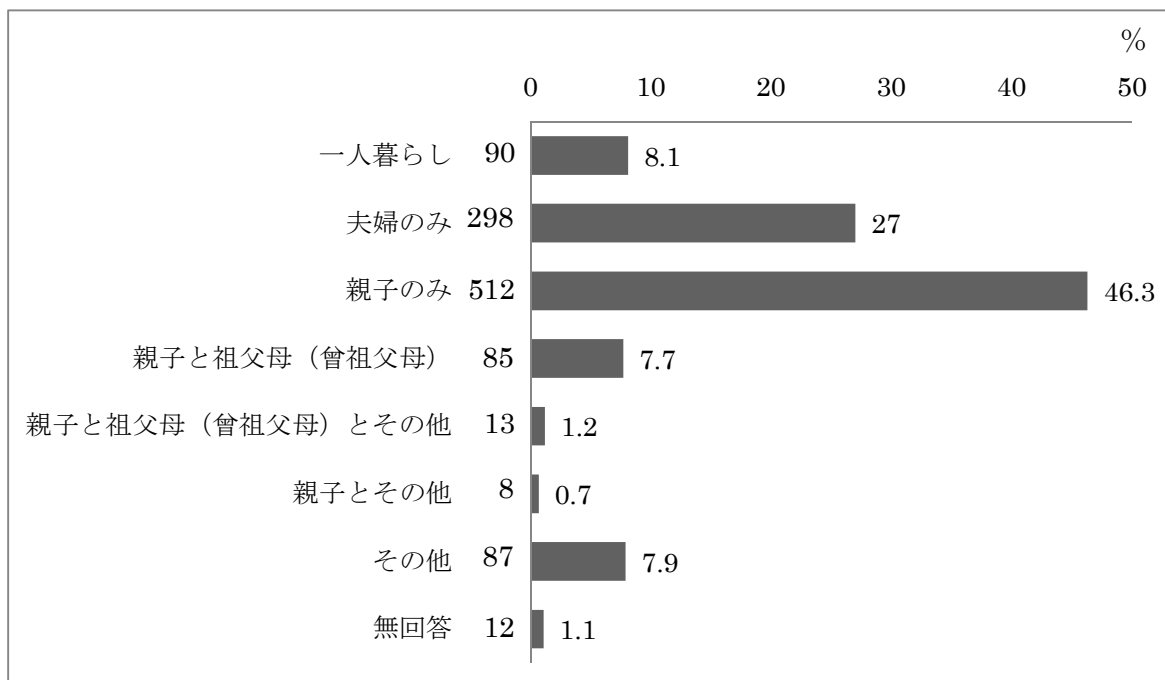
(2) 年齢 (平成 28 年 4 月 1 日現在の満年齢)

N=1105



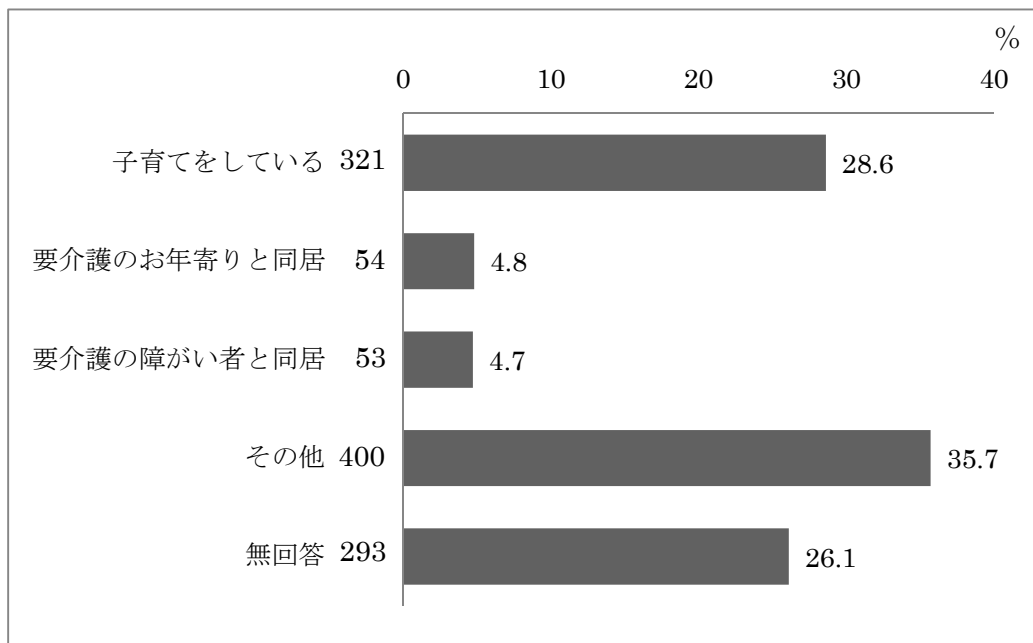
(3) 家族構成

N=1105



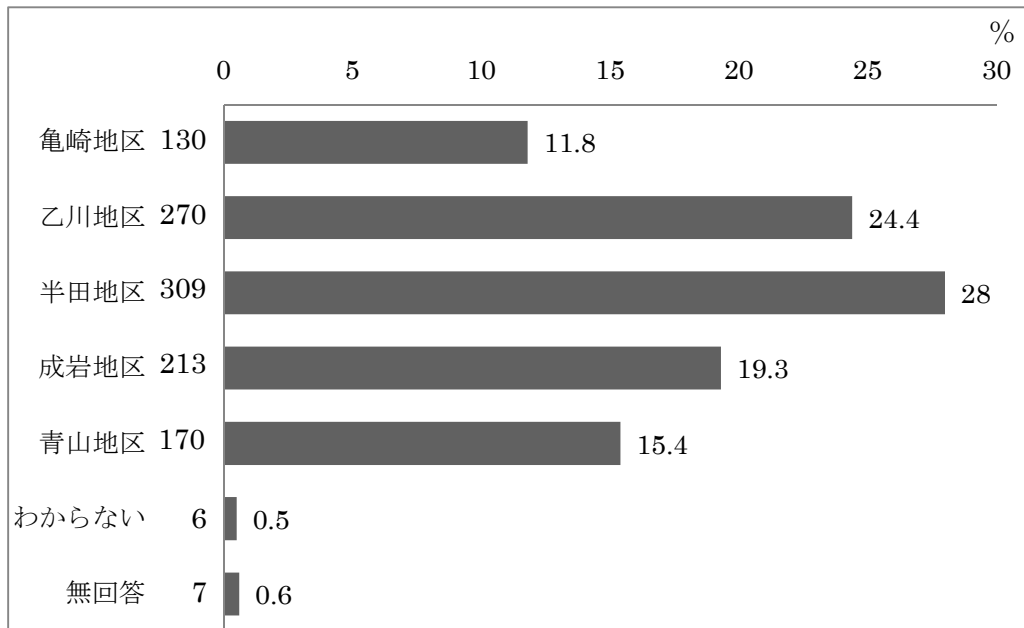
(4) 世帯の状況

N=1105



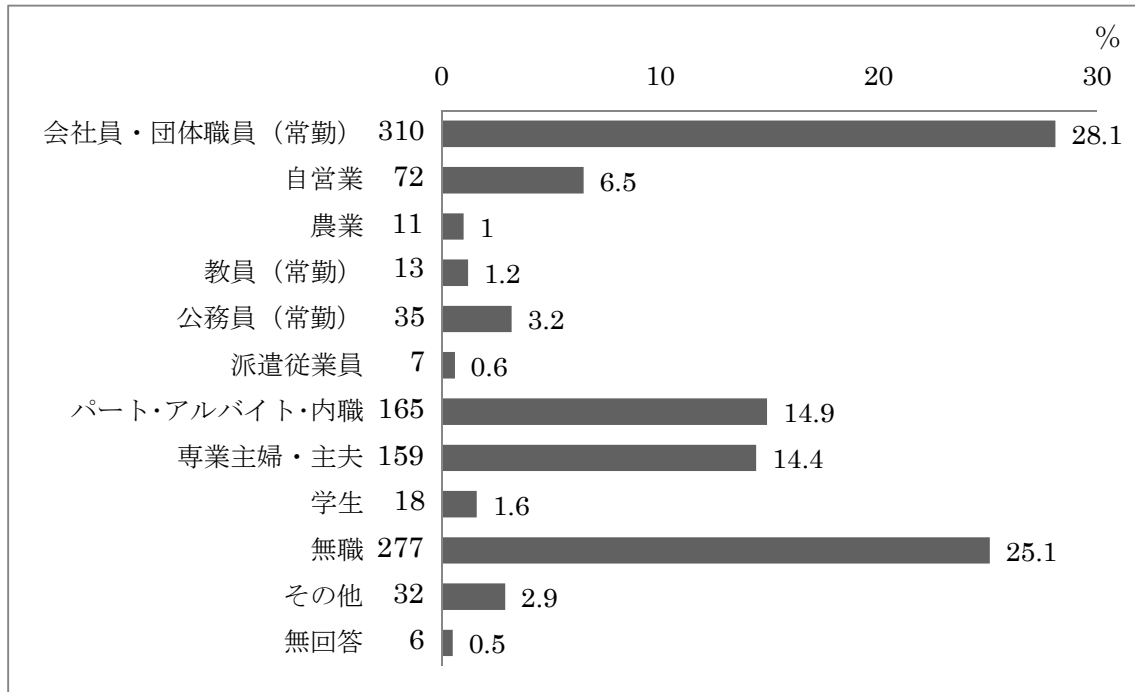
(5) 居住地区 (中学校区)

N=1105



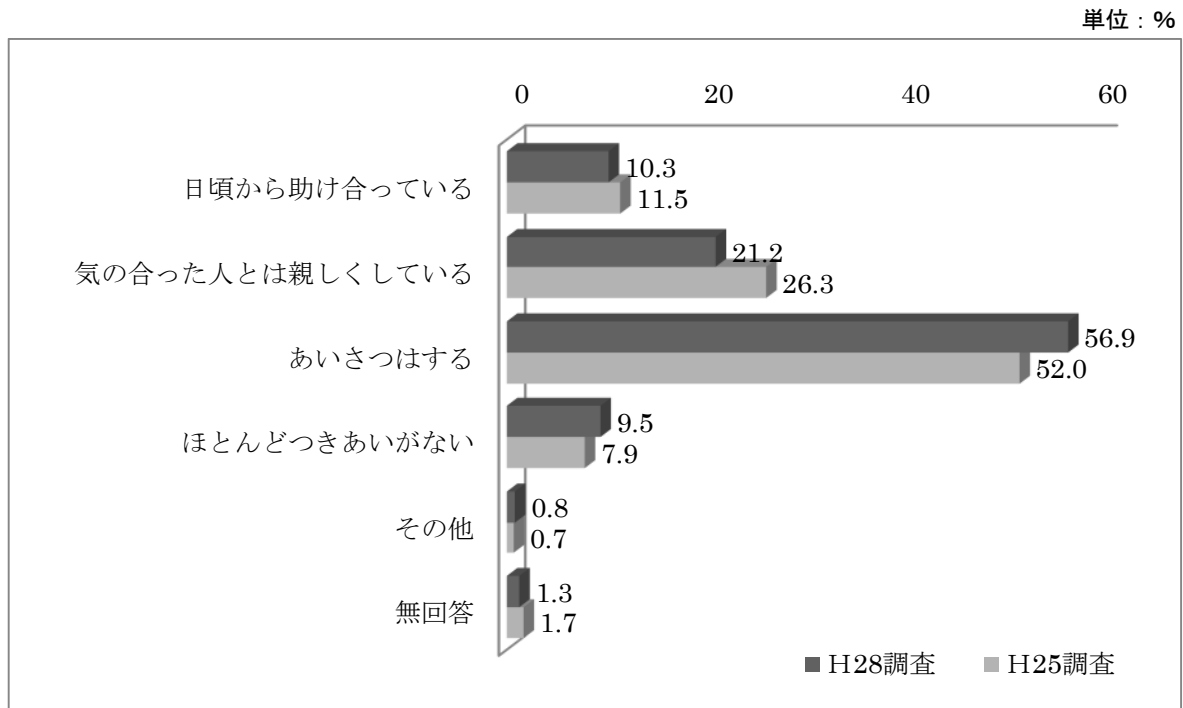
(6) 職業

N=1105



2 日常生活について

問7 近隣の人とは、どの程度付き合いをしていますか。(1つの番号に○)



近隣の人との付き合いの程度については、「あいさつはする」の割合が 56.9%と最も高く、次いで「気の合った人とは親しくしている」の割合が 21.2%、「日頃から助け合っている」の割合が 10.3%となっています。

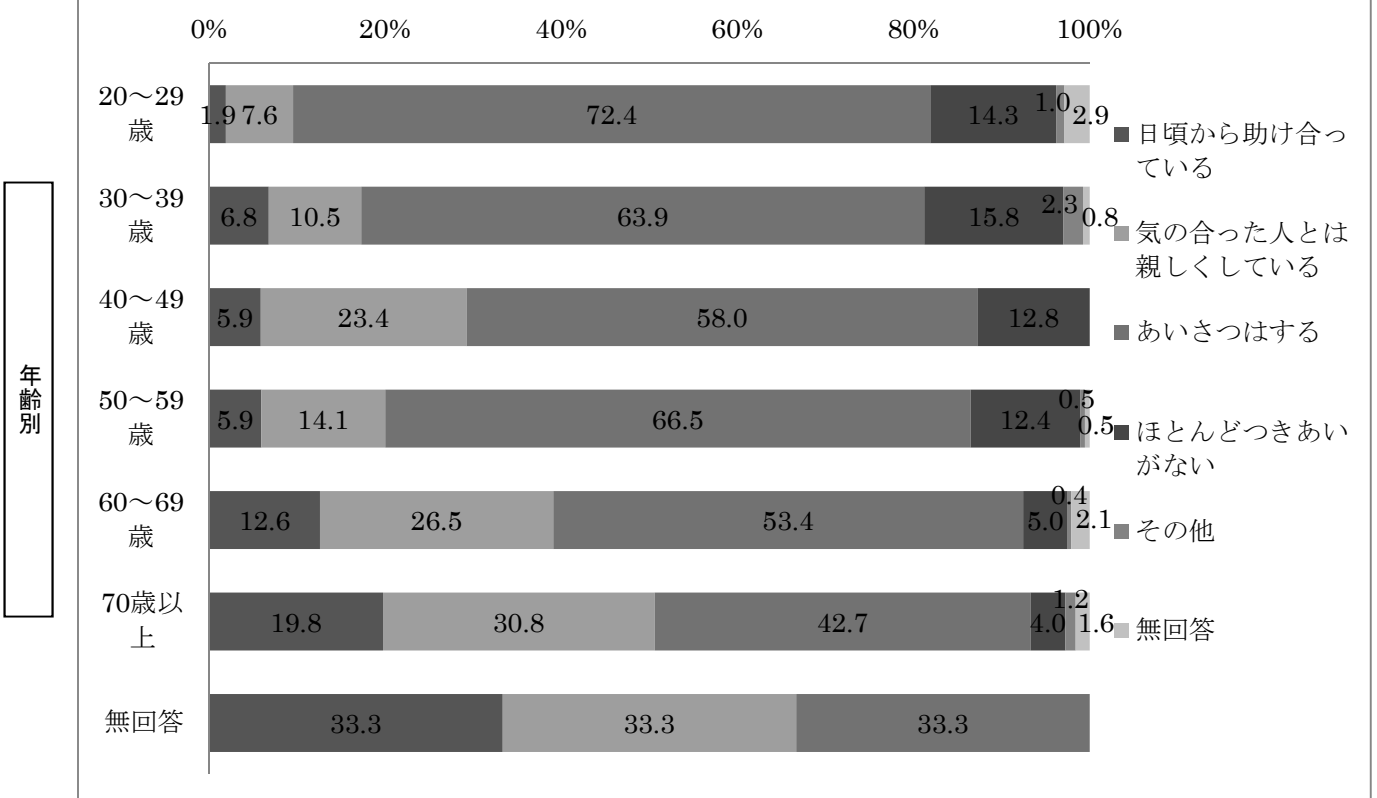
年齢別でみると、年齢が上がるにつれ、「日頃から助け合っている」「気の合った人とは親しくしている」の割合が高くなる傾向がみられます。一方で、他の年齢に比べ、20～29歳で「あいさつはする」の割合が高く、7割以上となっています。

世帯の状況別でみると、他の世帯状況に比べ、子育てをしている世帯で「日頃から助け合っている」「気の合った人とは親しくしている」の割合が低くなっています。

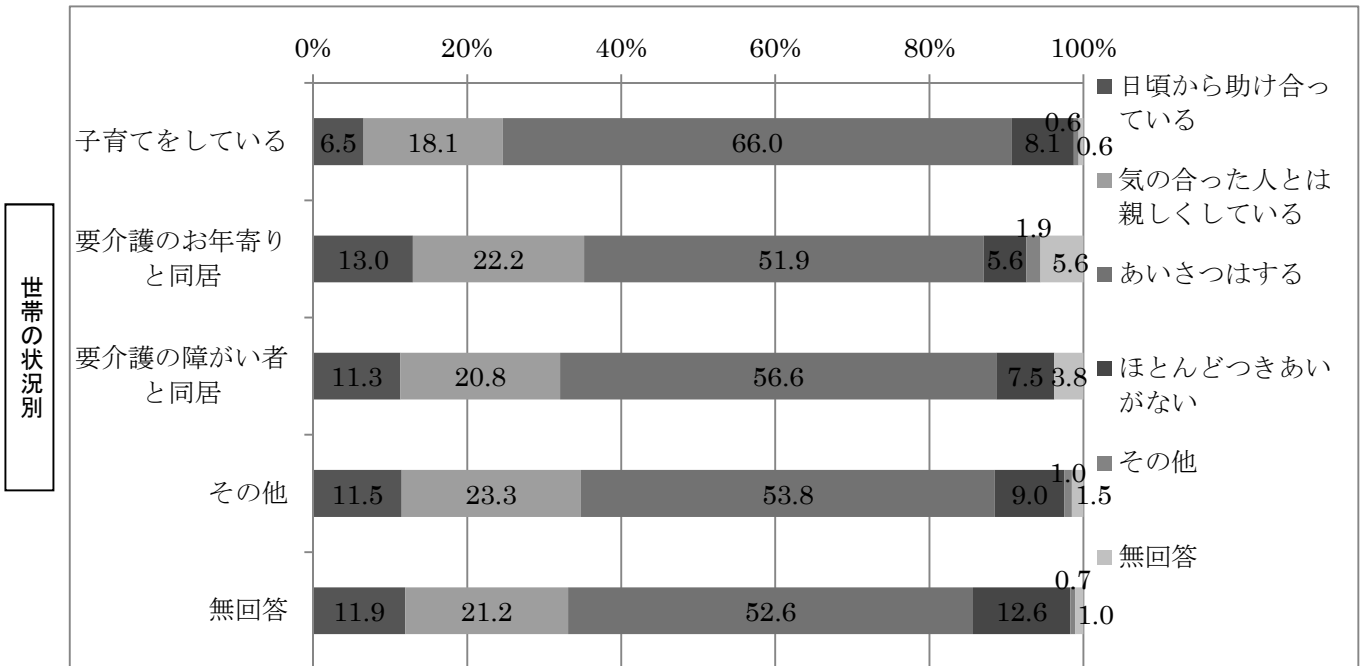
居住地区別でみると、他の地区に比べ、成岩地区で「日頃から助け合っている」の割合が低く、1割未満となっています。

◆「あいさつはする」程度の付き合いが最も多く、年齢が上がるにつれ、付き合いの程度が深くなる傾向があります。前回調査と同様の傾向です。

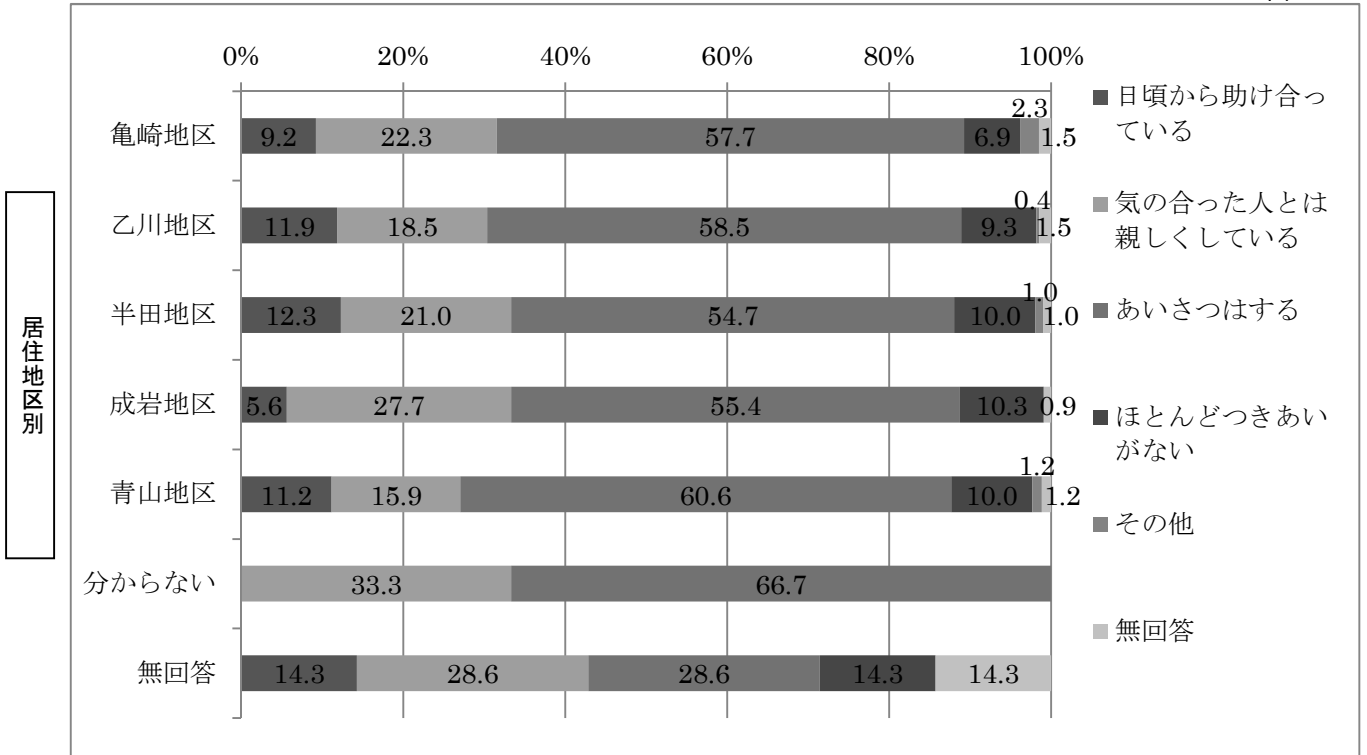
単位：%



単位：%

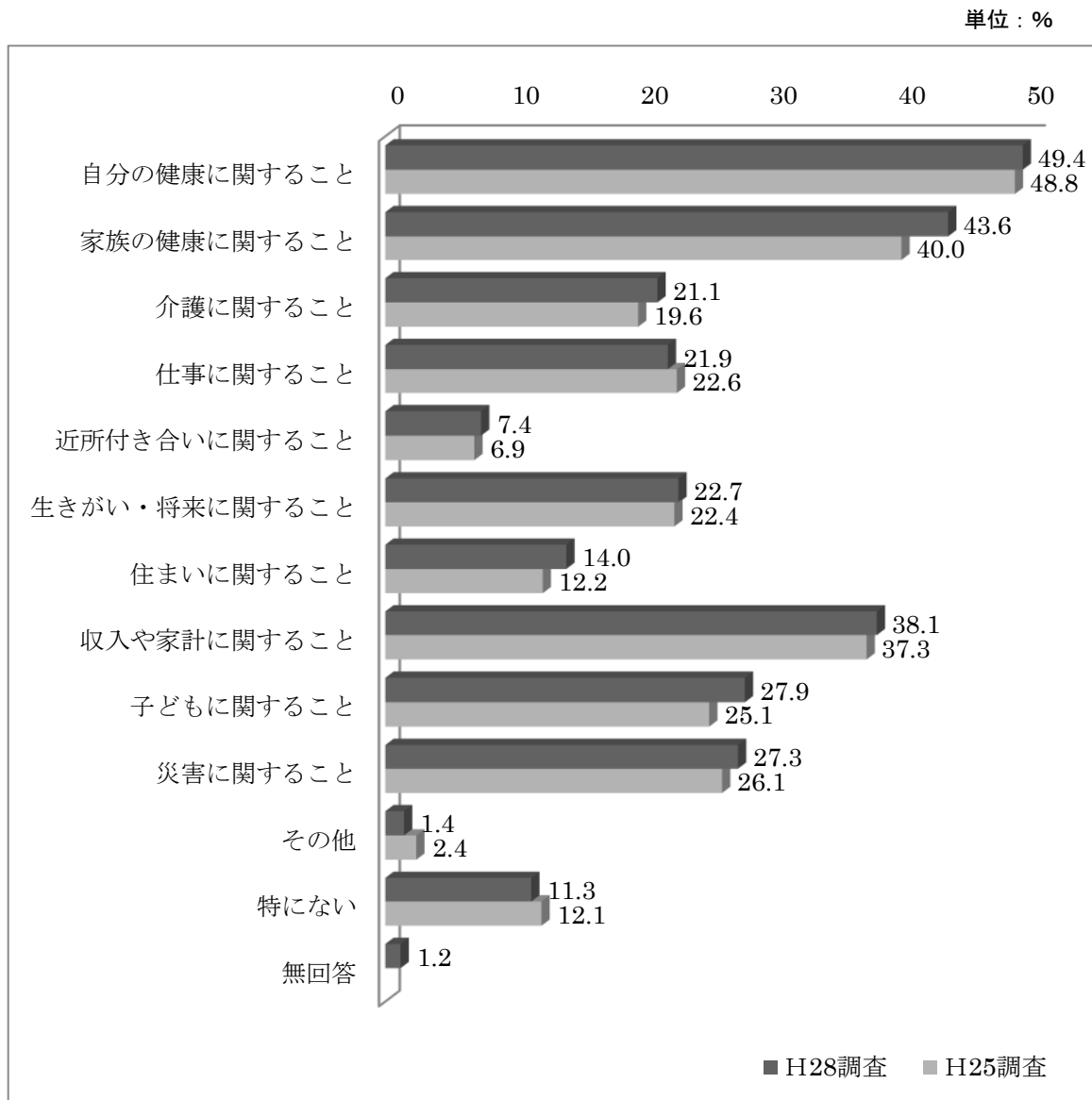


単位：%



問8 あなたは、ふだんの暮らしの中で、どのような悩みや不安を感じていますか。

(あてはまるすべての番号に○)



ふだんの暮らしの中で感じている悩みや不安については、「自分の健康に関する事」の割合が49.4%と最も高く、次いで「家族の健康に関する事」の割合が43.6%、「収入や家計に関する事」の割合が38.1%となっています。

年齢別でみると、他の年齢に比べ、20～29歳で「仕事に関する事」「近所付き合いに関する事」「生きがい・将来に関する事」の割合が、30～39歳で「住まいに関する事」「子どもに関する事」「災害に関する事」の割合が高くなっています。また、40～49歳で「収入や家計に関する事」の割合が、60～69歳で「家族の健康に関する事」の割合が高くなっています。

◆全体的に、「健康と収入・家計に関する事」に不安を感じており、その中でも年齢が上がれば「健康に関する事」、若い世代は「収入や家計、仕事に関する事」に不安を多く感じています。前回調査と同様の傾向です。

単位：%

		自分の健康に関するこ と	家族の健康に関するこ と	介護に関すること	仕事に関すること	近所付き合いに関する こと	生きがい・将来に関する こと	住まいに関すること	収入や家計に関するこ と	子どもに関すること	災害に関すること	その他	特にな い	無回 答
年齢別	20～29 歳	30.5	34.3	8.6	41.0	11.4	32.4	16.2	46.7	25.7	30.5	2.9	11.4	1.0
	30～39 歳	32.3	38.3	12.0	32.3	9.8	27.1	25.6	43.6	48.9	32.3	3.0	11.3	2.3
	40～49 歳	44.7	46.3	25.5	34.6	6.4	25.0	16.0	52.1	47.3	30.9	2.1	6.9	0.5
	50～59 歳	48.6	47.0	31.9	33.0	8.1	30.3	17.8	44.3	30.8	26.5	1.1	8.6	0.5
	60～69 歳	55.5	47.5	18.9	8.8	7.1	16.8	9.7	35.7	16.8	21.8	0.4	13.9	0.4
	70 歳以上	65.2	42.3	22.1	3.6	5.1	15.0	7.1	19.4	11.5	26.5	0.8	13.8	2.0
	無回答	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	33.3	33.3

問9 あなたは困ったことがあるとき、誰に相談していますか。(あてはまるすべての番号に○)

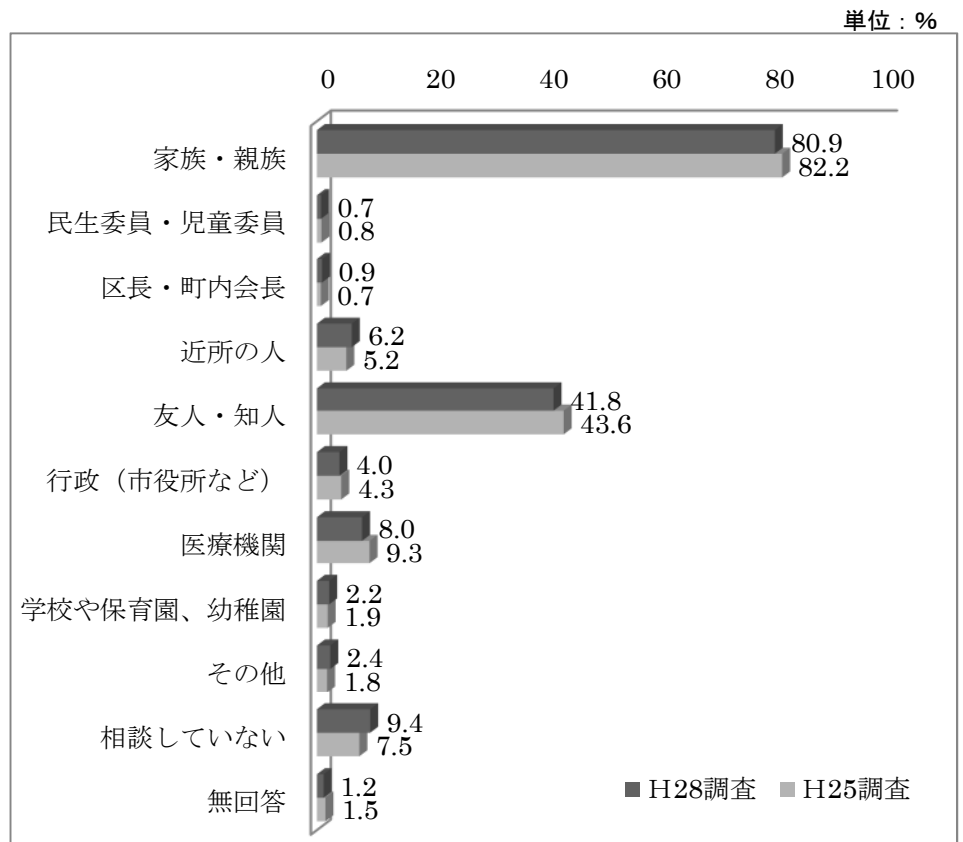
困ったときの相談相手については、「家族・親族」の割合が80.9%と最も高く、次いで「友人・知人」の割合が41.8%となっています。

年齢別でみると、年齢が下がるにつれ、「友人・知人」の割合が高くなっています。一方で、他の年齢に比べ、70歳以上で「相談していない」の割合が高くなっています。

世帯の状況別でみると、他の世帯状況に比べ、子育てをしている世帯で「友人・知人」の割合が高く、5割以上となっています。また、介護が必要なお年寄り

と同居している世帯で「医療機関」の割合が高くなっています。一方で介護が必要な障がい者と同居している世帯で「相談していない」の割合が高くなっています。

◆「家族・親族」、「友人・知人」を相談相手とする人が多く、年齢が上がるにつれ、相談をしない傾向があります。前回調査と同様の傾向です。



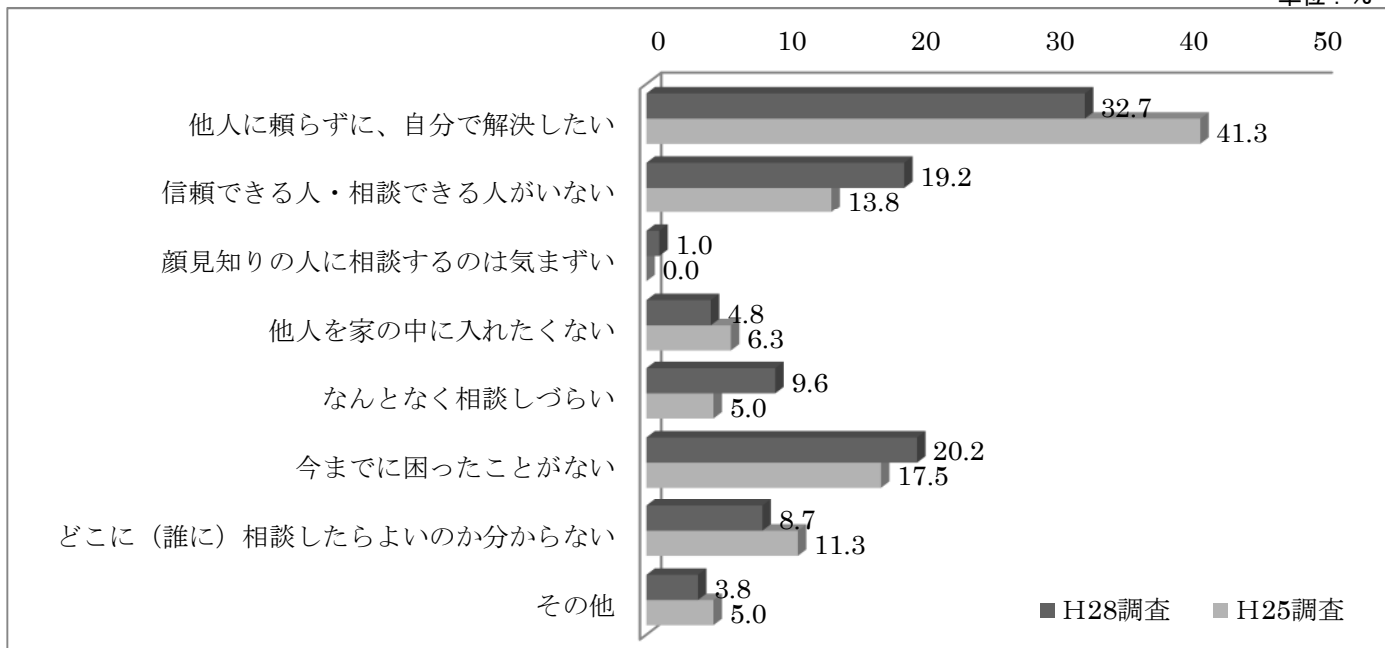
単位：%

		家族・親族	民生委員・児童委員	区長・町内会長	近所の人	友人・知人	行政(市役所など)	医療機関	園学校や保育園、幼稚園	その他	相談していない	無回答
年齢別	20～29歳	84.8	1.0	0.0	0.0	61.0	2.9	4.8	3.8	1.9	7.6	0.0
	30～39歳	87.2	0.0	0.0	6.8	53.4	2.3	6.8	8.3	2.3	8.3	0.0
	40～49歳	87.2	0.0	0.0	4.3	48.4	3.2	4.8	4.8	2.1	6.4	0.5
	50～59歳	77.3	1.6	1.1	4.9	47.0	3.2	8.6	0.0	4.3	9.7	2.2
	60～69歳	79.4	0.0	1.3	7.6	34.5	3.8	9.2	0.0	2.5	8.8	0.4
	70歳以上	75.1	1.6	2.0	9.1	25.7	6.7	10.7	0.0	1.2	13.4	2.8
	無回答	100	0.0	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問9で「相談していない」と答えた方にお聞きします。

問9-1 なぜ、相談していないのですか。(1つの番号に○)

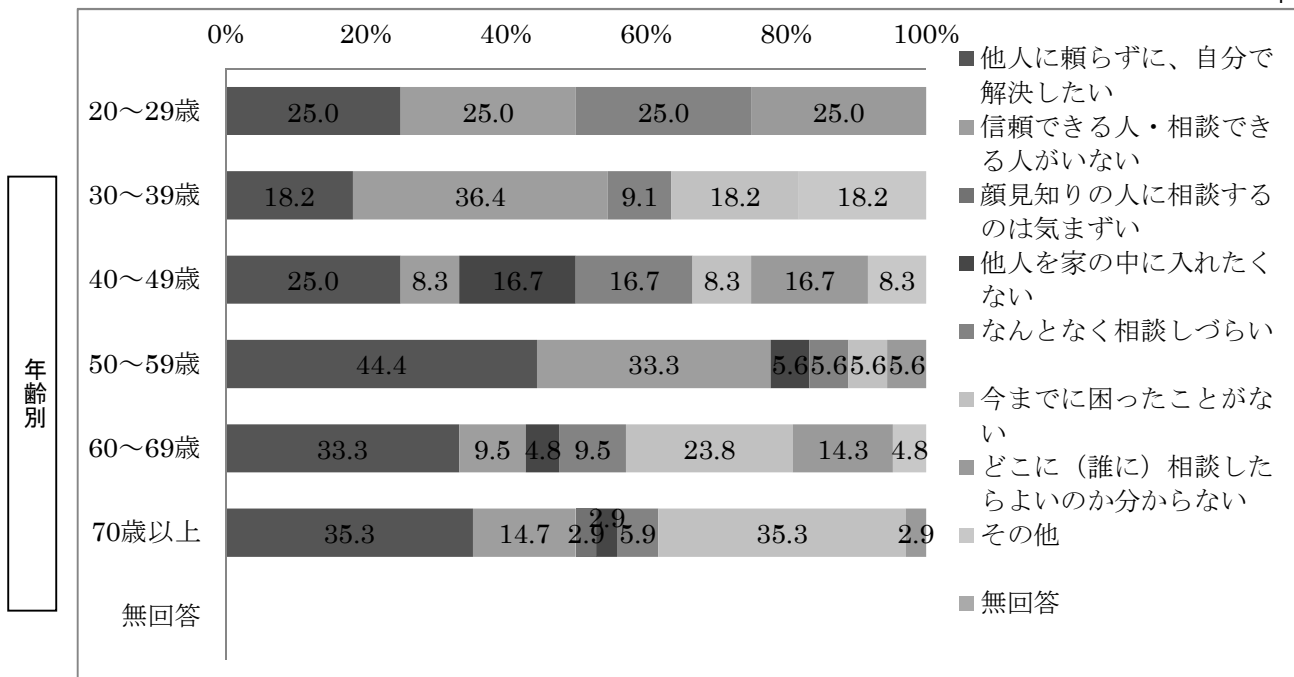
単位：%



相談していない理由については、「他人に頼らずに、自分で解決したい」の割合が32.7%と最も高く、次いで「今までに困ったことがない」の割合が20.2%、「信頼できる人・相談できる人がいない」の割合が19.2%となっています。

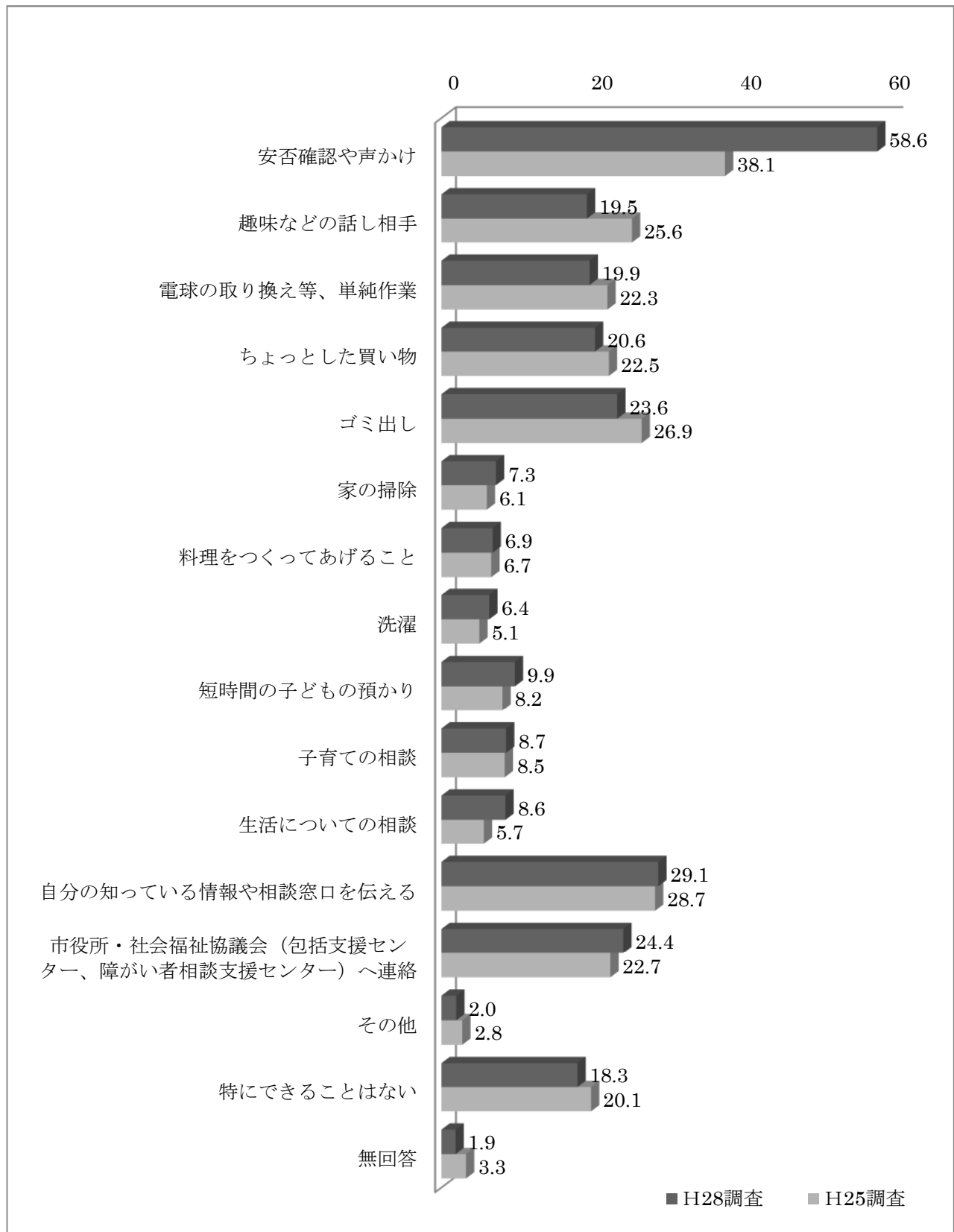
年齢別で見ると、他の年齢に比べ、30～39歳で「信頼できる人・相談できる人がいない」の割合が、50～59歳で「他人に頼らずに、自分で解決したい」の割合が高くなっています。また、60～69歳、70歳以上で「今まで困ったことがない」の割合が高くなっています。

◆50代以上で「他人に頼らずに、自分で解決したい」人が多く、前回の調査と比べると「信頼できる人・相談できる人がいない」、「相談しづらい」が増加しています。 単位：%



問 10 近所に困っている方がいるとき、あなたがしてあげられることは何ですか。(あてはまるすべての番号に○)

単位：%



近所に困っている方がいるとき、してあげられることについては、「安否確認と声かけ」の割合が58.6%と最も高く、3年前と比較すると約20%高くなっています。次いで「情報や相談窓口を伝える」の割合が29.1%、「市役所・社会福祉協議会へ連絡」の割合が24.4%となっています。

年齢別でみると、他の年齢に比べ、20～39歳で「趣味などの話し相手」の割合が、30～39歳で「子育ての相談」、40～59歳で「情報や相談窓口を伝える」の割合が、50～59歳で「安否確認や声かけ」、50歳以上で「ゴミ出し」の割合が高くなっています。

居住地区別でみると、他の地区に比べ、亀崎地区で「安否確認と声かけ」の割合が高く、6割以上となっています。また、乙川地区で「ゴミ出し」、「情報や相談窓口を伝える」の割合が高くなっています。

◆「安否確認や声かけ」、「自分の知っている情報や相談窓口を伝える」ことなど、簡単なことならできると思っている人が多い傾向にあります。また、前回調査と比べると、「安否確認や声かけ」ができるという人が大幅に増加しています。

単位：%

		安否確認や声かけ	趣味などの話し相手	電球の取り換え等、単純作業	ちよつとした買い物	ゴミ出し	家の掃除	料理をつくってあげる事	洗濯	短時間の子どもの預かり	子育ての相談	生活についての相談	自分の知っている情報や相談窓口を伝える	市役所・社会福祉協議会（包括支援センター、障がい者相談支援センター）へ連絡	その他	特にできることはない	無回答
年齢別	20～29歳	55.2	30.5	21.0	14.3	20.0	5.7	4.8	4.8	11.4	13.3	17.1	23.8	21.0	2.9	21.0	0.0
	30～39歳	58.6	23.3	25.6	18.8	19.5	8.3	10.5	11.3	16.5	18.8	12.0	34.6	26.3	2.3	18.0	0.0
	40～49歳	61.2	19.1	25.5	19.7	19.1	5.9	3.7	5.3	14.4	11.2	5.9	36.7	26.6	0.5	16.0	0.0
	50～59歳	63.2	15.1	20.5	22.7	26.5	7.6	5.9	7.0	8.1	10.8	9.2	41.1	33.5	2.2	16.2	1.1
	60～69歳	56.7	17.2	15.5	23.5	26.5	10.5	9.7	7.6	8.8	5.0	6.3	25.6	18.9	2.5	16.8	3.4
	70歳以上	56.1	18.6	15.8	20.6	25.7	5.1	5.9	3.6	4.3	1.2	6.7	17.4	21.7	2.0	21.7	4.3
	無回答	66.7	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0

単位：%

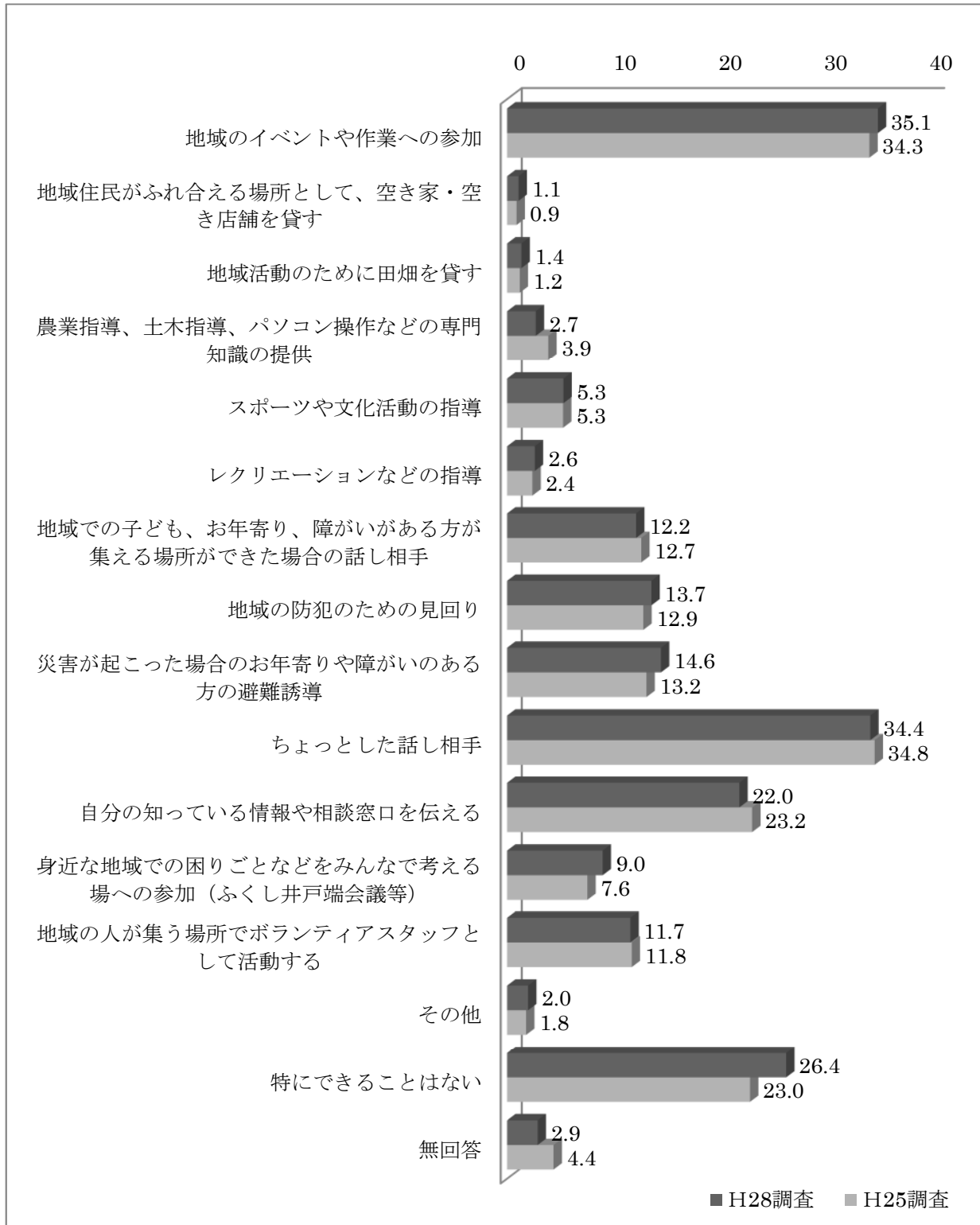
		安否確認や声かけ	趣味などの話し相手	電球の取り換え等、単純作業	ちよつとした買い物	ゴミ出し	家の掃除	料理をつくってあげること	洗濯	短時間の子どもの預かり	子育ての相談	生活についての相談	自分の知っている情報や相談窓口を伝える	市役所・社会福祉協議会（包括支援センター、障がい者相談支援センター）へ連絡	その他	特にできることはない	無回答
居住地区別	亀崎地区	67.7	20.0	25.4	23.1	24.6	10.8	10.0	7.7	11.5	8.5	7.7	29.2	27.7	2.3	14.6	2.3
	乙川地区	59.6	19.3	18.9	23.3	28.1	8.9	5.9	7.0	11.5	11.1	10.0	28.9	24.1	1.5	15.6	3.3
	半田地区	61.2	22.0	19.4	19.4	23.9	6.5	8.1	5.5	10.4	7.4	8.7	29.4	23.9	1.9	16.5	1.6
	成岩地区	52.6	16.9	17.8	18.8	19.2	5.6	5.6	5.2	8.9	9.4	6.1	30.5	22.5	2.3	23.9	1.4
	青山地区	52.9	17.1	20.0	20.0	21.8	5.3	4.7	7.1	5.9	6.5	9.4	27.1	25.3	2.4	20.6	0.6
	分からない	66.7	50.0	16.7	0.0	0.0	16.7	16.7	16.7	0.0	0.0	16.7	33.3	50.0	0.0	16.7	0.0
	無回答	42.9	28.6	42.9	14.3	14.3	14.3	14.3	14.3	28.6	14.3	14.3	28.6	14.3	0.0	42.9	0.0

単位：%

		安否確認や声かけ	趣味などの話し相手	電球の取り換え等、単純作業	ちよつとした買い物	ゴミ出し	家の掃除	料理をつくってあげること	洗濯	短時間の子どもの預かり	子育ての相談	生活についての相談	自分の知っている情報や相談窓口を伝える	市役所・社会福祉協議会（包括支援センター、障がい者相談支援センター）へ連絡	その他	特にできることはない	無回答
世帯状況別	子育てをしている	66.7	23.7	24.9	21.5	22.1	6.5	4.4	7.2	17.1	20.9	13.1	38.6	26.5	1.2	10.9	0.0
	要介護のお年寄りと同居	61.1	11.1	11.1	18.5	29.6	3.7	11.1	1.9	13.0	1.9	9.3	35.2	22.2	0.0	9.3	9.3
	要介護の障がい者と同居	52.8	22.6	18.9	22.6	18.9	1.9	5.7	1.9	3.8	1.9	7.5	30.2	22.6	1.9	22.6	0.0
	その他	54.9	18.0	16.3	20.1	22.8	7.8	8.3	6.3	7.0	4.5	7.0	27.1	25.8	4.0	22.3	2.0
	無回答	56.0	17.7	21.8	20.1	25.3	8.9	6.8	7.2	6.1	3.1	6.5	21.5	21.5	0.3	21.2	2.7

問 11 あなたは、今後どのようなことで地域に貢献できると思いますか。
 (あてはまるすべての番号に○)

単位：%



今後どのようなことで地域に貢献できると思うかについては、「地域のイベントや作業への参加」割合が 35.1%と最も高く、次いで「ちょっとした話し相手」の割合が 34.4%、「特にできることはない」の割合が 26.4%となっています。

年齢別でみると、他の年齢に比べ、20～29歳で「スポーツや文化活動の指導」の割合が高くなっています。また、50～59歳で「身近な地域での困りごとをみんなで考える場への参加」の割合が高くなっています。一方で、70歳以上で「特にできることはない」の割合が高く、3割以上となっています。

居住地区別でみると、他の地区に比べ、青山地区で「ちょっとした話し相手」の割合が高くなっています。一方で、成岩地区で「特にできることはない」の割合が高くなっています。

◆「地域のイベントや作業への参加」、「ちょっとした話し相手」など、身近なところで誰かのためにできることがあると思っっている人が多い傾向にあります。一方で、「特にできることはない」と思っている人も多く、特に要介護のお年寄り・障がい者と同居の方が多くなっている。

単位：%

		地域のイベントや作業への参加	地域住民がふれ合える場所として、空き家・空き店舗を貸す	地域活動のために田畑を貸す	専門知識の提供	農業指導、土木指導、パソコン操作などの	スポーツや文化活動の指導	レクリエーションなどの指導	地域での子ども、お年寄り、障がいがある方が集える場所ができた場合の話し相手	地域の防犯のための見回り	災害が起こった場合のお年寄りや障がいのある方の避難誘導	ちょっとした話し相手	自分の知っている情報や相談窓口を伝える	身近な地域での困りごとなどをみんなで考える場への参加（ふくし井戸端会議等）	フとして活動する	地域の人が集う場所でボランティアスタッフ	その他	特にできることはない	無回答
年齢別	20～29歳	31.4	1.9	1.0	5.7	13.3	6.7	16.2	10.5	16.2	38.1	20.0	4.8	13.3	3.8	25.7	1.0		
	30～39歳	41.4	0.8	1.5	2.3	2.3	3.0	15.0	13.5	15.8	33.1	24.1	9.8	15.8	0.8	27.8	0.0		
	40～49歳	36.2	0.0	0.5	1.6	6.4	2.1	9.0	12.8	16.0	23.9	26.6	6.4	9.0	1.6	26.6	3.2		
	50～59歳	37.3	1.6	2.7	4.3	7.0	4.9	16.8	16.2	19.5	34.1	31.4	11.4	18.4	3.8	22.7	1.6		
	60～69歳	34.0	0.4	1.7	2.9	3.4	1.3	11.8	13.9	8.4	37.4	16.0	8.4	9.7	2.1	24.8	3.4		
	70歳以上	32.0	1.6	0.8	1.2	3.2	0.8	8.3	13.8	14.6	38.3	17.0	11.1	7.5	0.8	30.4	5.5		
	無回答	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	66.7	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0		

単位：%

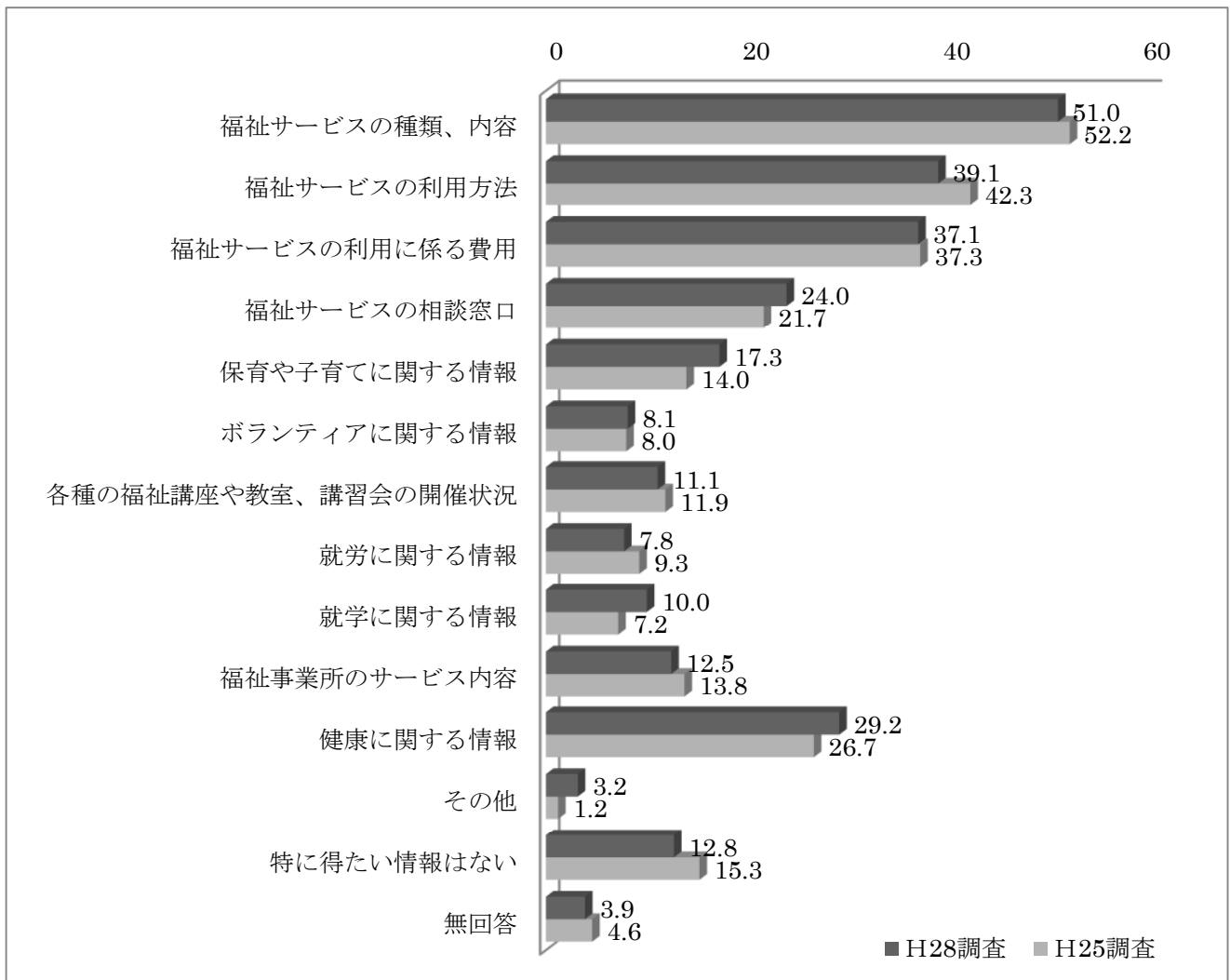
		地域のイベントや作業への参加	地域住民がふれ合える場所として、空き家・空き店舗を貸す	地域活動のために田畑を貸す	農業指導、土木指導、パソコン操作などの専門知識の提供	スポーツや文化活動の指導	レクリエーションなどの指導	地域での子ども、お年寄り、障がいがある方が集える場所ができた場合の話し相手	地域の防犯のための見回り	災害が起こった場合のお年寄りや障がいのある方の避難誘導	ちよつとした話し相手	自分の知っている情報や相談窓口を伝える	身近な地域での困りごとなどをみんなで考える場への参加（ふくし井戸端会議等）	地域の人が集う場所でボランティアスタッフとして活動する	その他	特にできることはない	無回答
居住地区別	亀崎地区	36.9	1.5	0.0	5.4	7.7	2.3	10.8	15.4	13.1	30.0	20.8	7.7	13.8	0.8	22.3	6.2
	乙川地区	40.0	2.2	3.0	4.4	5.9	2.6	10.7	15.6	16.3	34.1	24.4	7.4	13.0	3.0	26.3	3.0
	半田地区	35.9	1.0	1.9	2.6	5.2	1.9	14.2	15.2	16.2	35.9	20.1	10.4	11.7	1.3	23.0	2.6
	成岩地区	29.1	0.0	0.5	0.9	4.7	3.8	12.7	7.5	12.7	30.0	22.5	8.9	11.3	2.8	31.9	2.3
	青山地区	31.8	0.0	0.0	0.6	3.5	2.4	11.2	13.5	12.9	38.8	21.8	10.0	8.2	1.8	28.2	1.8
	分からない	50.0	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	16.7	33.3	16.7	66.7	33.3	16.7	16.7	0.0	16.7	0.0
	無回答	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	14.3	0.0	57.1	14.3	14.3	14.3	0.0	57.1	0.0

単位：%

		地域のイベントや作業への参加	地域住民がふれ合える場所として、空き家・空き店舗を貸す	地域活動のために田畑を貸す	農業指導、土木指導、パソコン操作などの専門知識の提供	スポーツや文化活動の指導	レクリエーションなどの指導	地域での子ども、お年寄り、障がいがある方が集える場所ができた場合の話し相手	地域の防犯のための見回り	災害が起こった場合のお年寄りや障がいのある方の避難誘導	ちよつとした話し相手	自分の知っている情報や相談窓口を伝える	身近な地域での困りごとなどをみんなで考える場への参加（ふくし井戸端会議等）	地域の人が集う場所でボランティアスタッフとして活動する	その他	特にできることはない	無回答
世帯状況別	子育てをしている	42.7	1.2	1.6	2.8	6.9	3.1	14.3	15.3	17.8	34.9	26.2	9.0	14.0	0.9	18.4	1.6
	要介護のお年寄りと同居	35.2	0.0	3.7	0.0	9.3	3.7	11.1	7.4	9.3	25.9	20.4	3.7	9.3	1.9	27.8	3.7
	要介護の障がい者と同居	22.6	0.0	1.9	0.0	1.9	1.9	11.3	7.5	18.9	37.7	28.3	1.9	7.5	1.9	35.8	1.9
	その他	34.1	1.0	1.8	2.5	5.3	3.0	11.8	14.0	13.3	31.3	23.3	11.8	11.5	2.8	29.1	2.3
	無回答	30.7	1.7	0.3	3.8	3.8	1.4	10.9	14.0	13.0	39.6	16.7	7.5	10.6	2.0	29.4	5.1

問 12 あなたは福祉に関してどのような情報を得たいですか。(あてはまるすべての番号に○)

単位：％



福祉に関して得たい情報については、「福祉サービスの種類、内容」の割合が51.0%と最も高く、次いで「福祉サービスの利用方法」の割合が39.1%、「福祉サービスの利用に係る費用」の割合が37.1%となっています。

年齢別でみると、他の年齢に比べ、20～39歳で「保育や子育てに関する情報」「就労・就学に関する情報」の割合が高くなっています。また、50～69歳で「福祉サービスの種類、内容」「福祉サービスの利用方法」「福祉サービスの利用に係る費用」「福祉サービスの相談窓口」の割合が高くなっています。

居住地区別でみると、他の地区に比べ、亀崎地区、乙川地区で「福祉サービスの利用に係る費用」の割合が、半田地区で「各種の福祉講座や教室、講習会の開催状況」の割合が高くなっています。

◆福祉サービスに関する情報を知りたいと思っている人が多い傾向にあります。前回調査と同様の傾向です。

単位：％

		福祉サービスの種類、内容	福祉サービスの利用方法	福祉サービスの利用に係る費用	福祉サービスの相談窓口	保育や子育てに関する情報	ボランティアに関する情報	各種の福祉講座や教室、講習会の開催状況	就労に関する情報	就学に関する情報	福祉事業所のサービス内容	健康に関する情報	その他	特に得たい情報はない	無回答
年齢別	20～29歳	40.0	26.7	23.8	14.3	44.8	11.4	8.6	15.2	16.2	9.5	26.7	3.8	15.2	1.0
	30～39歳	46.6	30.8	31.6	19.5	57.9	13.5	17.3	18.0	33.8	9.0	30.1	4.5	9.8	0.8
	40～49歳	52.1	34.6	38.3	22.3	22.3	6.4	12.2	8.5	21.3	12.2	35.6	3.2	13.3	0.5
	50～59歳	58.4	48.6	45.9	33.0	7.0	13.0	13.0	10.3	3.8	16.8	24.9	4.9	11.4	1.6
	60～69歳	55.9	46.2	41.2	27.3	4.2	4.2	9.7	2.9	0.8	12.6	27.3	2.5	11.8	3.4
	70歳以上	47.8	38.7	34.8	22.1	0.4	5.5	8.3	1.6	0.0	12.6	29.6	1.6	15.0	11.1
	無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	33.3

単位：％

		福祉サービスの種類、内容	福祉サービスの利用方法	福祉サービスの利用に係る費用	福祉サービスの相談窓口	保育や子育てに関する情報	ボランティアに関する情報	各種の福祉講座や教室、講習会の開催状況	就労に関する情報	就学に関する情報	福祉事業所のサービス内容	健康に関する情報	その他	特に得たい情報はない	無回答
居住地区別	亀崎地区	51.5	41.5	40.8	23.1	16.9	7.7	10.8	4.6	7.7	10.8	30.8	3.8	12.3	3.1
	乙川地区	57.4	44.8	39.3	27.8	18.1	8.5	10.4	8.5	11.1	13.7	30.0	1.9	14.8	4.1
	半田地区	51.8	39.5	35.6	23.3	17.5	9.7	14.2	8.4	9.4	12.6	28.8	1.6	9.7	3.6
	成岩地区	46.5	32.9	35.2	21.1	16.4	8.9	8.9	6.6	9.9	12.2	26.8	5.2	14.1	4.7
	青山地区	45.3	35.9	35.9	22.9	17.6	4.1	9.4	9.4	11.8	12.4	28.2	4.7	13.5	3.5
	分からない	50.0	33.3	50.0	50.0	16.7	16.7	33.3	16.7	16.7	16.7	66.7	0.0	16.7	0.0
	無回答	42.9	28.6	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	57.1	14.3	14.3	14.3

単位：%

		福祉サービスの種類、内容	福祉サービスの利用方法	福祉サービスの利用に係る費用	福祉サービスの相談窓口	保育や子育てに関する情報	ボランティアに関する情報	各種の福祉講座や教室、講習会の開催状況	就労に関する情報	就学に関する情報	福祉事業所のサービス内容	健康に関する情報	その他	特に得たい情報はない	無回答
世帯状況別	子育てをしている	48.0	33.0	35.8	20.9	44.5	11.2	13.4	11.8	30.2	12.1	30.5	3.4	8.4	0.6
	要介護のお年寄りと同居	59.3	55.6	46.3	22.2	7.4	3.7	11.1	11.1	0.0	13.0	16.7	5.6	7.4	5.6
	要介護の障がい者と同居	52.8	49.1	52.8	32.1	9.4	5.7	9.4	5.7	9.4	26.4	24.5	1.9	11.3	5.7
	その他	52.9	41.4	35.3	25.3	5.5	7.8	11.5	6.0	0.8	12.8	34.1	3.8	14.8	3.3
	無回答	50.9	38.6	37.5	25.3	6.1	6.5	8.5	5.5	2.4	11.3	23.5	1.7	15.4	7.5

3 自治区やコミュニティなどの地域活動・ボランティア活動について

問 13 あなたは、自治区やコミュニティなどの地域活動に参加していますか。(1つの番号に○)

自治区やコミュニティなどの地域活動への参加状況については、「活動したことはなく、今後も活動しないと思う」の割合が42.2%と最も高く、次いで「活動している」の割合が21.3%、「現在は活動していないが、過去に活動したことがある」の割合が18.0%、「活動したことはないが、今後活動したい」の割合が16.3%、「活動したことはないが、今後も活動しないと思う」の割合が42.2%となっています。

年齢別でみると、他の年齢に比べ、70歳以上で「活動している」の割合が、50～59歳

で「現在は活動していないが、過去に活動したことがある」の割合が高くなっています。一方で、20～39歳で「活動している」「現在は活動していないが、過去に活動したことがある」といった活動経験のある人の割合が低い傾向となっています。また、20～29歳で「活動したことはなく、今後も活動しないと思う」の割合が高くなっています。

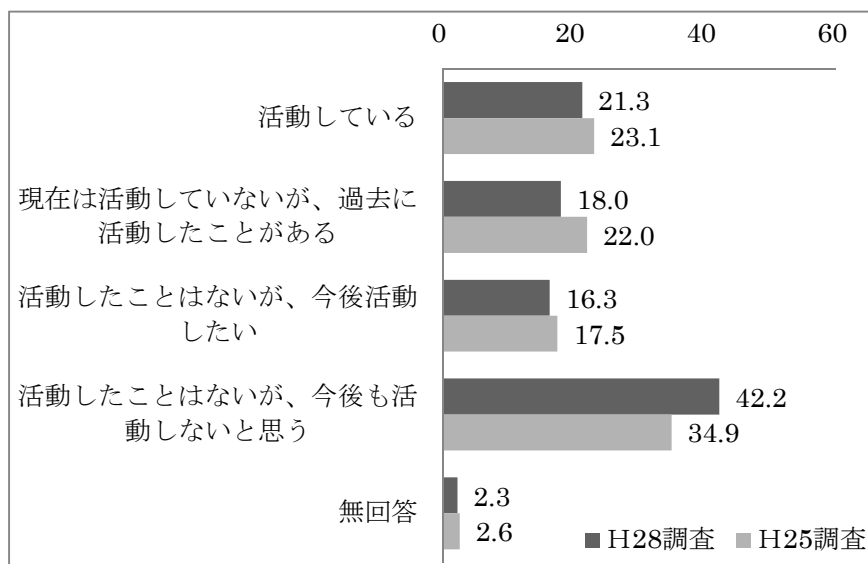
居住地区別でみると、他の地区に比べ、成岩地区で「活動している」の割合が低く、2割未満となっています。一方で、亀崎地区で「活動したことはないが、今後活動したい」の割合が高くなっています。

近所付き合いの程度別でみると、近所付き合いをしていない人ほど「活動している」「現在は活動していないが、過去に活動したことがある」の割合が低くなっています。また、他の近所付き合いの程度に比べ、ほとんど付き合いがない人で「活動したことはなく、今後も活動しないと思う」の割合が高く、約7割となっています。

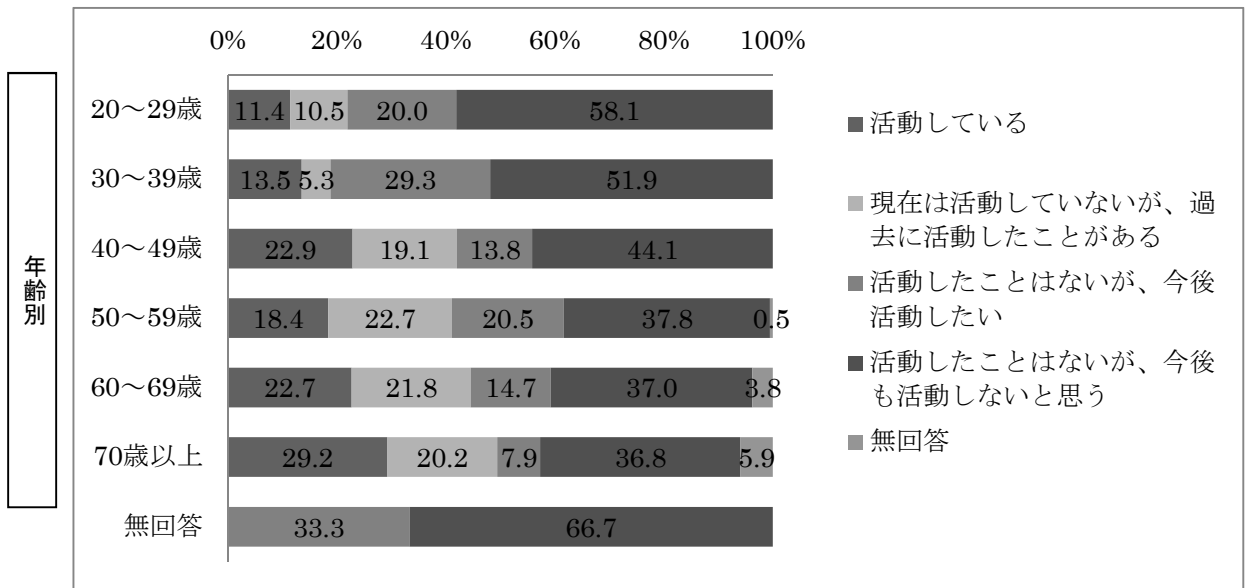
自由になる時間帯別でみると、他の時間帯に比べ、平日の午前、土曜日の午後、自由に時間がとれるで「活動している」の割合が、日曜・祝日の午後で「活動したことはないが、今後活動したい」の割合が高くなっています。一方で、平日の午後、日曜・祝日の夜間、自由になる時間がほとんどない人、自由に時間がとれる人で「活動したことはなく、今後も活動しないと思う」の割合が高くなっています。

◆若い年代・近所付き合いをしていない人ほど、「地域活動をしておらず、今後もするつもりがない」人が多い傾向にあります。また、前回調査と比較すると「活動したことはないが、今後も活動しないと思う」という人が増加しています。

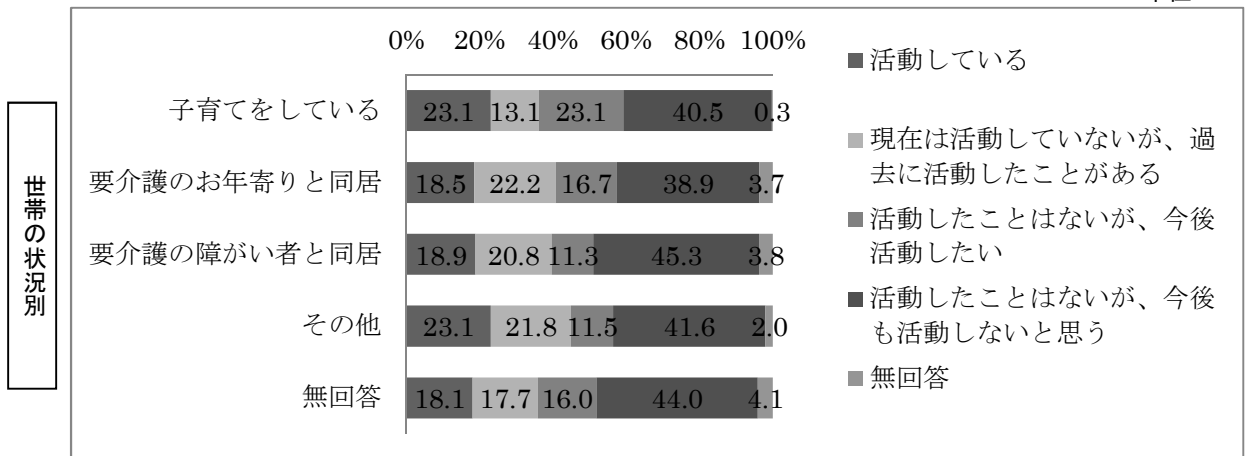
単位：%



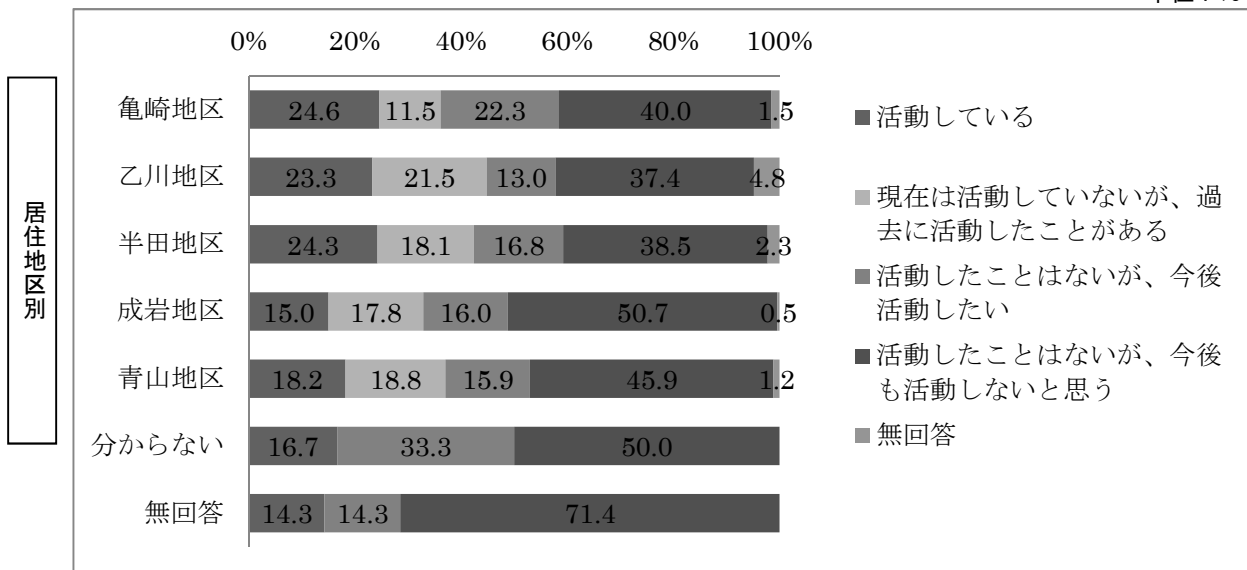
単位：%



単位：%

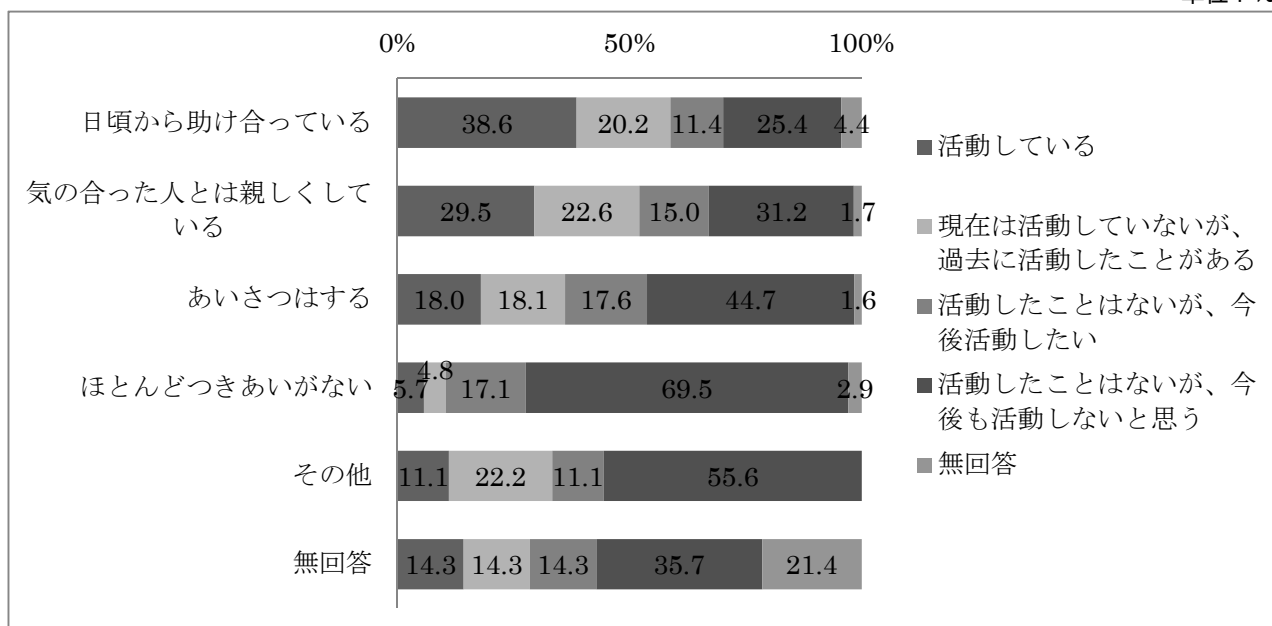


単位：%



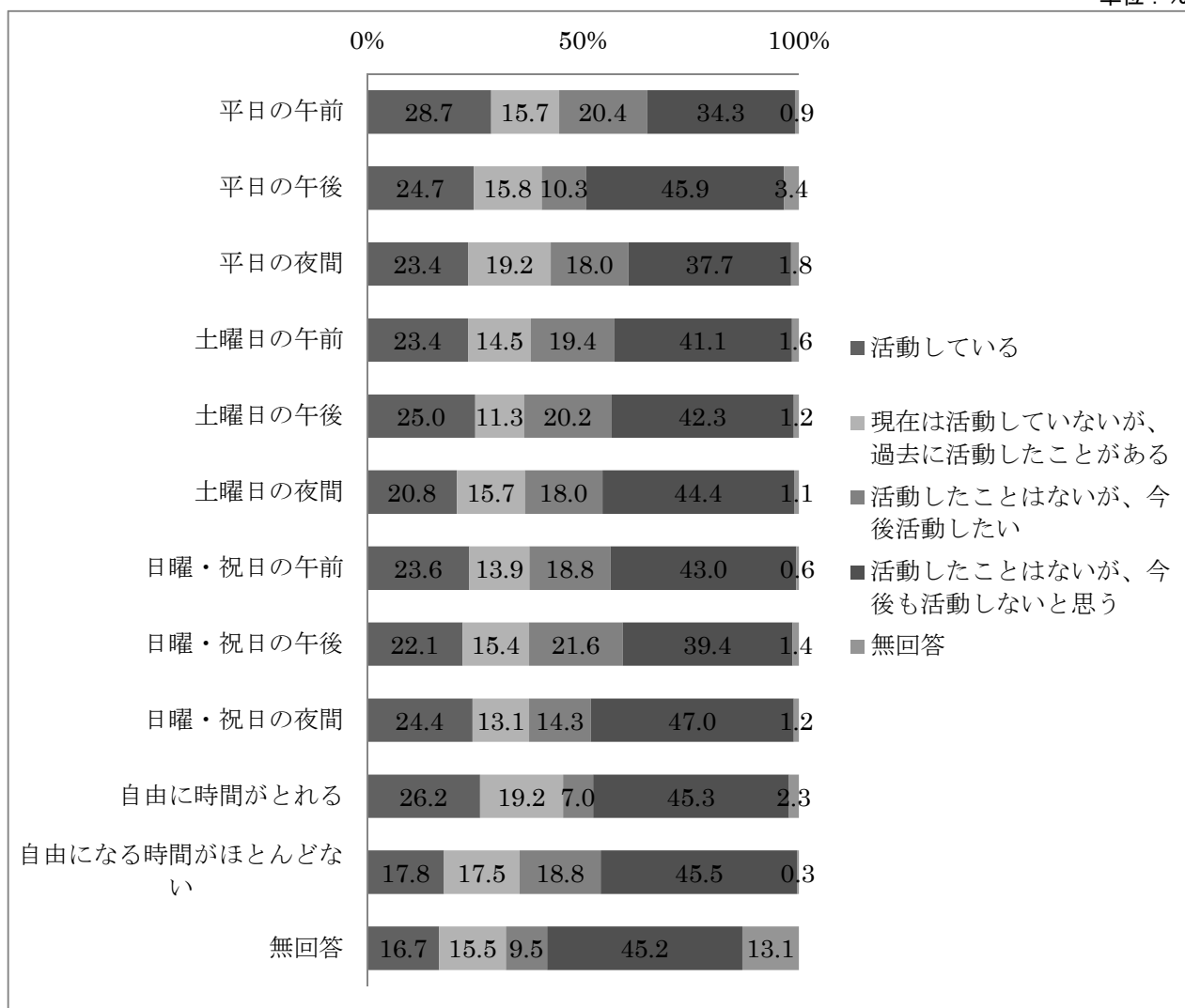
単位：%

近所付き合いの程度別



単位：%

自由になる時間帯別



問 13-1～3 は、問 13 で「活動している」と答えた方にお聞きします。

問 13-1 どの程度活動をしていますか。(1つの番号に○)

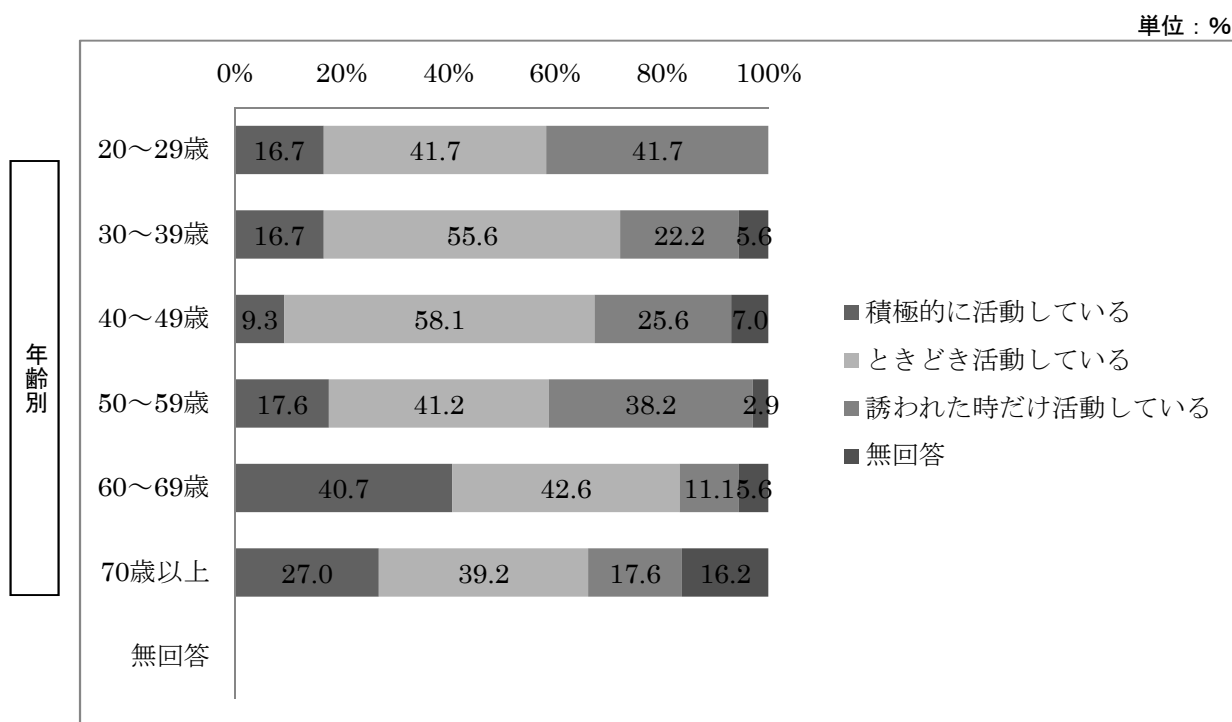
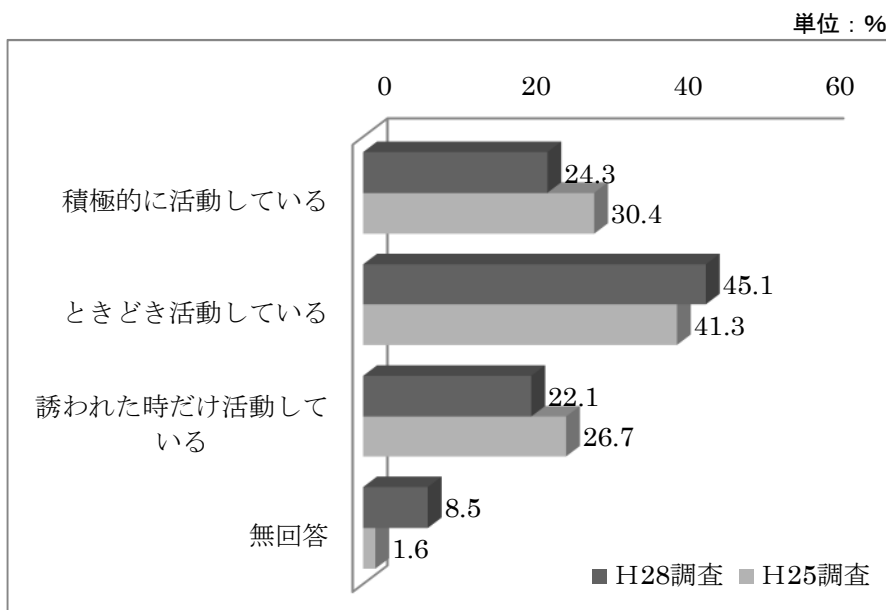
活動への参加程度については、「ときどき活動している」の割合が 45.1% と最も高く、次いで「積極的に活動している」が 24.3%、「誘われた時だけ活動している」の割合が 22.1%となっています。

年齢別で見ると、他の年齢に比べ、60 歳以上で「積極的に活動している」の割合が高く、4 割以上となっています。また、40

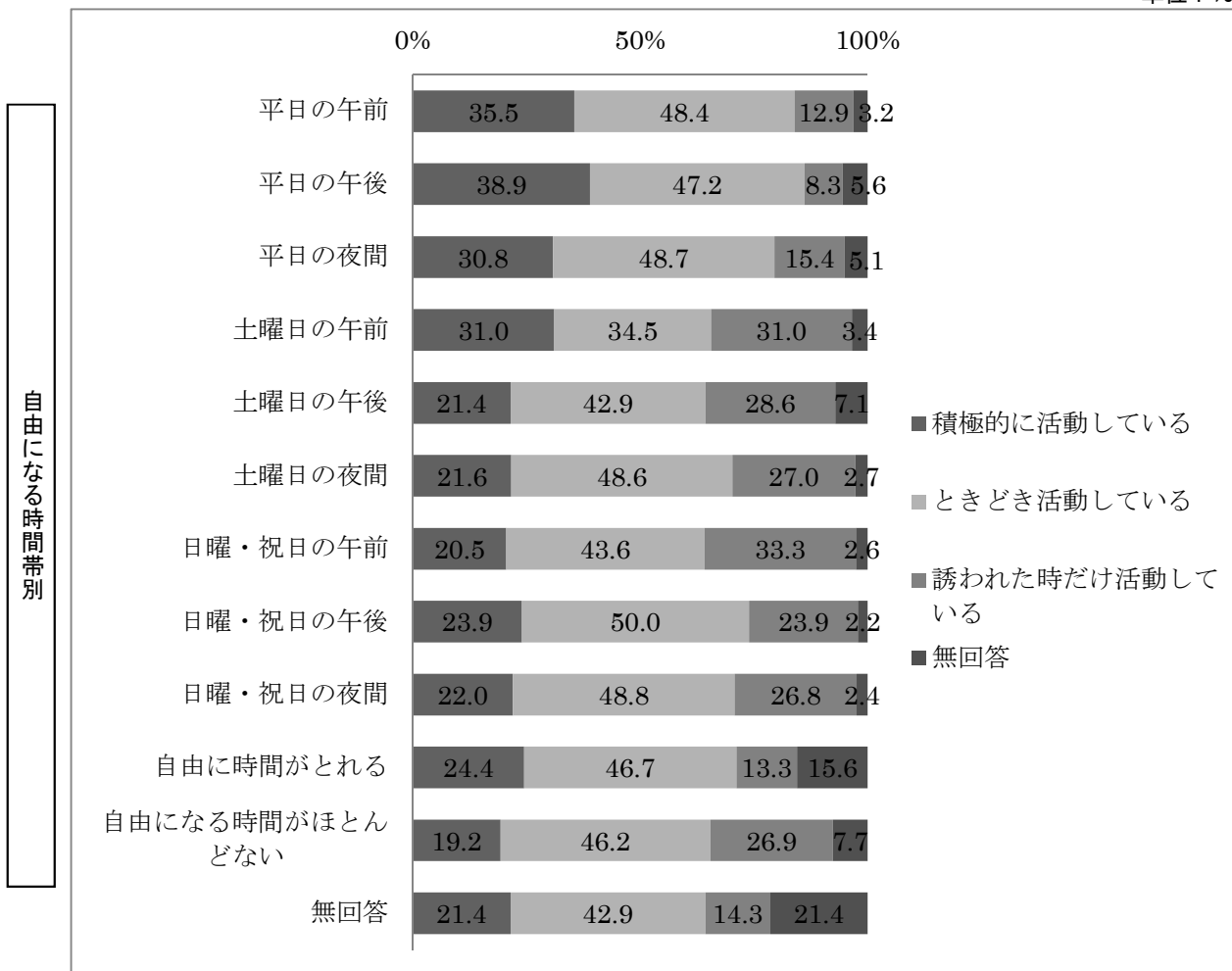
～49 歳で「積極的に活動している」の割合が低く、1 割未満となっているのに対し、「ときどき活動している」の割合が高く、5 割以上となっています。

自由になる時間帯別で見ると、他の時間帯に比べ、平日の午後で「積極的に活動している」の割合高くなっています。また、土曜日・日曜・祝日の午前で、「誘われた時だけ活動している」の割合が高くなっています。

◆「ときどき活動している」人が最も多く、60 代が「積極的に活動をしている」傾向があります。全体としては前回調査と同様の傾向です。

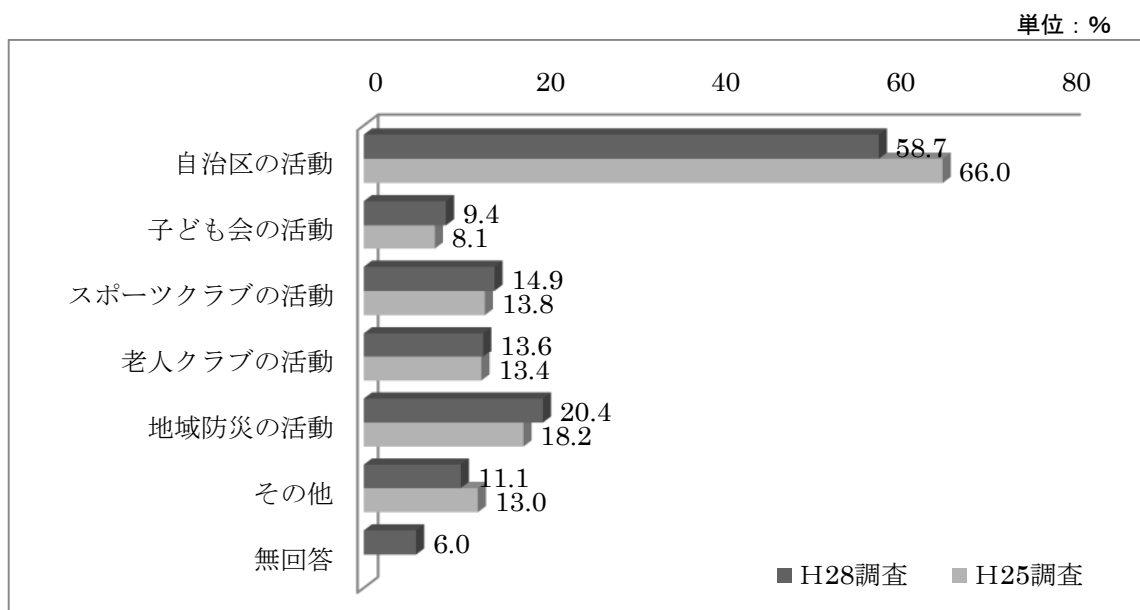


単位：%



自由になる時間帯別

問 13-2 どのような活動をしていますか。(あてはまるものすべての番号に○)



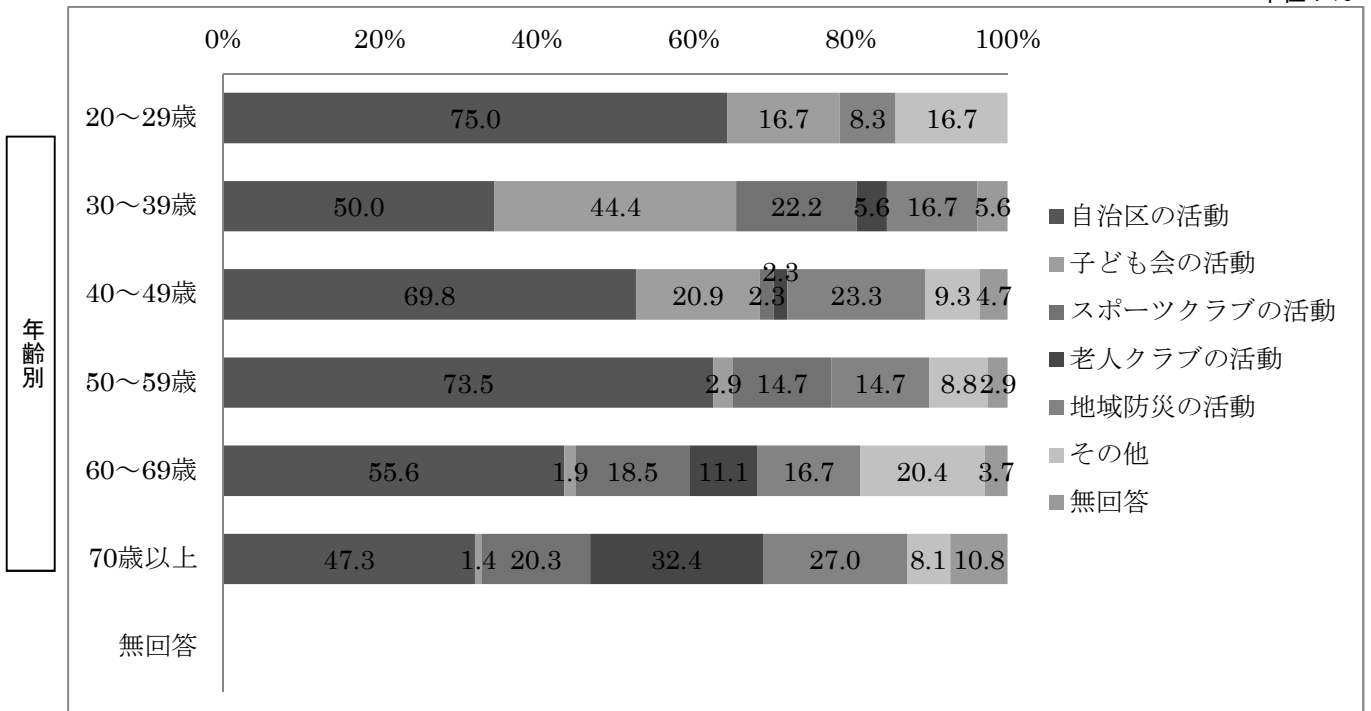
活動の種類については、「自治区の活動」の割合が58.7%と最も高くなっています。

年齢別でみると、他の年齢に比べ、20～29歳で「自治区の活動」の割合が、30～39歳で「子ども会の活動」の割合が、40～49歳で「地域防災の活動」の割合が、70歳以上で「スポーツクラブの活動」「老人クラブの活動」「地域防災の活動」の割合が高くなっています。

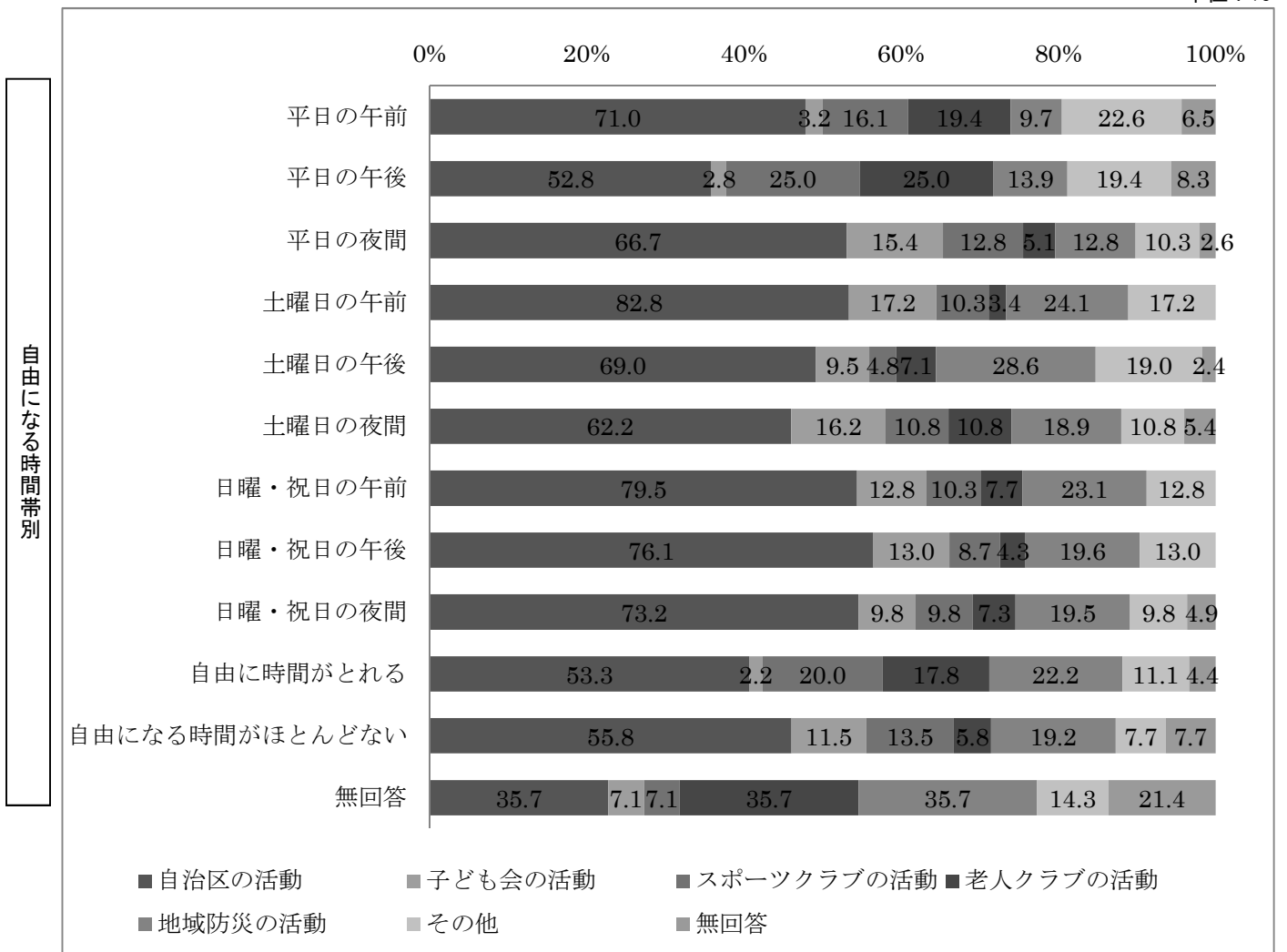
自由になる時間帯別でみると、他の時間帯に比べ、土曜日・日曜・祝日の午前で「自治区の活動」の割合が、平日の午後で「スポーツクラブの活動」の割合が高くなっています。

◆前回調査と同様、「自治区の活動」が約6割と多く、前回調査に比べ、20～39歳で「子ども会の活動」をしている人が増加しています。

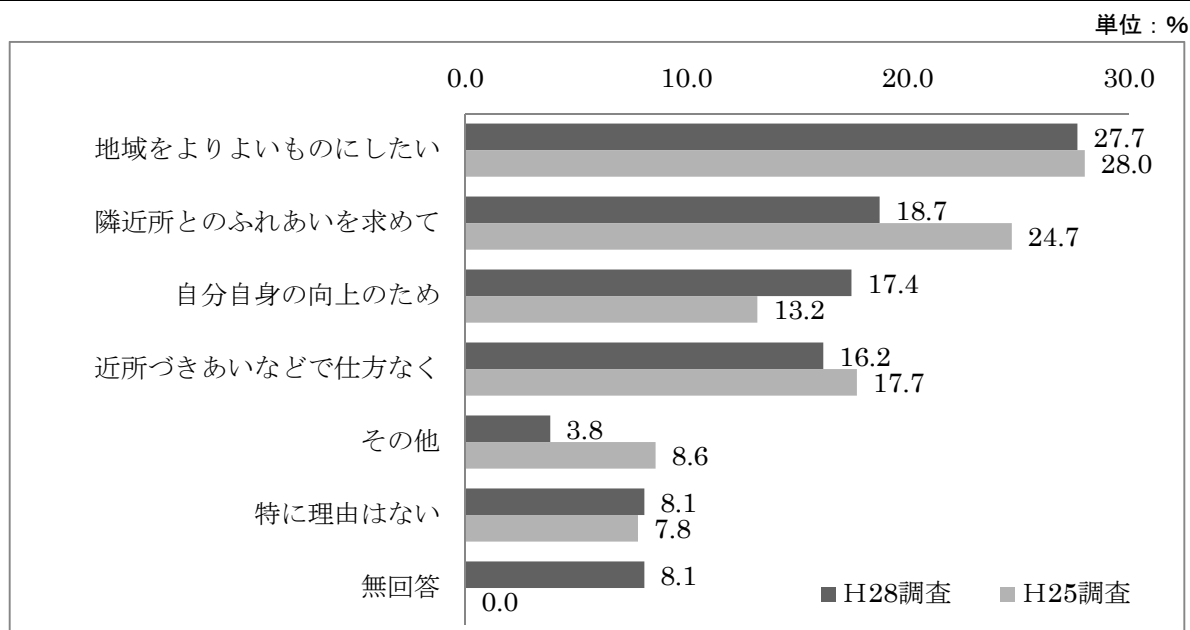
単位：％



単位：％



問 13-3 どのような目的で活動していますか（1つの番号に○）



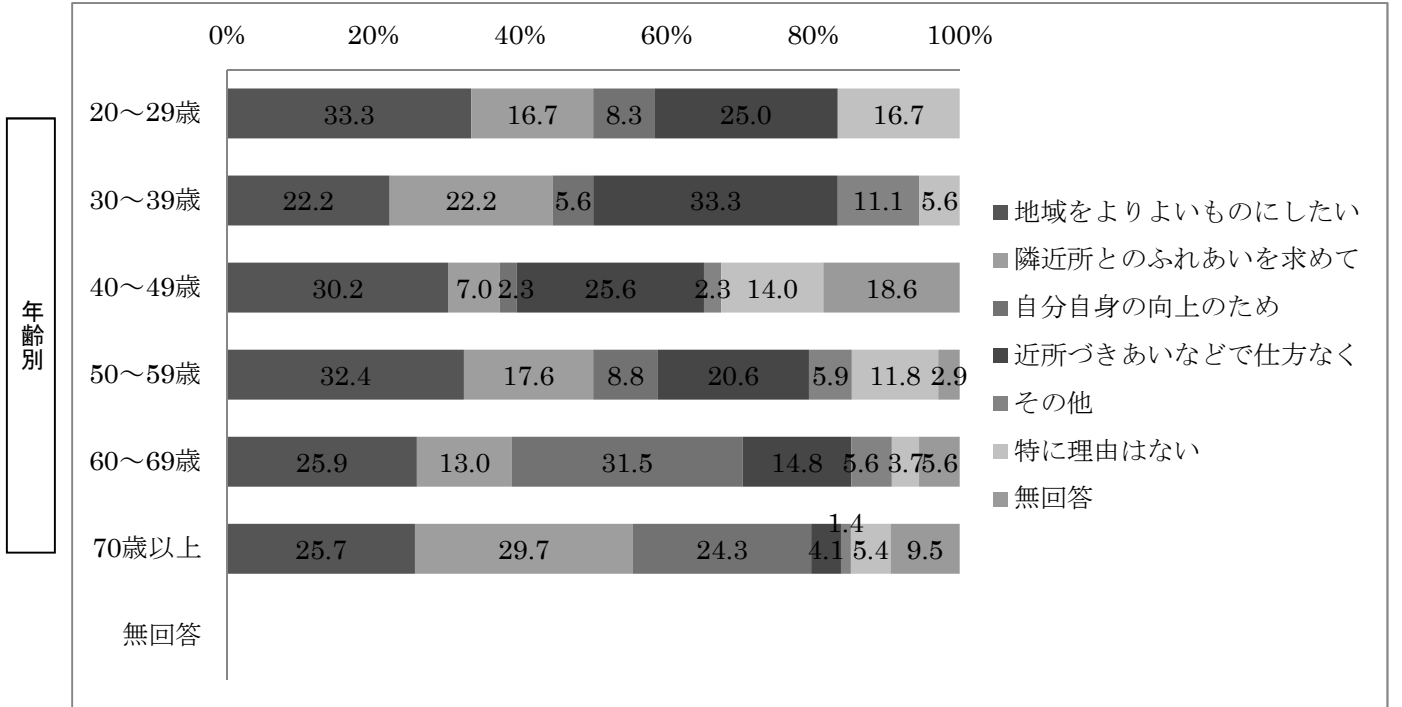
活動の目的については、「地域をよりよいものにしたい」の割合が27.7%と最も高く、次いで「隣近所とのふれあいを求めて」の割合が18.7%、「自分自身の向上のため」の割合が17.4%となっています。

年齢別で見ると、他の年齢に比べ、20～29歳、50～59歳で「地域をよりよいものにしたい」の割合が高く、3割以上となっています。また、30～39歳で「近所づきあいなどで仕方なく」の割合が、60～69歳で「自分自身の向上のため」の割合が高くなっています。一方で、20～29歳で「特に理由はない」の割合が高くなっています。

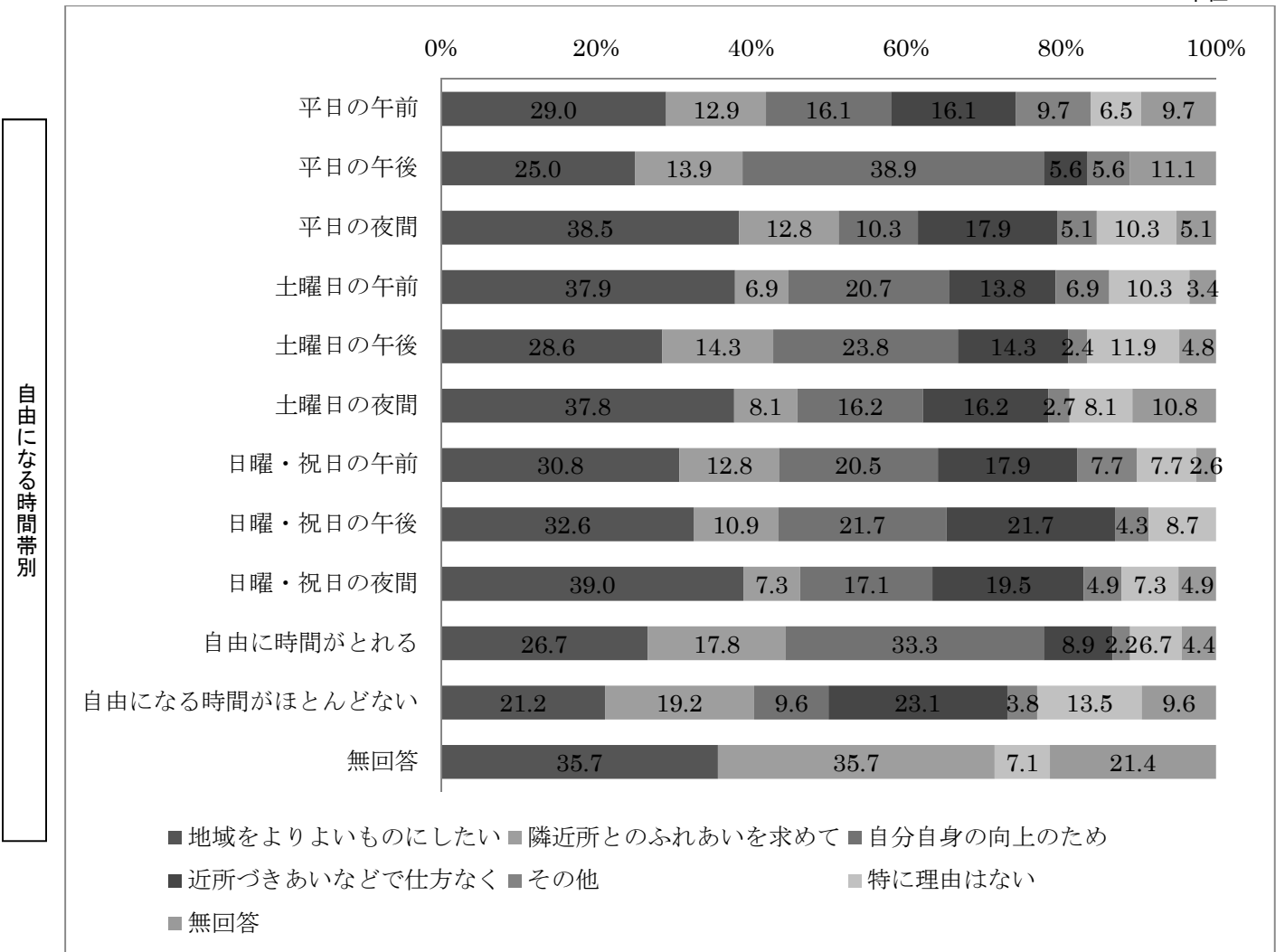
自由になる時間帯別で見ると、他の時間帯に比べ、平日の夜間・土曜の午前・夜間・日曜・祝日の夜間で「地域をよりよいものにしたい」の割合が、平日の午後、自由に時間がとれるで「近所づきあいなどで仕方なく」の割合が高くなっています。

◆前回調査とほぼ同様の傾向ですが、「隣近所とのふれあいを求めて」いる人が減少し、年齢が高い人を中心に、「自分自身の向上のため」という人が増加しています。

単位：%

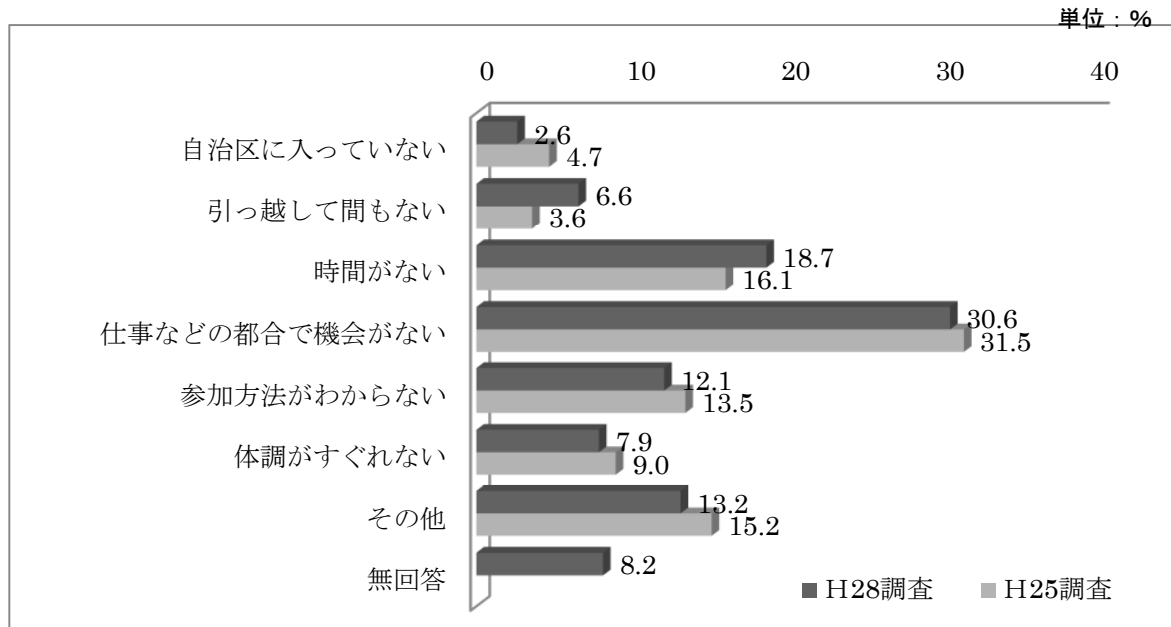


単位：%



問 13 で「現在は活動していないが、過去に活動したことがある」「活動したことがないが、今後活動したい」と答えた方にお聞きします。

問 13-4 現在活動していない理由は何ですか。(1つの番号に○)

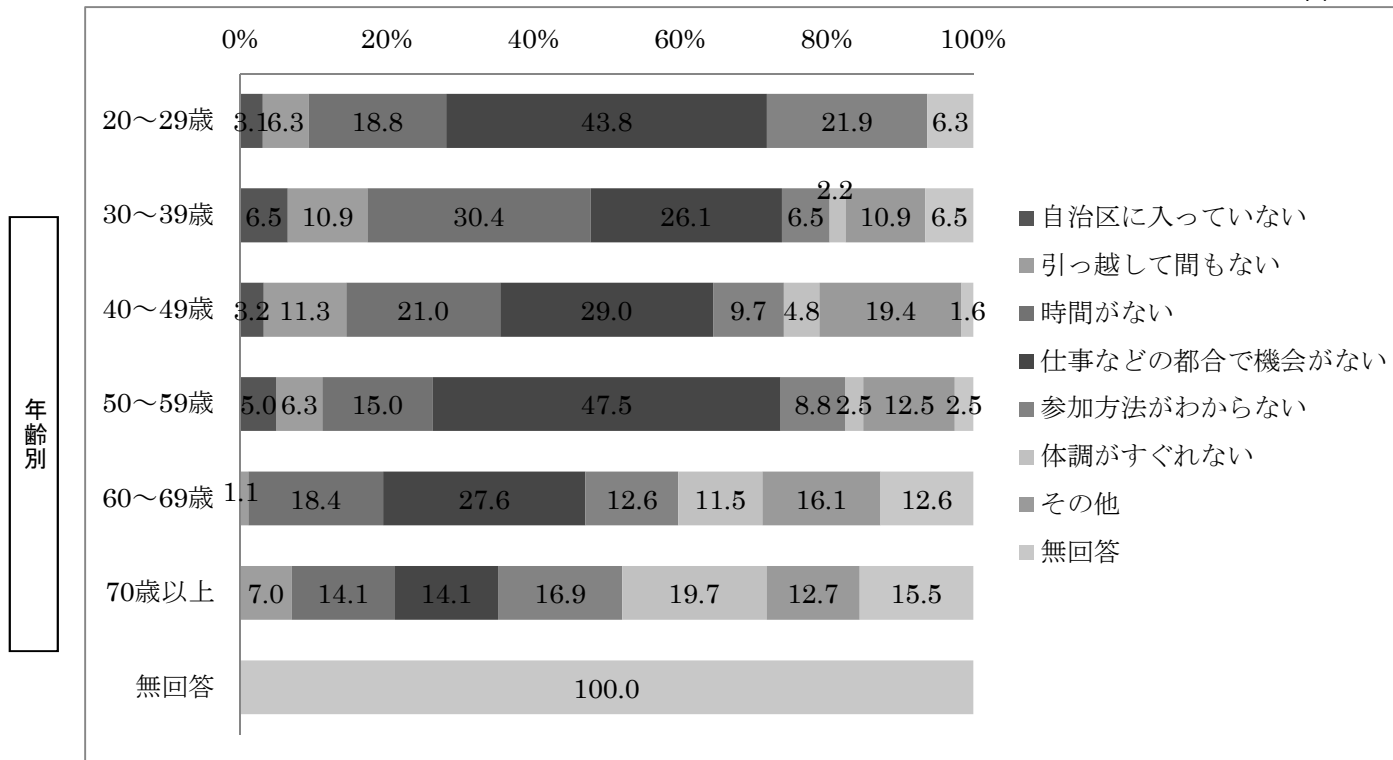


現在活動していない理由については、「仕事などの都合で機会がない」の割合が30.6%と最も高く、次いで「時間がない」の割合が18.7%となっています。
 年齢別で見ると、他の年齢に比べ、20～29歳で「参加方法がわからない」の割合が、50～59歳で「仕事などの都合で機会がない」の割合が、70歳以上で「体調がすぐれない」の割合が高くなっています。

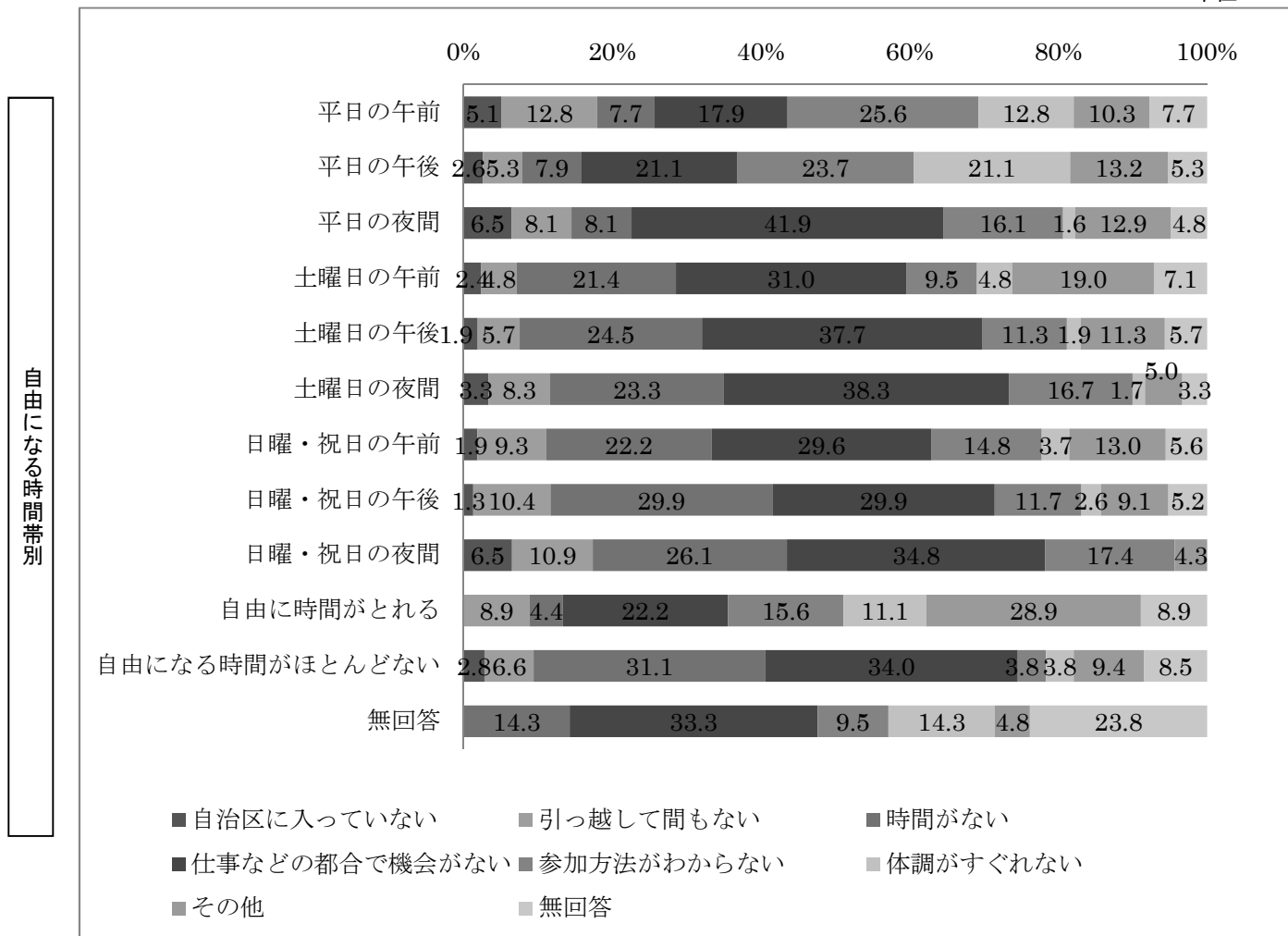
自由になる時間帯別で見ると、平日の午前、平日の午後で「参加方法がわからない」の割合が高くなっています。また、平日の夜間が自由になる人で「仕事などの都合で機会がない」の割合が、自由になる時間がほとんどない人で「時間がない」の割合が高くなっています。

◆前回調査と同様、「仕事などの都合で機会がない」ことを理由にしている人が最も多い傾向にあります。また、30代で「時間がない」という人が、前回16.7%であったのに対し、約15%増加しています。

単位：%

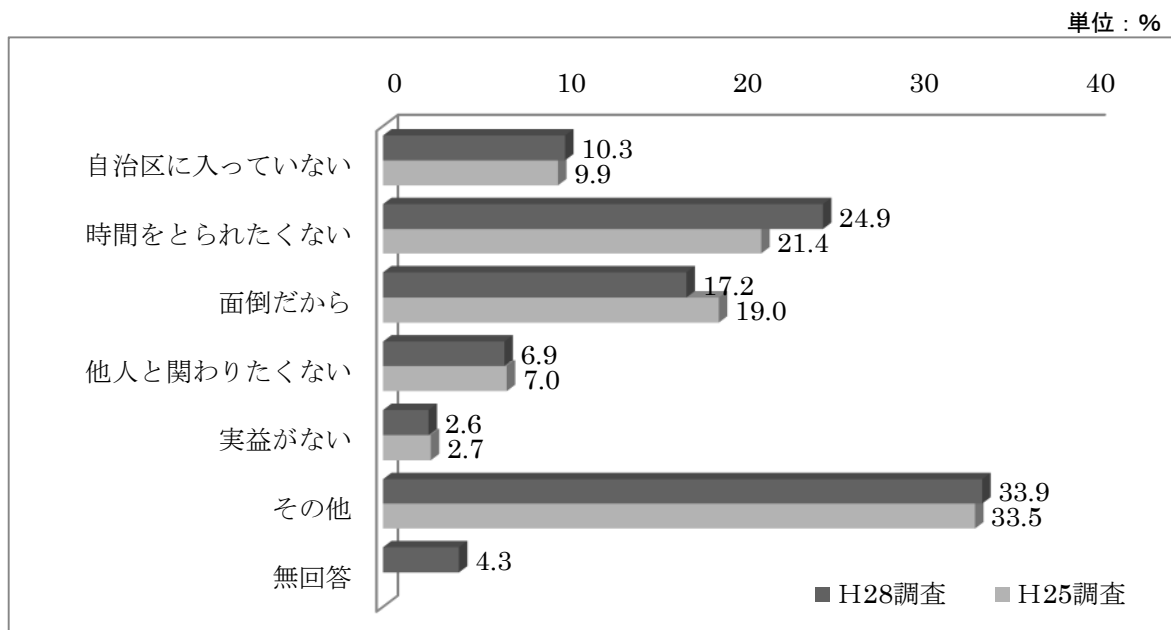


単位：%



問 13 で「活動したことはなく、今後も活動しないと思う」と答えた方にお聞きします。

問 13-5 今後も活動しないと思う理由は何ですか。(1つの番号に○)



今後も活動しないと思う理由については、「時間をとられたくない」の割合が24.9%と最も高く、次いで「面倒だから」の割合が17.2%となっています。

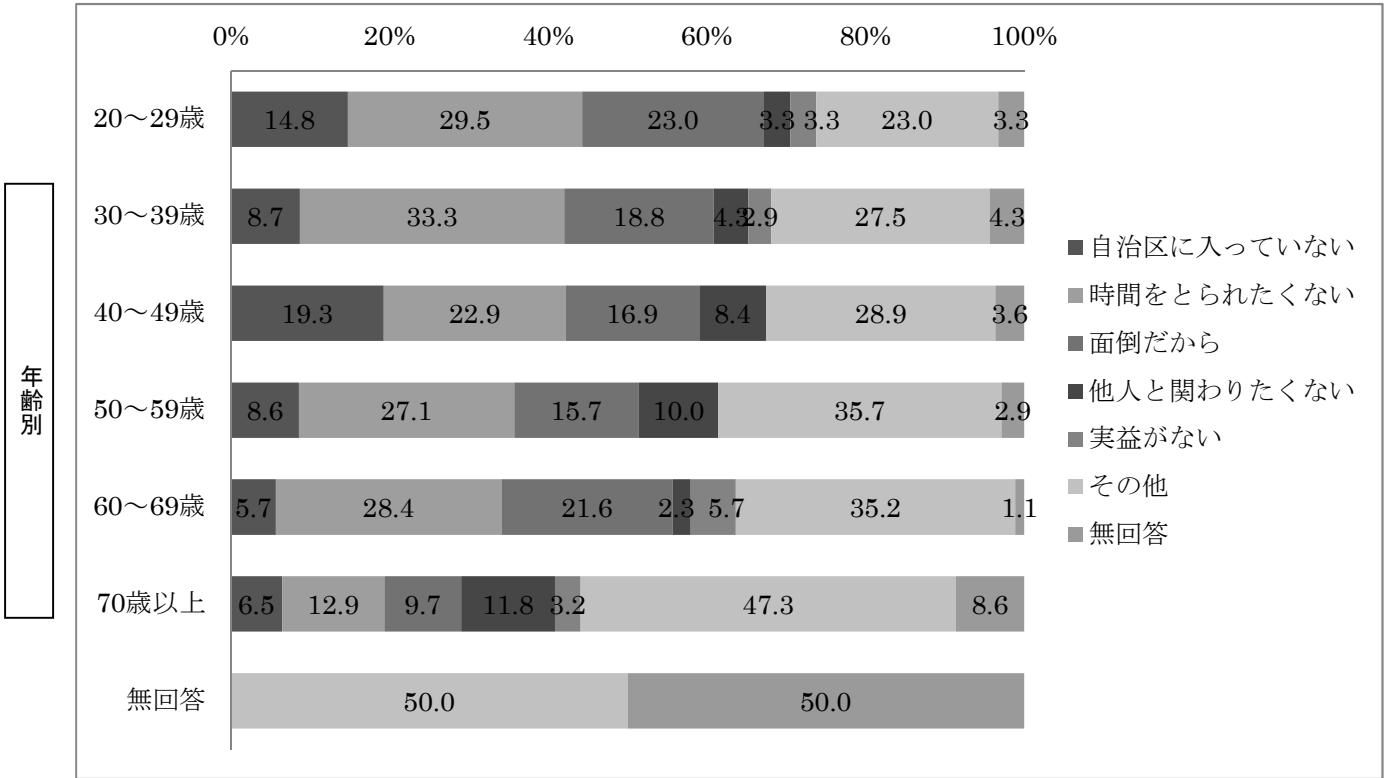
年齢別でみると、他の年齢に比べ、20～29歳、40～49歳で「自治区に入っていない」の割合が、20～29歳、60～69歳で「面倒だから」の割合が高くなっています。また、30～39歳で「時間をとられたくない」の割合が高く、3割以上となっています。

世帯の状況別でみると、他の世帯状況に比べ、介護が必要なお年寄りと同居している世帯で「時間をとられたくない」の割合が高く、約4割となっています。また、子育てをしている世帯で「面倒だから」の割合が高くなっています。

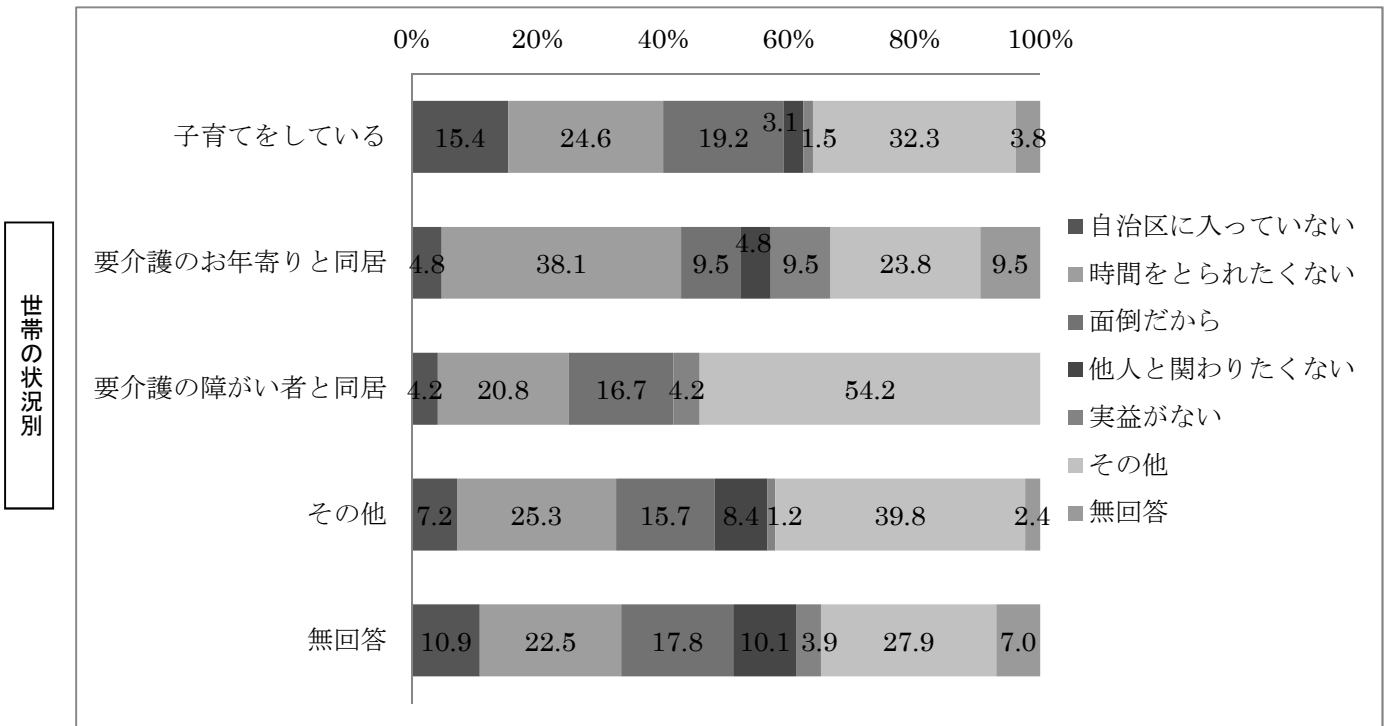
職業別でみると、会社員・団体職員（常勤）、自営業、農業、公務員（常勤）、パート／アルバイト／内職で「時間をとられたくない」の割合が高くなっています。また、他の職業に比べ、派遣従業員、学生で「面倒だから」の割合が高くなっています。

◆若い人ほど、「時間をとられたくない」、「面倒だから」ということを理由にしている人が多い傾向にあります。「その他」では、体調が優れない人が多く、地域のことなどが分からないなどの回答もありました。全体としては、前回調査と同様の傾向です。

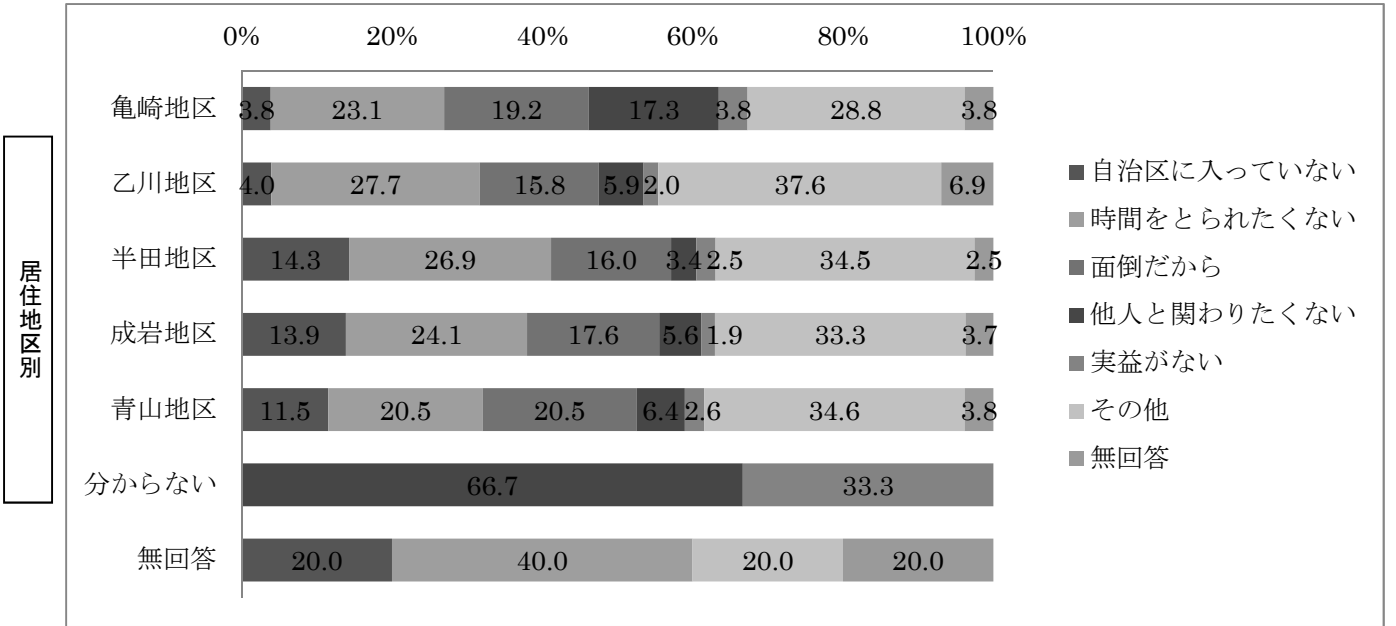
単位：%



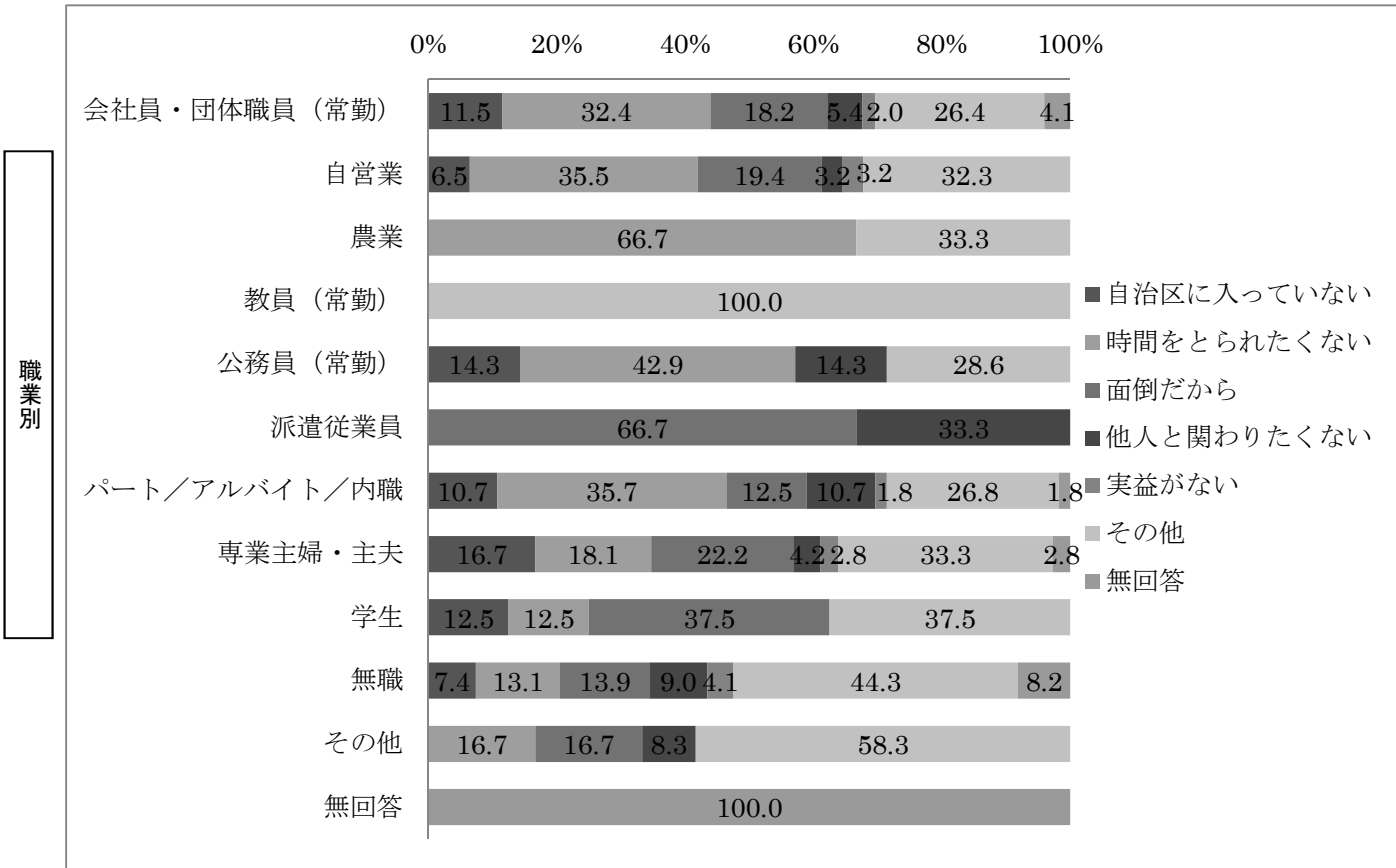
単位：%



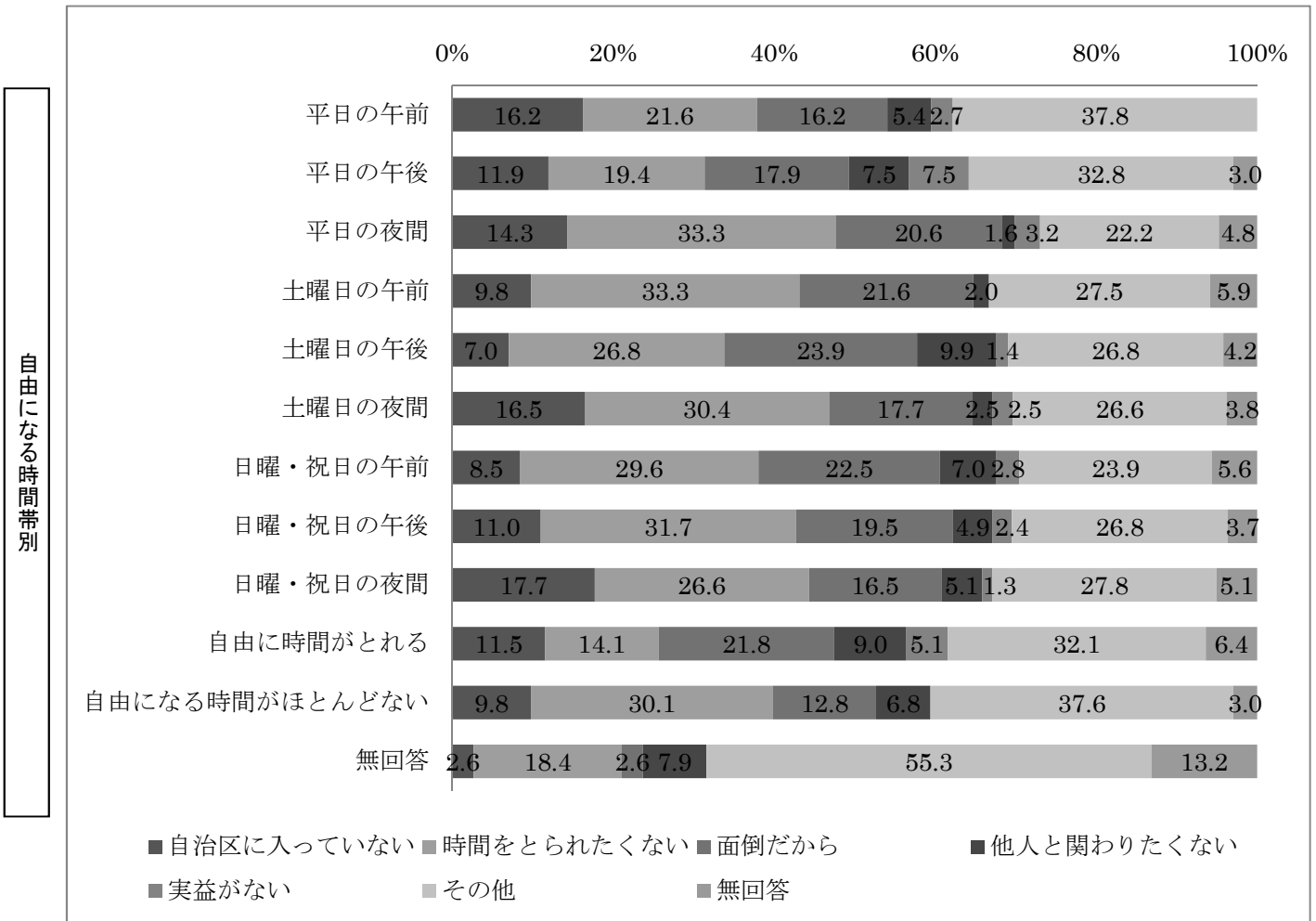
単位：%



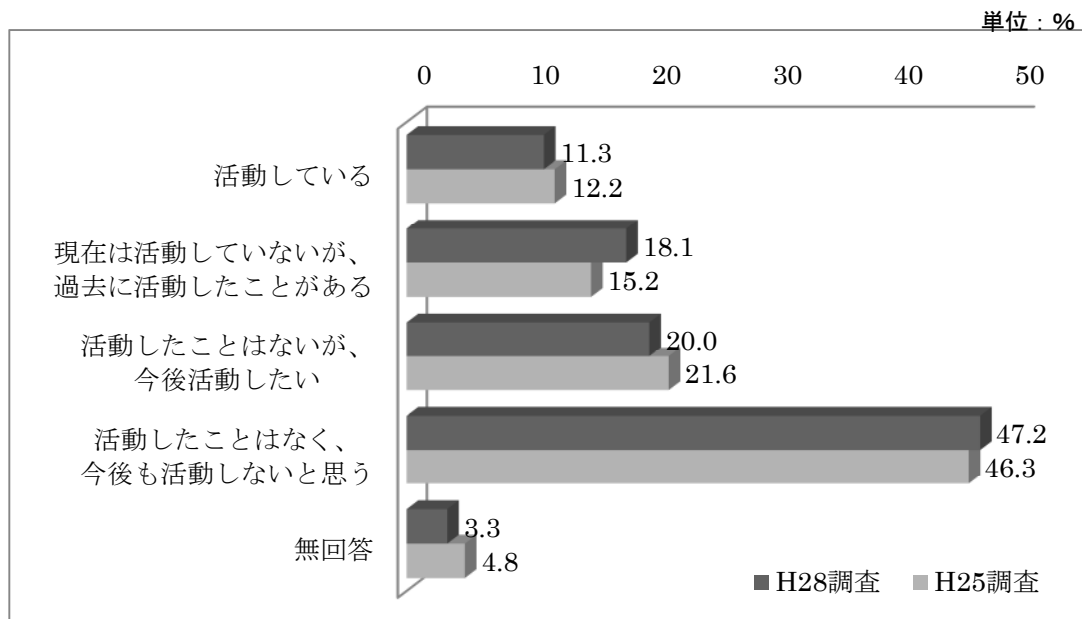
単位：%



単位：%



問 14 あなたはボランティア活動をしていますか。(1つの番号に○)



ボランティア活動への参加状況については、「活動したことはなく、今後も活動しないと思う」の割合が47.2%と最も高く、次いで「活動したことはないが、今後活動したい」の割合が20.0%、「現在は活動していないが、過去に活動したことがある」の割合が18.1%となっています。

年齢別でみると、他の年齢に比べ、20～29歳で「現在は活動していないが、活動したことがある」の割合が、70歳以上で「活動している」の割合が高くなっています。また、30～39歳で「活動したことはないが、今後活動したい」の割合が高くなっています。

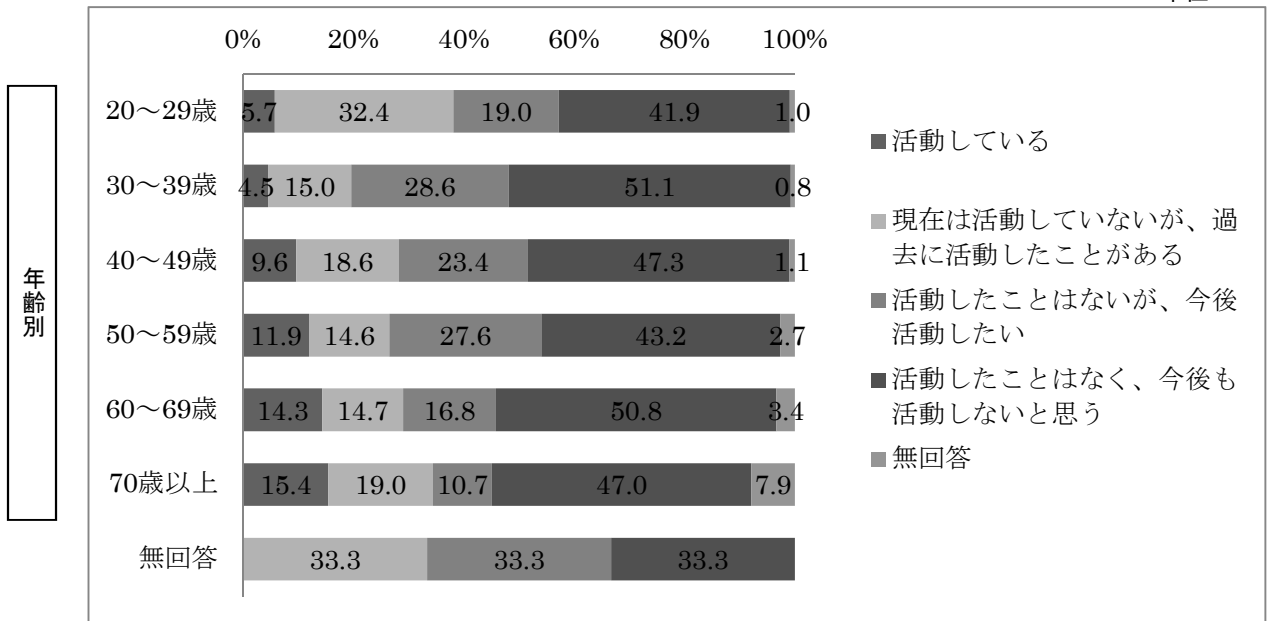
居住地区別でみると、他の地区に比べ、亀崎地区で「活動したことはないが、今後活動したい」の割合が、半田地区、成岩地区で「現在は活動していないが、過去に活動したことがある」の割合が高くなっています。一方で乙川地区、青山地区で「活動したことはなく、今後も活動しないと思う」の割合が高くなっています。

近所付き合いの程度別でみると、近所付き合いをしていない人ほど「活動している」の割合が低くなる傾向がみられます。また、他の近所付き合いの程度に比べ、あいさつはする人で「活動したことはないが、今後活動したい」の割合が、ほとんど付き合いがない人で「活動したことはなく、今後も活動しないと思う」の割合が高くなっています。

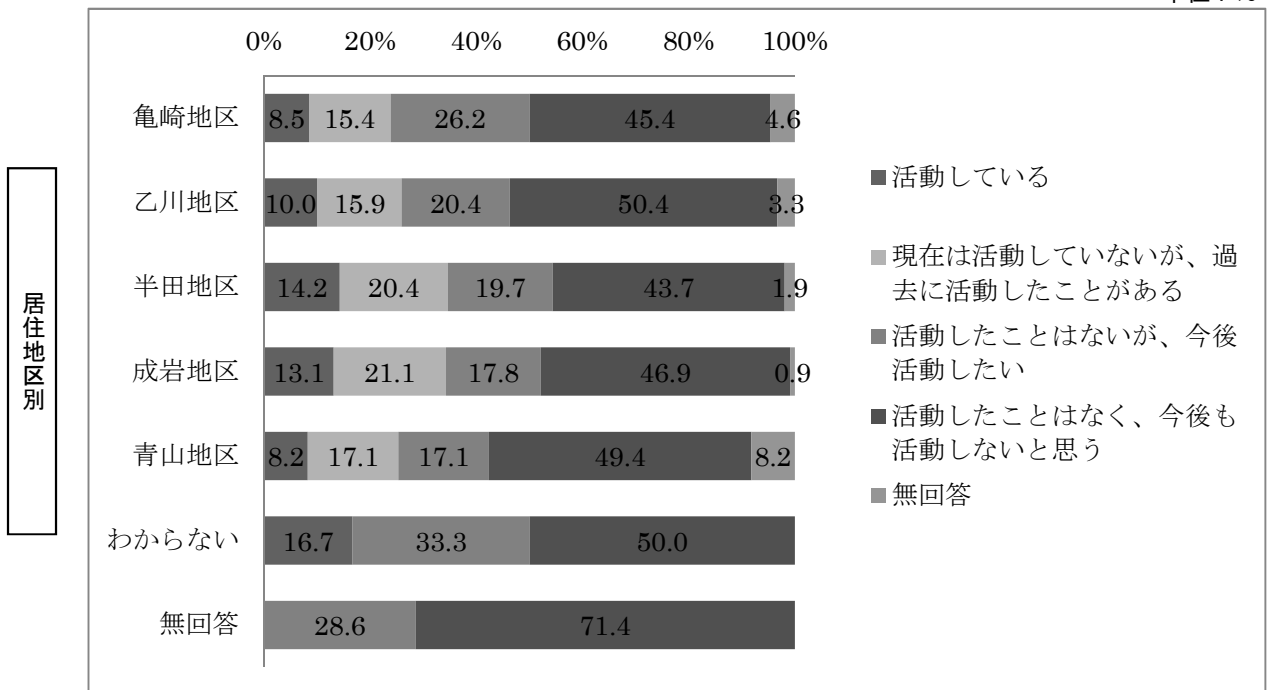
自由になる時間帯別でみると、他の時間帯に比べ、平日の午前、平日の午後が自由になる人で「活動している」の割合が高くなっています。また、日曜・祝日の夜間、自由になる時間がほとんどない人で「活動したことはなく、今後も活動しないと思う」の割合が高く、5割以上となっています。

◆「活動したことがなく、今後も活動しないと思う」人が約半数と多く、前回調査と比較すると、30～69歳が増加しています。20代については、前回調査よりも「現在は活動していないが、過去にしたことがある」人が14%から32%に増加しており、学校等における積極的な取組が見受けられます。

単位：%

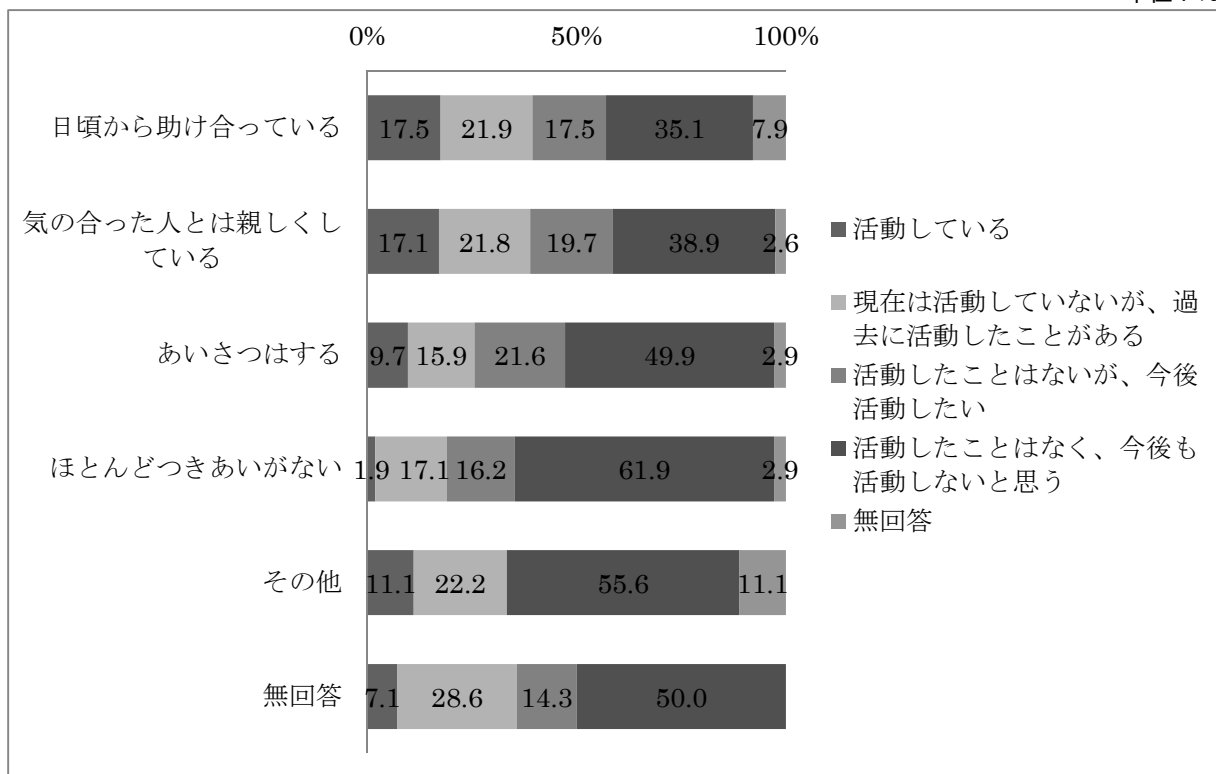


単位：%



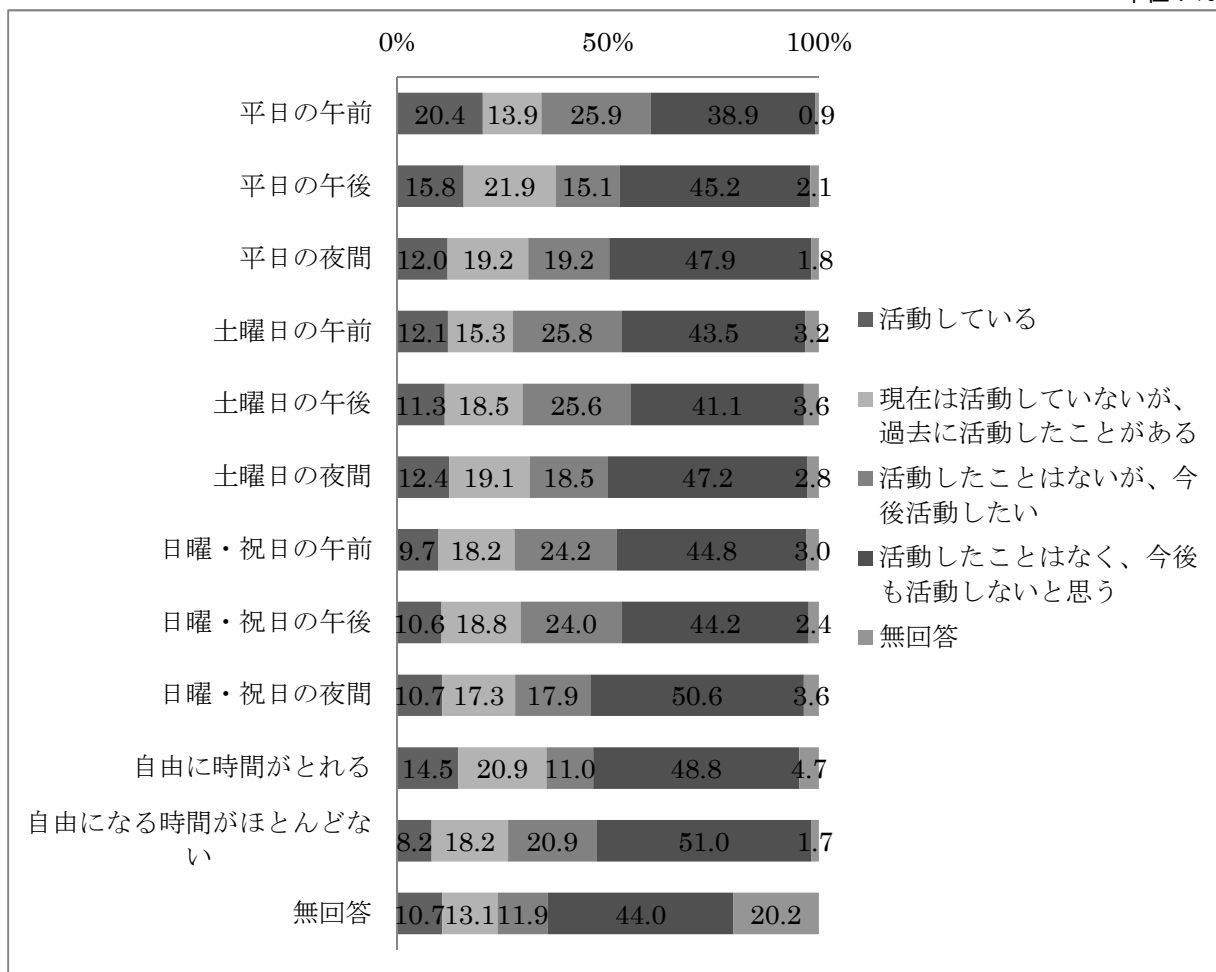
単位：%

近所付き合いの程度別



単位：%

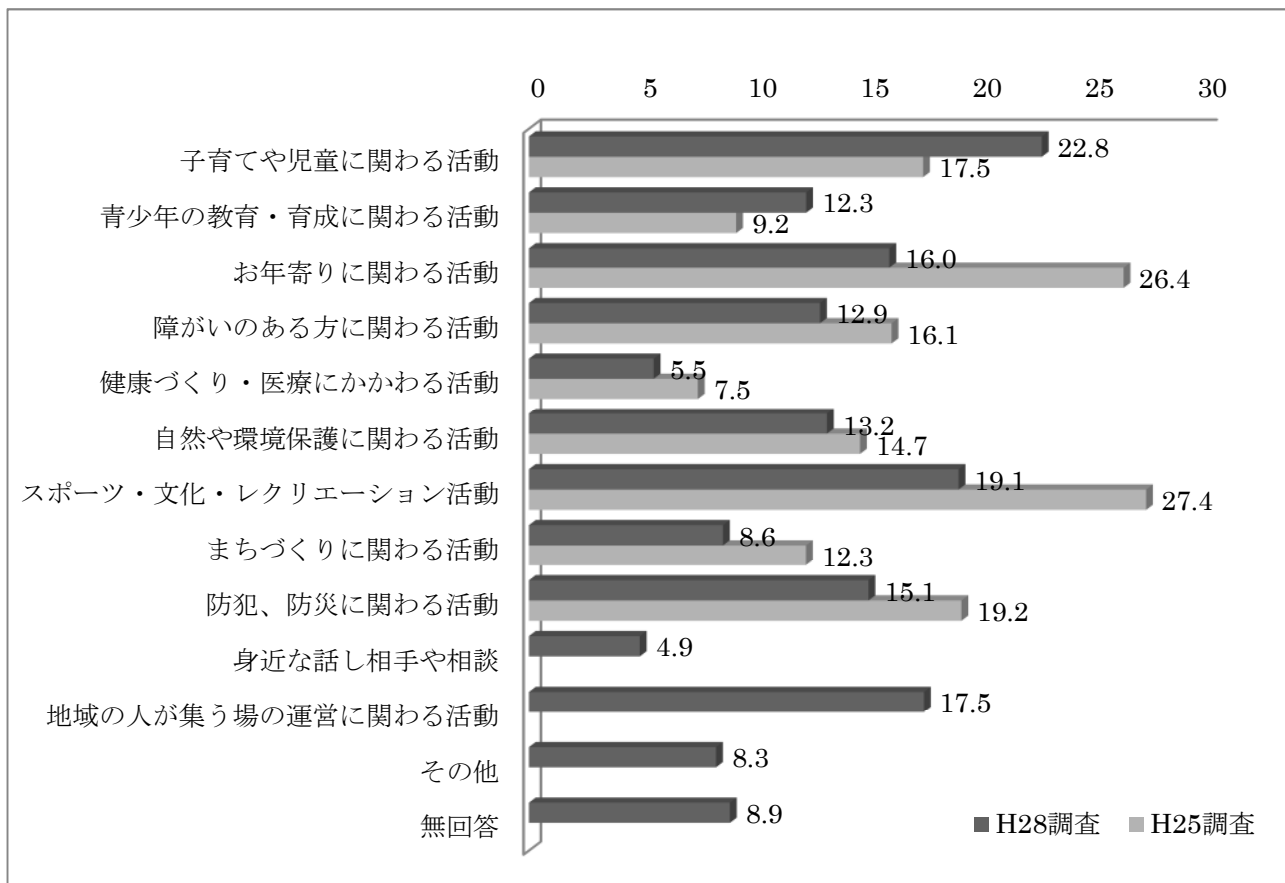
自由になる時間帯別



問 14-1～2 は、問 14 で「活動している」「現在は活動していないが、過去に活動したことがある」と答えた方にお聞きします。

問 14-1 どのようなボランティア活動をしていますか。(していましたか。)
(あてはまるすべての番号に○)

単位：%



ボランティア活動の種類については、「子育てや児童に関わる活動」の割合が 22.8 % と最も高く、次いで「スポーツ・文化・レクリエーション活動」の割合が 19.1%、「地域の人が集う場の運営に関わる活動」の割合が 17.5% となっています。

年齢別で見ると、他の年齢に比べ、20～29 歳で「自然や環境保護に関わる活動」の割合が、30～39 歳で「障がいのある方に関わる活動」の割合が、40～49 歳で「子育てや児童に関わる活動」の割合が、70 歳以上で「防犯、防災に関わる活動」「地域の人が集う場の運営に関わる活動」の割合が高くなっています。

◆前回調査に比べ、子育てや児童に関わる活動をしている(していた)人が多くなり、「お年寄りに関わる活動」、「スポーツ・文化・レクリエーションに関わる活動」をしている人が減少しています。

また、今回の調査から追加した項目のなかで、「地域の人が集う場の運営に関わる活動」をしている人が多く、サロン等での活動をしている人が多くいることがわかります。

単位：％

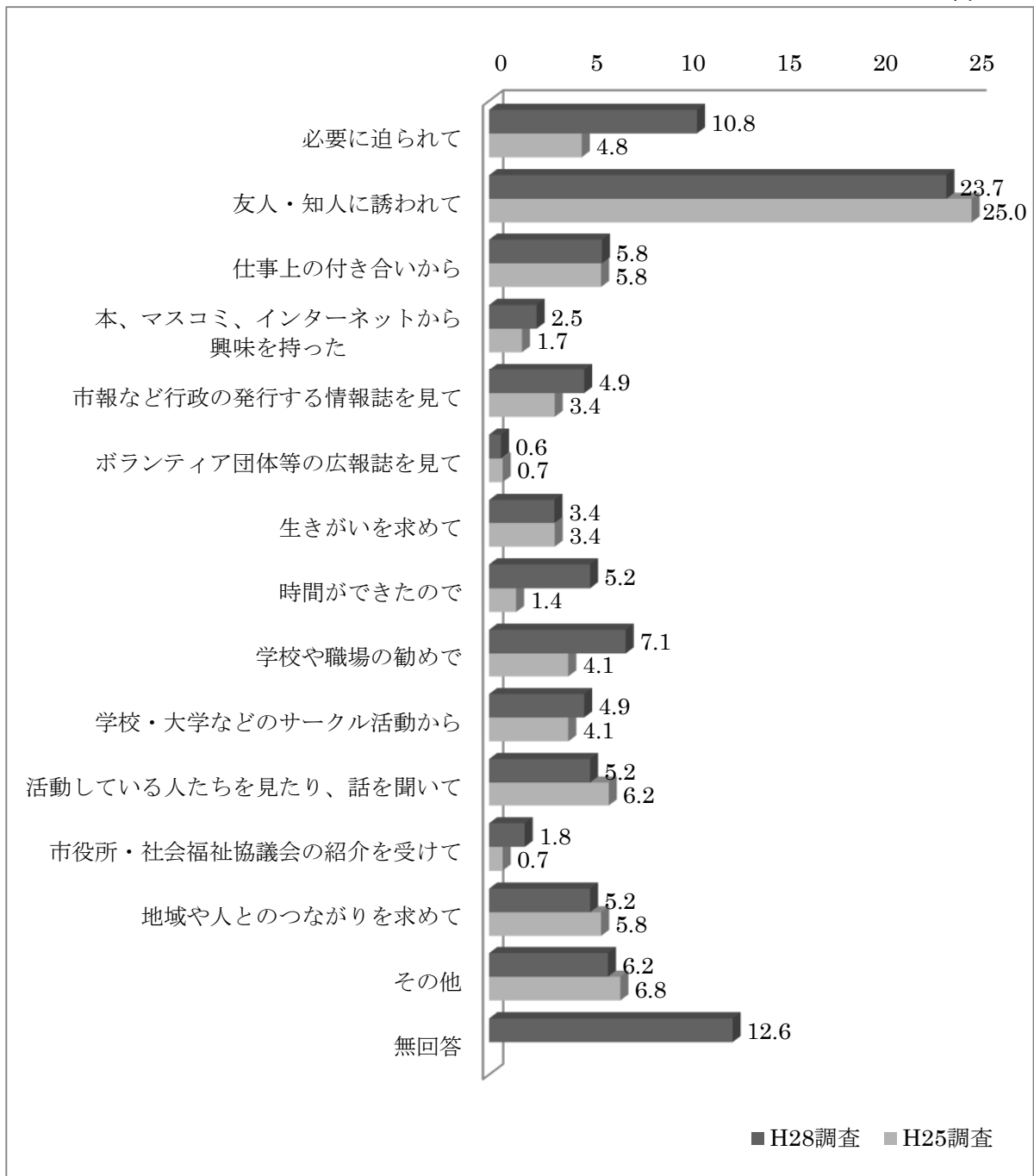
		子育てや児童に関わる活動	青少年の教育・育成に関する活動	お年寄りに関わる活動	障がいのある方に関わる活動	健康づくり・医療にかかわる活動	自然や環境保護に関わる活動	スポーツ・文化・レクリエーション活動	まちづくりに関わる活動	防犯、防災に関わる活動	身近な話し相手や相談	地域の人が集う場の運営に関わる活動	その他	無回答
年齢別	20～29歳	25.0	10.0	12.5	12.5	0.0	35.0	10.0	10.0	7.5	2.5	12.5	17.5	7.5
	30～39歳	23.1	23.1	11.5	46.2	7.7	19.2	15.4	7.7	15.4	3.8	11.5	15.4	0.0
	40～49歳	34.0	5.7	15.1	15.1	5.7	7.5	24.5	3.8	9.4	0.0	9.4	3.8	9.4
	50～59歳	28.6	22.4	10.2	18.4	8.2	6.1	16.3	4.1	10.2	6.1	20.4	12.2	6.1
	60～69歳	17.4	11.6	20.3	4.3	4.3	5.8	17.4	10.1	18.8	4.3	17.4	10.1	7.2
	70歳以上	16.1	9.2	19.5	5.7	6.9	14.9	23.0	12.6	21.8	9.2	25.3	1.1	14.9
	無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

単位：％

		子育てや児童に関わる活動	青少年の教育・育成に関する活動	お年寄りに関わる活動	障がいのある方に関わる活動	健康づくり・医療にかかわる活動	自然や環境保護に関わる活動	スポーツ・文化・レクリエーション活動	まちづくりに関わる活動	防犯、防災に関わる活動	身近な話し相手や相談	地域の人が集う場の運営に関わる活動	その他	無回答
居住地区別	亀崎地区	35.5	16.1	19.4	6.5	9.7	22.6	32.3	16.1	3.2	6.5	25.8	6.5	0.0
	乙川地区	24.3	14.3	20.0	14.3	7.1	8.6	14.3	7.1	12.9	5.7	18.6	10.0	14.3
	半田地区	21.5	8.4	13.1	12.1	6.5	10.3	15.9	11.2	21.5	7.5	15.0	9.3	5.6
	成岩地区	19.2	16.4	15.1	19.2	2.7	15.1	20.5	2.7	8.2	1.4	16.4	8.2	15.1
	青山地区	20.9	7.0	14.0	7.0	2.3	16.3	20.9	7.0	20.9	0.0	18.6	4.7	4.7
	わからない	0.0	100	100	0.0	0.0	100	100	100	100	100	0.0	0.0	0.0

問 14-2 ボランティア活動をはじめたきっかけは何ですか。(1つの番号に○)

単位：%



ボランティア活動をはじめたきっかけについては、「友人・知人に誘われて」の割合が 23.7%と最も高くなっています。

年齢別でみると、他の年齢に比べ、20～29歳で「学校や職場の勧めで」の割合が、50～59歳で「時間ができたので」の割合が、60～69歳で「活動している人たちを見たり、話を聞いて」の割合が高くなっています。

自由になる時間帯別でみると、すべての時間帯で「友人・知人に誘われて」の割合が最も高くなっています。また、平日の夜間で「友人・知人に誘われて」に次いで、「学校・大学などのサークル活動から」の割合が高くなっています。

◆全体としては前回調査と同様に、「友人・知人に誘われて」始めた人が多くなっています。前回調査と比較すると、若い世代では「学校や職場の勧めで」、50代では「仕事上の付き合いから」が増加しており、学校や企業がボランティアに力を入れていることがわかります。

単位：%

	必要に迫られて	友人・知人に誘われて	仕事上の付き合いから	本、マスコミ、インターネットから興味を持った	市報など行政の発行する情報誌を見て	ボランティア団体等の広報誌を見て	生きがいを求めて	時間ができたので	学校や職場の勧めで	学校・大学などのサークル活動から	活動している人たちを見たり、話を聞いて	市役所・社会福祉協議会の紹介を受けて	地域や人とのつながりを求めて	その他	無回答	
年齢別	20～29歳	2.5	17.5	2.5	0.0	0.0	2.5	7.5	32.5	20.0	2.5	2.5	0.0	2.5	7.5	
	30～39歳	11.5	19.2	3.8	11.5	0.0	0.0	3.8	11.5	15.4	0.0	3.8	0.0	7.7	11.5	
	40～49歳	15.1	24.5	5.7	3.8	5.7	0.0	3.8	5.7	7.5	5.7	0.0	1.9	1.9	13.2	
	50～59歳	14.3	22.4	10.2	0.0	4.1	4.1	0.0	10.2	2.0	0.0	8.2	0.0	8.2	4.1	12.2
	60～69歳	7.2	26.1	4.3	1.4	7.2	0.0	2.9	2.9	4.3	0.0	10.1	1.4	7.2	8.7	15.9
	70歳以上	12.6	26.4	5.7	2.3	6.9	0.0	6.9	3.4	0.0	0.0	2.3	3.4	8.0	9.2	12.6
	無回答	0.0	0.0	100	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

単位：%

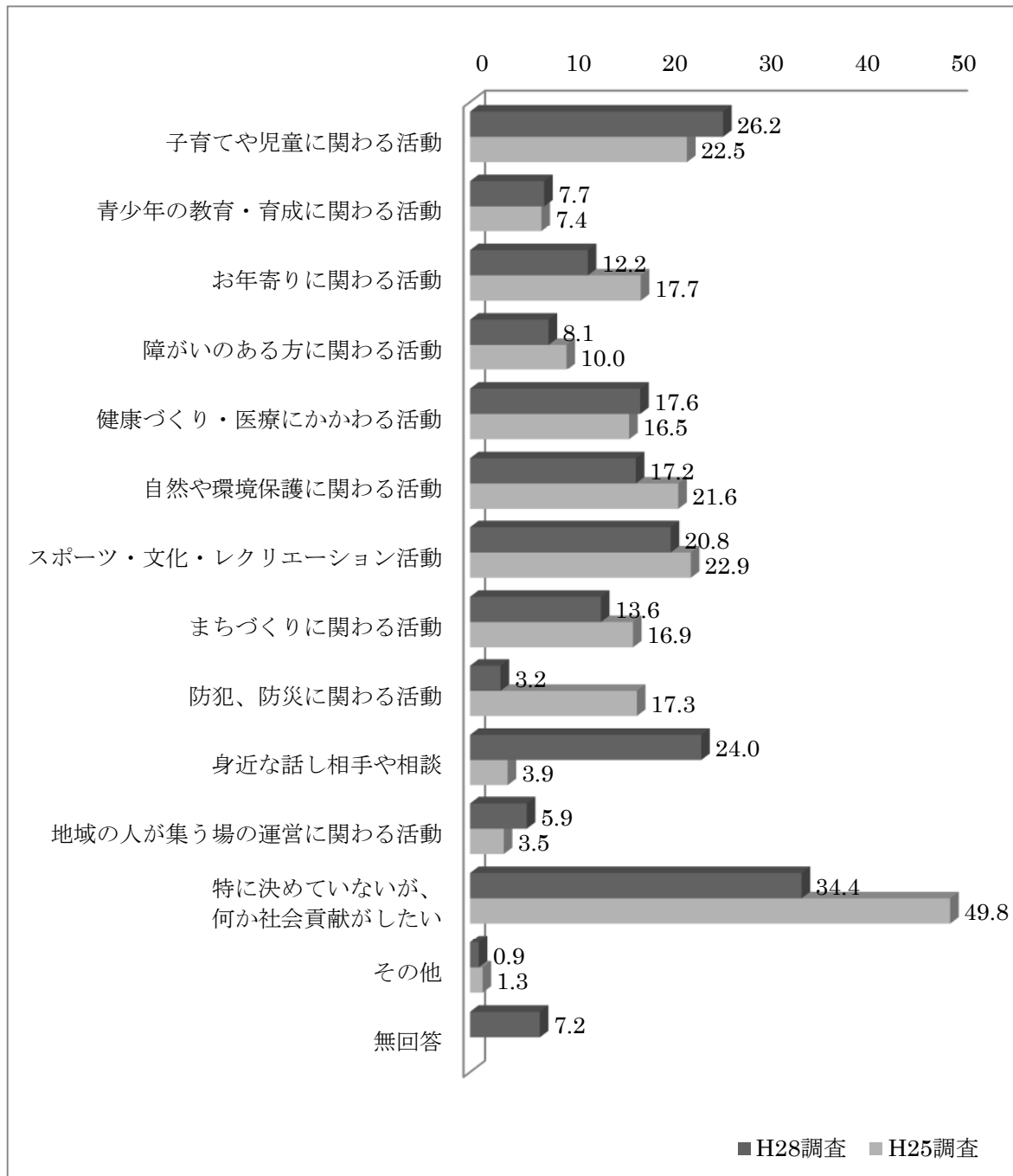
	必要に迫られて	友人・知人に誘われて	仕事上の付き合いから	本、マスコミ、インターネットから興味を持った	市報など行政の発行する情報誌を見て	ボランティア団体等の広報誌を見て	生きがいを求めて	時間ができたので	学校や職場の勧めで	学校・大学などのサークル活動から	活動している人たちを見たり、話を聞いて	市役所・社会福祉協議会の紹介を受けて	地域や人とのつながりを求めて	その他	無回答	
自由になる時間帯別	平日の午前	8.1	21.6	2.7	5.4	2.7	2.7	0.0	8.1	5.4	8.1	0.0	10.8	10.8	10.8	
	平日の午後	7.3	36.4	3.6	0.0	5.5	1.8	1.8	5.5	3.6	7.3	0.0	7.3	9.1	5.5	
	平日の夜間	7.7	34.6	1.9	1.9	3.8	0.0	5.8	7.7	9.6	3.8	0.0	5.8	3.8	5.8	
	土曜日の午前	14.7	20.6	2.9	8.8	2.9	0.0	8.8	20.6	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	14.7	
	土曜日の午後	10.0	20.0	2.0	6.0	8.0	0.0	0.0	14.0	4.0	2.0	2.0	12.0	0.0	16.0	
	土曜日の夜間	5.4	23.2	7.1	5.4	7.1	0.0	1.8	12.5	5.4	10.7	1.8	1.8	1.8	14.3	
	日曜・祝日の午前	10.9	28.3	0.0	2.2	4.3	0.0	6.5	10.9	6.5	4.3	2.2	0.0	6.5	2.2	15.2
	日曜・祝日の午後	9.8	24.6	3.3	1.6	3.3	0.0	6.6	9.8	9.8	4.9	4.9	3.3	6.6	0.0	11.5
	日曜・祝日の夜間	6.4	25.5	2.1	4.3	6.4	0.0	6.4	10.6	6.4	12.8	4.3	0.0	4.3	4.3	6.4
	自由に時間がとれる	11.5	18.0	4.9	1.6	6.6	1.6	4.9	8.2	1.6	3.3	8.2	3.3	4.9	4.9	16.4
	自由になる時間がほとんどない	15.6	26.0	7.8	1.3	1.3	0.0	1.3	0.0	15.6	5.2	2.6	2.6	3.9	6.5	10.4
	無回答	15.0	10.0	20.0	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	0.0	10.0	10.0	25.0

問 14 で「活動したことはないが、今後活動したい」と答えた方にもお聞きします。

問 14-3 今後、どのようなボランティア活動に参加したいと思いますか。

(あてはまるすべての番号に○)

単位：％



今後、参加したいボランティア活動については、「特に決めていないが、何か社会貢献がしたい」の割合が 34.4%と最も高く、次いで「子育てや児童に関わる活動」の割合が 26.2%、「身近な話し相手や相談」の割合が 24.0%となっています。

年齢別でみると、他の年齢に比べ、30～39歳で「子育てや児童に関わる活動」の割合が、50～59歳、70歳以上で「特に決めていないが、何か社会貢献がしたい」の割合が高くなっています。また、20～29歳で「スポーツ・文化・レクリエーション活動」の割合が高くなっています。

自由になる時間帯別でみると、他の時間帯に比べ、平日の夜間で「スポーツ・文化・レクリエーション活動」の割合が、日曜・祝日の午前、午後で「身近な話し相手や相談」の割合が高く、4割以上となっています。また、平日の午前と自由に時間が取れる人で「特に決めていないが、何か社会貢献がしたい」の割合が高くなっています。

◆前回調査に比べ、「身近な話し相手や相談」のボランティア活動をしたいという人が増加しています。また20代で「スポーツ・文化・レクリエーション活動」をしたいという人が増加しています。

単位：％

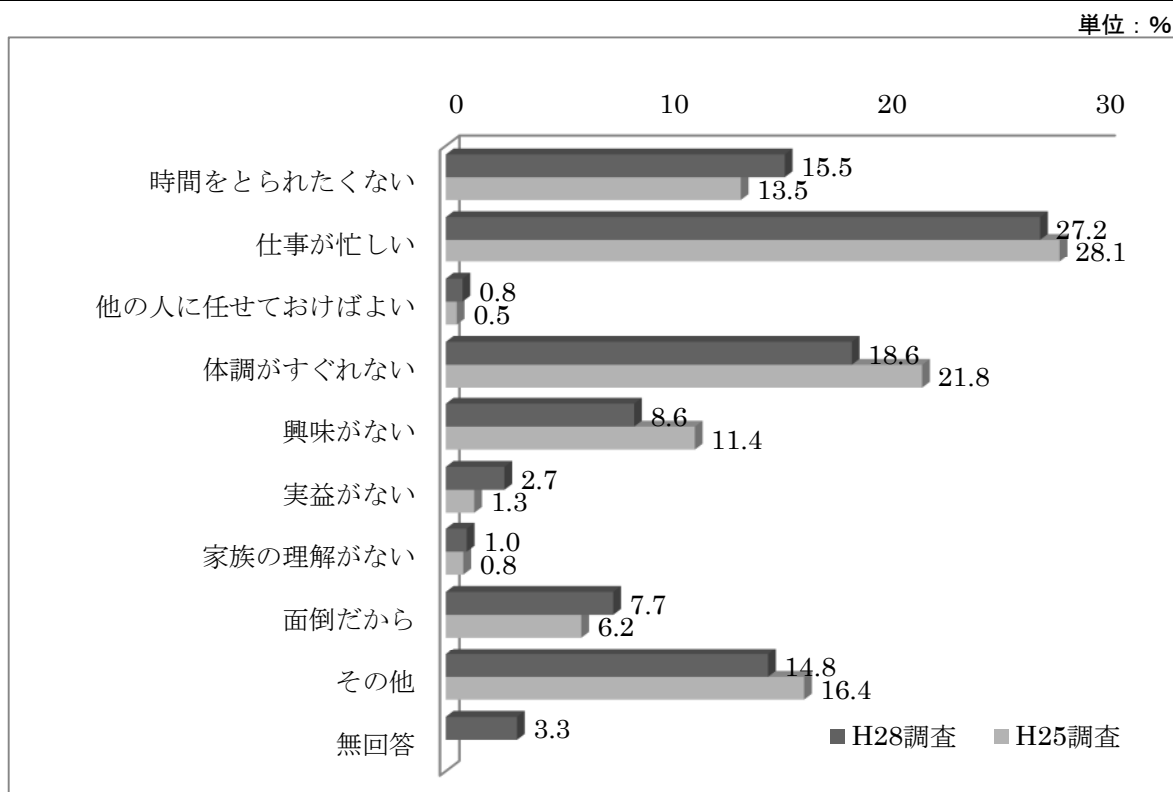
		子育てや児童に関わる活動	青少年の教育・育成に関わる活動	お年寄りに関わる活動	障がいのある方に関わる活動	健康づくり・医療にかかわる活動	自然や環境保護に関わる活動	スポーツ・文化・レクリエーション活動	まちづくりに関わる活動	防犯、防災に関わる活動	身近な話し相手や相談	地域の人が集う場の運営に関わる活動	特に決めていないが、何か社会貢献がしたい	その他	無回答
年齢別	20～29歳	45.0	15.0	15.0	15.0	15.0	10.0	40.0	20.0	10.0	25.0	0.0	20.0	0.0	15.0
	30～39歳	55.3	15.8	7.9	7.9	18.4	26.3	23.7	23.7	2.6	18.4	7.9	15.8	0.0	7.9
	40～49歳	27.3	11.4	9.1	15.9	11.4	13.6	11.4	11.4	0.0	15.9	4.5	29.5	0.0	6.8
	50～59歳	19.6	2.0	13.7	3.9	21.6	17.6	21.6	11.8	0.0	29.4	5.9	43.1	2.0	3.9
	60～69歳	15.0	5.0	15.0	5.0	22.5	22.5	22.5	10.0	7.5	27.5	5.0	35.0	2.5	5.0
	70歳以上	0.0	0.0	14.8	3.7	14.8	7.4	14.8	7.4	3.7	29.6	11.1	63.0	0.0	7.4
	無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100

単位：%

		子育てや児童に関わる活動	青少年の教育・育成に関わる活動	お年寄りに関わる活動	障がいのある方に関わる活動	健康づくり・医療にかかわる活動	自然や環境保護に関わる活動	スポーツ・文化・レクリエーション活動	まちづくりに関わる活動	防犯、防災に関わる活動	身近な話し相手や相談	地域の人が集う場の運営に関わる活動	特に決めていないが、何か社会貢献がしたい	その他	無回答
自由になる時間帯別	平日の午前	28.6	7.1	10.7	3.6	14.3	17.9	21.4	10.7	7.1	14.3	7.1	42.9	0.0	10.7
	平日の午後	9.1	4.5	22.7	4.5	31.8	18.2	27.3	13.6	0.0	22.7	9.1	27.3	0.0	9.1
	平日の夜間	21.9	12.5	9.4	3.1	18.8	25.0	31.3	25.0	0.0	31.3	6.3	31.3	3.1	12.5
	土曜日の午前	21.9	6.3	6.3	6.3	9.4	21.9	21.9	15.6	3.1	28.1	9.4	37.5	0.0	9.4
	土曜日の午後	25.6	14.0	16.3	7.0	18.6	30.2	23.3	25.6	4.7	30.2	11.6	30.2	0.0	7.0
	土曜日の夜間	21.2	18.2	9.1	9.1	21.2	18.2	21.2	18.2	0.0	36.4	3.0	36.4	3.0	3.0
	日曜・祝日の午前	27.5	10.0	10.0	7.5	15.0	15.0	22.5	17.5	5.0	40.0	5.0	37.5	2.5	5.0
	日曜・祝日の午後	30.0	12.0	16.0	14.0	16.0	20.0	20.0	22.0	2.0	42.0	4.0	30.0	0.0	6.0
	日曜・祝日の夜間	30.0	26.7	20.0	13.3	20.0	16.7	20.0	20.0	3.3	23.3	6.7	36.7	0.0	3.3
	自由に時間がとれる	31.6	10.5	26.3	5.3	15.8	15.8	15.8	5.3	5.3	31.6	15.8	42.1	0.0	5.3
	自由になる時間がほとんどない	34.4	8.2	6.6	9.8	14.8	13.1	14.8	13.1	1.6	16.4	3.3	36.1	0.0	6.6
	無回答	10.0	0.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	10.0	20.0	0.0	20.0	0.0	20.0

問 14 で「活動したことはなく、今後も活動しないと思う」と答えた方にお聞きします。

問 14-4 活動しない理由は何ですか。(1つの番号に○)



活動しない理由については、「仕事が忙しい」の割合が 27.2%と最も高く、次いで「体調がすぐれない」の割合が 18.6%、「時間をとられたくない」の割合が 15.5%となっています。

年齢別でみると、他の年齢に比べ、20～29歳で「時間をとられたくない」、「他の人に任せておけばよい」の割合が高くなっています。また、30～49歳で「仕事が忙しい」の割合が、70歳以上で「体調がすぐれない」の割合が高くなっています。

世帯の状況別でみると、他の世帯状況に比べ、子育てをしている世帯で「仕事が忙しい」の割合が、介護が必要な障害者と同居している世帯で「体調がすぐれない」の割合が高くなっています。

職業別でみると、学生で「実益がない」の割合が、無職で「体調がすぐれない」の割合が高くなっています。また、他の職業に比べ、会社員・団体職員（常勤）、農業、教員、公務員（常勤）で「仕事が忙しい」の割合が高くなっています。

自由になる時間帯別でみると、平日・土曜・日曜・祝日の夜間で「時間をとられたくない」の割合が高くなっています。また、平日の午後と自由に時間がとれる人で「体調がすぐれない」の割合が高くなっています。

◆若い年代では、「仕事が忙しい」、「時間をとられたくない」から活動しないという人が多く、教員については、すべての人において、「仕事が忙しい」という回答でした。

単位：%

		時間をとられたい	仕事が忙しい	他の人に任せておけばよい	体調がすぐれない	興味が無い	実益がない	家族の理解がない	面倒だから	その他	無回答
年齢別	20～29歳	22.7	25.0	4.5	2.3	11.4	2.3	0.0	9.1	18.2	4.5
	30～39歳	19.1	42.6	0.0	4.4	4.4	4.4	0.0	10.3	13.2	1.5
	40～49歳	18.0	46.1	0.0	10.1	5.6	1.1	0.0	7.9	11.2	0.0
	50～59歳	13.8	38.8	0.0	6.3	13.8	2.5	0.0	8.8	15.0	1.3
	60～69歳	17.4	18.2	0.8	24.8	9.9	0.8	1.7	8.3	14.0	4.1
	70歳以上	8.4	6.7	0.8	41.2	7.6	5.0	2.5	4.2	17.6	5.9
	無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

単位：%

		時間をとられたい	仕事が忙しい	他の人に任せておけばよい	体調がすぐれない	興味が無い	実益がない	家族の理解がない	面倒だから	その他	無回答
世帯の状況別	子育てをしている	16.3	41.9	0.0	5.4	7.0	3.1	0.0	10.1	14.7	1.6
	要介護のお年寄りと同居	10.0	23.3	3.3	23.3	3.3	10.0	0.0	3.3	23.3	0.0
	要介護の障がい者と同居	14.3	14.3	0.0	28.6	0.0	3.6	3.6	10.7	25.0	0.0
	その他	15.5	22.7	0.5	22.7	11.9	0.5	2.1	5.7	17.0	1.5
	無回答	16.4	23.3	1.4	21.9	8.2	3.4	0.0	8.2	8.9	8.2

単位：%

		時間をとられたい	仕事が忙しい	他の人に任せておけばよい	体調がすぐれない	興味が無い	実益がない	家族の理解がない	面倒だから	その他	無回答
居住地区別	亀崎地区	22.0	22.0	0.0	10.2	15.3	1.7	3.4	1.7	16.9	6.8
	乙川地区	17.6	26.5	1.5	15.4	9.6	4.4	1.5	8.8	12.5	2.2
	半田地区	17.0	29.6	0.0	23.7	5.2	3.0	0.7	6.7	11.9	2.2
	成岩地区	12.0	27.0	0.0	21.0	6.0	2.0	0.0	12.0	18.0	2.0
	青山地区	9.5	28.6	2.4	17.9	11.9	1.2	0.0	7.1	16.7	4.8
	わからない	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
	無回答	20.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0

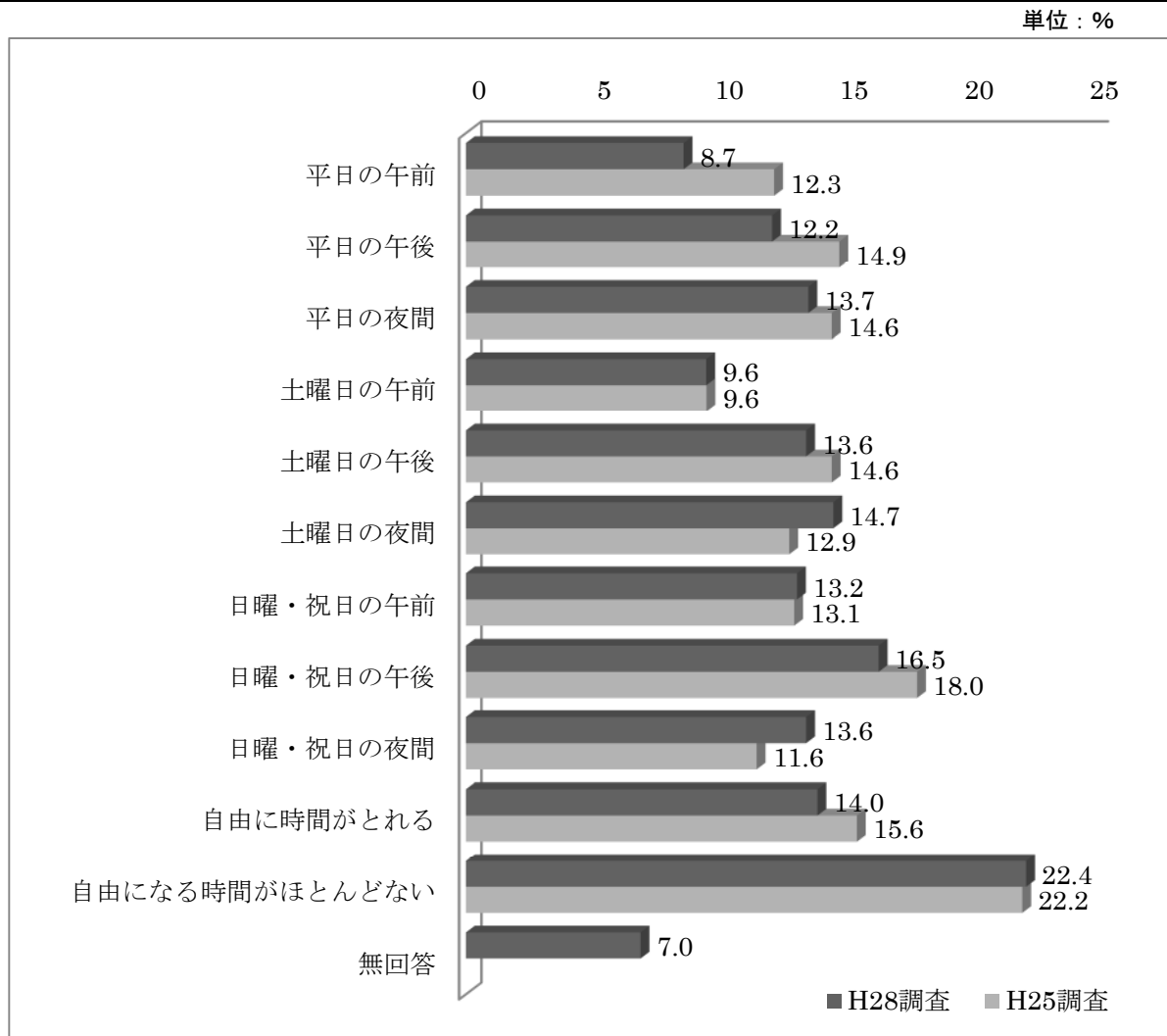
単位：%

		い時間をとられたくない	仕事が忙しい	他の人に任せておけばよい	体調がすぐれない	興味がない	実益がない	家族の理解がない	面倒だから	その他	無回答
職業別	会社員・団体職員（常勤）	20.3	50.3	1.3	4.6	7.2	2.0	0.0	7.2	5.9	1.3
	自営業	20.0	46.7	0.0	10.0	3.3	0.0	0.0	3.3	16.7	0.0
	農業	0.0	83.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0
	教員（常勤）	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	公務員（常勤）	15.4	61.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	15.4	0.0
	派遣従業員	0.0	50.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0
	パート・アルバイト・内職	21.3	34.7	0.0	8.0	8.0	6.7	0.0	6.7	12.0	2.7
	専業主婦・主夫	15.1	1.4	0.0	24.7	11.0	1.4	2.7	15.1	27.4	1.4
	学生	16.7	16.7	16.7	16.7	0.0	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0
	無職	9.5	0.7	0.7	41.9	10.8	2.7	2.0	6.1	18.2	7.4
	その他	0.0	45.5	0.0	0.0	18.2	0.0	0.0	0.0	36.4	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	

単位：%

		い時間をとられたくない	仕事が忙しい	他の人に任せておけばよい	体調がすぐれない	興味がない	実益がない	家族の理解がない	面倒だから	その他	無回答
自由になる時間帯	平日の午前	19.0	4.8	0.0	19.0	14.3	0.0	2.4	9.5	26.2	4.8
	平日の午後	22.7	1.5	0.0	30.3	10.6	4.5	3.0	12.1	13.6	1.5
	平日の夜間	26.3	33.8	1.3	6.3	10.0	2.5	0.0	2.5	15.0	2.5
	土曜日の午前	20.4	24.1	3.7	3.7	14.8	3.7	0.0	5.6	20.4	3.7
	土曜日の午後	20.3	21.7	2.9	2.9	15.9	4.3	1.4	10.1	17.4	2.9
	土曜日の夜間	25.0	35.7	1.2	2.4	9.5	3.6	0.0	3.6	16.7	2.4
	日曜・祝日の午前	18.9	29.7	2.7	1.4	12.2	4.1	0.0	8.1	20.3	2.7
	日曜・祝日の午後	19.6	32.6	2.2	4.3	14.1	2.2	1.1	6.5	15.2	2.2
	日曜・祝日の夜間	25.9	31.8	2.4	7.1	10.6	1.2	0.0	4.7	14.1	2.4
	自由に時間がとれる	9.5	4.8	1.2	38.1	13.1	2.4	0.0	9.5	15.5	6.0
	自由になる時間がほとんどない	10.7	41.6	0.0	14.1	3.4	2.7	1.3	8.1	16.8	1.3
無回答	5.4	16.2	0.0	37.8	2.7	2.7	2.7	0.0	16.2	16.2	

問 15 あなたが、自由になる時間帯はいつですか。(あてはまるすべての番号に○)



自由になる時間帯については、「自由になる時間がほとんどない」の割合が22.4%と最も高く、次いで「日曜・祝日の午後」の割合が16.5%、「土曜日の夜間」の割合が14.7%となっています。

年齢別でみると、他の年齢に比べ、20～29歳で「日曜・祝日の午前、午後、夜間」の割合が、30～39歳で「自由になる時間がほとんどない」の割合が、70歳以上で「自由に時間がとれる」の割合が高くなっています。

家族構成別でみると、他の家族構成に比べ、一人暮らしと夫婦のみで「自由に時間がとれる」の割合が、親子と祖父母（曾祖父母）で「日曜・祝日の午後」の割合が高くなっています。

職業別でみると、会社員・団体職員（常勤）で「土曜の夜間」の割合が、学生で「平日の夜間」、「日曜・祝日の午後」の割合が高くなっています。また、他の職業に比べ、専業主婦・主夫・無職で「平日の午前、午後」の割合が、教員で「自由になる時間がほとんどない」の割合が高くなっています。

◆年齢が上がるほど、自由に時間がとれる人が多く、年齢が下がるほど、自由になる時間がほとんどない人が多い傾向です。前回調査と同様の結果です。

単位：%

		平日の午前	平日の午後	平日の夜間	土曜日の午前	土曜日の午後	土曜日の夜間	日曜・祝日の午前	日曜・祝日の午後	日曜・祝日の夜間	自由に時間がとれる	自由になる時間がほとんどない	無回答
年齢別	20～29歳	1.9	4.8	27.6	15.2	19.0	26.7	21.0	27.6	28.6	8.6	27.6	0.0
	30～39歳	6.8	3.8	19.5	12.8	16.5	21.1	18.8	18.8	18.8	3.0	31.6	3.8
	40～49歳	4.8	5.9	16.0	11.7	17.6	23.9	14.9	21.3	21.8	2.7	28.2	3.2
	50～59歳	8.1	9.7	10.8	13.0	15.1	14.1	18.4	21.1	10.8	10.3	29.2	3.8
	60～69歳	13.4	17.6	12.6	7.1	13.0	10.1	9.7	11.8	8.4	19.7	16.0	7.1
	70歳以上	11.5	21.3	6.3	4.0	6.3	4.3	5.5	8.3	5.5	28.1	12.3	15.8
	無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7

単位：%

		平日の午前	平日の午後	平日の夜間	土曜日の午前	土曜日の午後	土曜日の夜間	日曜・祝日の午前	日曜・祝日の午後	日曜・祝日の夜間	自由に時間がとれる	自由になる時間がほとんどない	無回答
家族構成別	一人暮らし	8.9	14.4	15.6	8.9	13.3	13.3	13.3	11.1	11.1	21.1	12.2	12.2
	夫婦のみ	11.7	16.8	11.7	6.0	11.1	11.4	8.4	12.8	10.4	22.8	16.1	8.7
	親子のみ	6.1	9.4	14.6	11.3	15.8	17.4	15.4	18.8	14.8	8.4	26.4	4.7
	親子と祖父母(曾祖父母)	9.4	8.2	17.6	10.6	14.1	15.3	14.1	23.5	20.0	4.7	34.1	0.0
	親子と祖父母(曾祖父母)とその他	15.4	7.7	15.4	7.7	0.0	7.7	7.7	7.7	7.7	7.7	38.5	7.7
	親子とその他	0.0	0.0	0.0	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0
	その他	12.6	16.1	9.2	10.3	10.3	13.8	18.4	17.2	14.9	20.7	18.4	12.6
	無回答	8.3	16.7	16.7	16.7	16.7	8.3	8.3	16.7	16.7	16.7	8.3	16.7

単位：%

		平日の午前	平日の午後	平日の夜間	土曜日の午前	土曜日の午後	土曜日の夜間	日曜・祝日の午前	日曜・祝日の午後	日曜・祝日の夜間	自由に時間がとれる	自由になる時間がほとんどない	無回答
居住地区別	亀崎地区	6.2	15.4	13.8	12.3	17.7	20.8	13.8	20.8	19.2	13.1	13.8	8.5
	乙川地区	10.0	13.3	13.7	10.4	15.6	13.0	14.4	18.1	13.0	16.3	20.7	9.6
	半田地区	8.7	12.0	13.6	7.4	12.9	12.6	11.0	15.9	9.7	14.9	24.6	3.9
	成岩地区	9.9	11.7	12.7	10.3	11.7	13.1	13.1	13.6	15.5	10.8	27.7	7.0
	青山地区	7.1	10.0	15.3	10.0	11.2	18.8	15.9	16.5	15.3	12.9	21.8	5.9
	わからない	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	0.0	33.3
	無回答	14.3	0.0	14.3	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	28.6	14.3	14.3

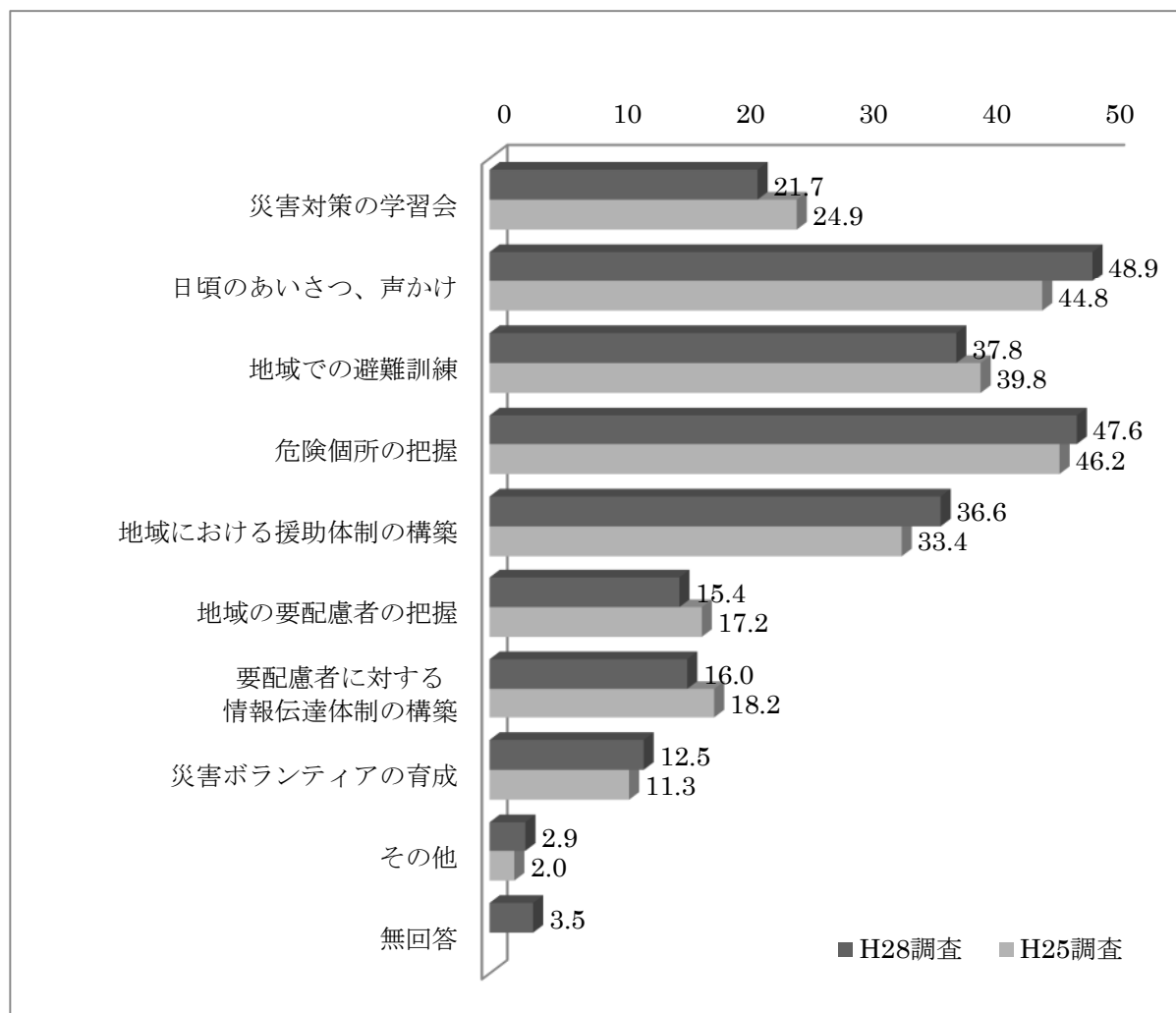
単位：%

		平日の午前	平日の午後	平日の夜間	土曜日の午前	土曜日の午後	土曜日の夜間	日曜・祝日の午前	日曜・祝日の午後	日曜・祝日の夜間	自由に時間がとれる	自由になる時間がほとんどない	無回答
職業別	会社員・団体職員（常勤）	1.0	1.3	16.1	16.5	21.3	26.1	23.2	26.5	21.0	4.2	25.2	4.8
	自営業	5.6	4.2	18.1	4.2	13.9	18.1	15.3	15.3	12.5	9.7	41.7	8.3
	農業	9.1	0.0	18.2	0.0	0.0	9.1	0.0	9.1	18.2	36.4	18.2	0.0
	教員（常勤）	0.0	0.0	7.7	0.0	23.1	23.1	7.7	30.8	30.8	0.0	46.2	0.0
	公務員（常勤）	2.9	5.7	31.4	20.0	20.0	22.9	17.1	22.9	17.1	5.7	28.6	0.0
	派遣従業員	0.0	14.3	28.6	14.3	14.3	14.3	0.0	28.6	14.3	0.0	28.6	14.3
	パート・アルバイト・内職	7.3	13.9	16.4	11.5	15.8	15.8	14.5	20.0	15.8	6.7	24.2	4.2
	専業主婦・主夫	18.2	20.1	7.5	3.8	6.3	4.4	3.8	3.8	5.0	17.6	22.0	5.7
	学生	0.0	11.1	50.0	11.1	22.2	22.2	27.8	44.4	38.9	0.0	27.8	0.0
	無職	15.5	23.8	6.5	4.0	5.1	3.2	4.0	6.1	4.7	29.2	12.3	13.4
	その他	9.4	6.3	18.8	18.8	25.0	28.1	31.3	28.1	28.1	21.9	12.5	3.1
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0	33.3	16.7	16.7	

4 災害時における助け合いについて

問 16 南海トラフ巨大地震等が懸念される中で、災害時における地域の助け合いは、非常に重要なことです。あなたの住む地域における災害時の備えとして、どのようなことが重要だと思いますか。（3つまで番号に○）

単位：％



地域における災害時の備えとして重要だと思うことについては、「日頃のあいさつ、声かけ」の割合が 48.9%と最も高く、次いで「危険箇所の把握」の割合が 47.6%、「地域での避難訓練」の割合が 37.8%となっています。

世帯の状況別でみると、介護が必要なお年寄りと同居している世帯で「日頃からのあいさつ、声かけ」の割合が、介護が必要な障がいのある方と同居している世帯で「災害ボランティアの育成」の割合が高くなっています。また、他の世帯状況に比べ、子育てをしている世帯で「危険箇所の把握」、「地域における援助体制の構築」の割合が高くなっています。

居住地区別でみると、他の地区に比べ、亀崎地区で「要配慮者に対する情報伝達体制の構築」の割合が高くなっています。

近所付き合いの程度別でみると、近所づきあいをしている人ほど「日頃からのあいさつ、声かけや付き合い」「地域での避難訓練」の割合が高くなる傾向がみられます。また、他の近所付き合いの程度に比べ、ほとんど付き合いがない人で「地域における援助体制の構築」「要援護者に対する情報伝達体制の構築」の割合が高くなっています。

◆「日頃のあいさつ・声かけ」、「危険個所の把握」が重要だと思っている人が多い傾向にあります。前回調査と同様の傾向です。

単位：％

		災害対策の学習会	日頃のあいさつ、声かけ	地域での避難訓練	危険個所の把握	地域における援助体制の構築	地域の要配慮者の把握	要配慮者に対する情報伝達体制の構築	災害ボランティアの育成	その他	無回答
家族構成別	一人暮らし	18.9	43.3	37.8	37.8	35.6	14.4	17.8	13.3	5.6	5.6
	夫婦のみ	22.8	53.4	41.9	44.3	32.2	12.1	16.8	12.4	1.3	4.4
	親子のみ	20.1	46.3	34.4	52.9	40.2	16.0	15.4	12.9	3.3	2.7
	親子と祖父母（曾祖父母）	29.4	51.8	32.9	51.8	41.2	23.5	20.0	15.3	0.0	1.2
	親子と祖父母（曾祖父母）とその他	15.4	46.2	46.2	38.5	30.8	23.1	0.0	7.7	7.7	0.0
	親子とその他	37.5	50.0	25.0	50.0	37.5	25.0	12.5	0.0	0.0	12.5
	その他	23.0	49.4	48.3	37.9	31.0	12.6	14.9	10.3	5.7	4.6
	無回答	16.7	66.7	41.7	25.0	8.3	25.0	8.3	0.0	0.0	8.3

単位：％

		災害対策の学習会	日頃のあいさつ、声かけ	地域での避難訓練	危険個所の把握	地域における援助体制の構築	地域の要配慮者の把握	要配慮者に対する情報伝達体制の構築	災害ボランティアの育成	その他	無回答
世帯の状況別	子育てをしている	21.2	47.4	38.0	53.6	43.0	15.3	17.4	13.1	3.1	1.6
	要介護のお年寄りと同居	25.9	61.1	38.9	48.1	25.9	20.4	11.1	7.4	3.7	1.9
	要介護の障がい者と同居	15.1	47.2	37.7	47.2	35.8	17.0	13.2	13.2	1.9	7.5
	その他	22.0	49.3	35.8	44.8	34.3	15.3	16.5	11.8	3.3	3.0
	無回答	21.8	48.5	39.9	45.4	35.5	15.4	14.7	13.3	2.4	5.8

単位：%

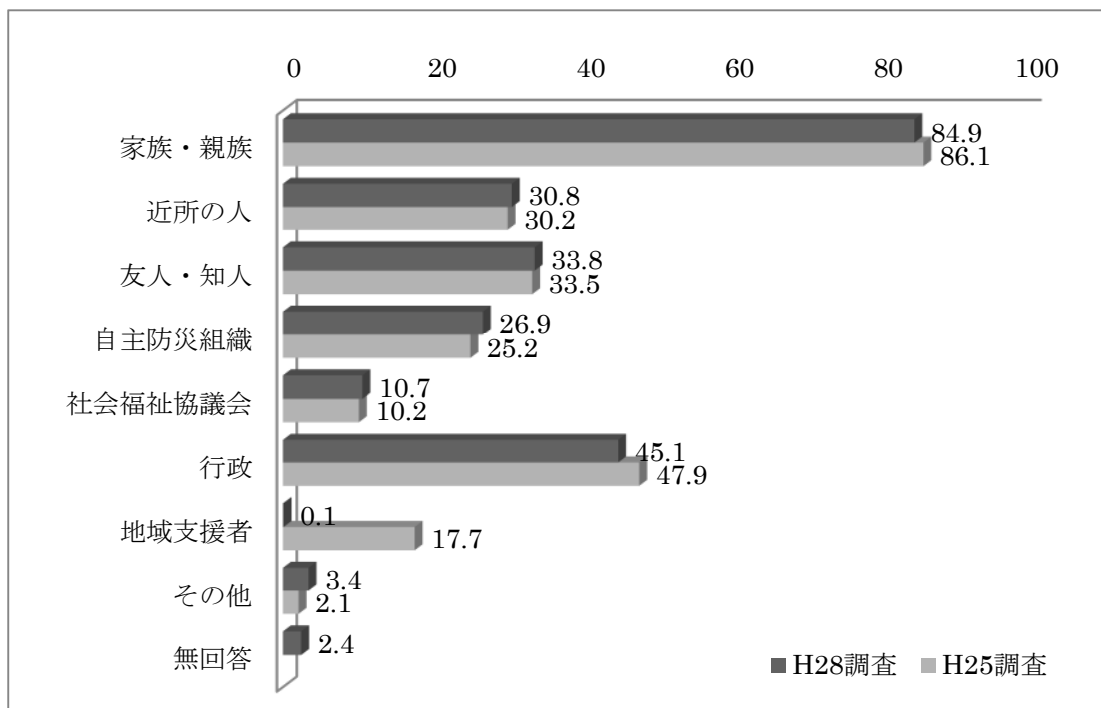
		災害対策の学習会	日頃のあいさつ、声かけ	地域での避難訓練	危険個所の把握	地域における援助体制の構築	地域の要配慮者の把握	要配慮者に対する情報伝達体制の構築	災害ボランティアの育成	その他	無回答
居住地区別	亀崎地区	22.3	46.9	36.9	45.4	34.6	15.4	20.0	13.1	3.1	3.1
	乙川地区	23.3	50.0	38.5	49.6	32.6	15.6	16.3	12.6	3.7	4.8
	半田地区	23.0	46.9	41.4	48.9	38.5	13.6	13.9	10.4	2.3	2.3
	成岩地区	18.8	51.6	31.0	48.4	37.6	14.6	16.4	17.4	1.4	3.3
	青山地区	21.2	48.8	39.4	44.7	39.4	20.0	16.5	8.8	4.1	4.1
	わからない	16.7	66.7	50.0	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0
	無回答	0.0	28.6	28.6	14.3	42.9	14.3	14.3	14.3	14.3	14.3

単位：%

		災害対策の学習会	日頃のあいさつ、声かけ	地域での避難訓練	危険個所の把握	地域における援助体制の構築	地域の要配慮者の把握	要配慮者に対する情報伝達体制の構築	災害ボランティアの育成	その他	無回答
近所付き合いの程度別	日頃から助け合っている	21.1	61.4	38.6	40.4	31.6	15.8	15.8	9.6	2.6	7.0
	気の合った人とは親しくしている	18.8	59.0	37.6	43.2	30.3	17.5	15.0	15.4	1.7	4.7
	あいさつはする	23.4	46.9	39.1	50.6	39.6	14.8	15.9	11.4	2.4	2.2
	ほとんどつきあいが ない	19.0	24.8	29.5	48.6	40.0	12.4	17.1	13.3	9.5	4.8
	その他	22.2	33.3	33.3	44.4	22.2	22.2	44.4	44.4	0.0	0.0
	無回答	21.4	57.1	42.9	42.9	28.6	21.4	14.3	7.1	0.0	7.1

問 17 被災後の生活において、あなたは誰を頼りにしますか。(あてはまるすべての番号に○)

単位：%



被災後の生活において頼りにしている相手については、「家族・親族」の割合が 84.9%と最も高く、次いで「行政(市役所など)」の割合が 45.1%、「友人・知人」の割合が 33.8%、「近所の人」の割合が 30.8%となっています。

年齢別でみると、すべての年齢で「家族・親族」の割合が最も高く、8割以上となっています。また、他の年齢に比べ、20～29歳で「友人・知人」の割合が、50～59歳で「行政(市役所など)」の割合が、60歳以上で「近所の人」、「自主防災組織」の割合が高くなっています。

近所付き合いの程度別でみると、近所づきあいをしている人ほど「近所の人」「自主防災組織(自治区など)」の割合が高くなる傾向がみられます。また、ほとんど付き合いがない人で「近所の人」の割合が特に低く、約1割となっています。

◆近所付き合いをしている人ほど、「近所の人」など身近な地域の人たちを、若い人ほど「友人・知人」を頼りにする傾向があります。前回調査と同様の傾向です。

単位：％

		家族・親族	近所の人	友人・知人	自主防災組織	会 社会福祉協議	行政	地域支援者	その他	無回答
年齢別	20～29歳	85.7	23.8	47.6	22.9	14.3	41.9	0.0	7.6	1.0
	30～39歳	91.7	28.6	44.4	23.3	7.5	43.6	0.0	4.5	1.5
	40～49歳	84.6	25.5	36.2	22.9	8.0	45.2	0.0	2.7	1.6
	50～59歳	82.7	24.3	37.3	25.9	8.1	51.9	0.0	5.9	0.5
	60～69歳	83.2	36.6	26.9	32.8	13.0	47.5	0.4	1.7	3.4
	70歳以上	84.2	37.9	24.9	28.9	12.6	39.9	0.0	1.6	4.7
	無回答	100.0	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0

単位：％

		家族・親族	近所の人	友人・知人	自主防災組織	会 社会福祉協議	行政	地域支援者	その他	無回答
居住地区別	亀崎地区	87.7	34.6	35.4	26.2	12.3	43.1	0.0	0.8	2.3
	乙川地区	84.4	29.3	32.2	26.3	11.9	46.3	0.0	2.6	2.2
	半田地区	85.8	31.4	34.3	34.0	9.7	43.7	0.0	2.3	2.3
	成岩地区	85.0	31.9	36.2	23.0	9.4	46.5	0.0	3.8	2.8
	青山地区	83.5	27.6	33.5	19.4	9.4	44.1	0.0	8.2	2.9
	わからない	50.0	33.3	16.7	66.7	33.3	83.3	16.7	0.0	0.0
	無回答	71.4	28.6	0.0	14.3	28.6	42.9	0.0	14.3	0.0

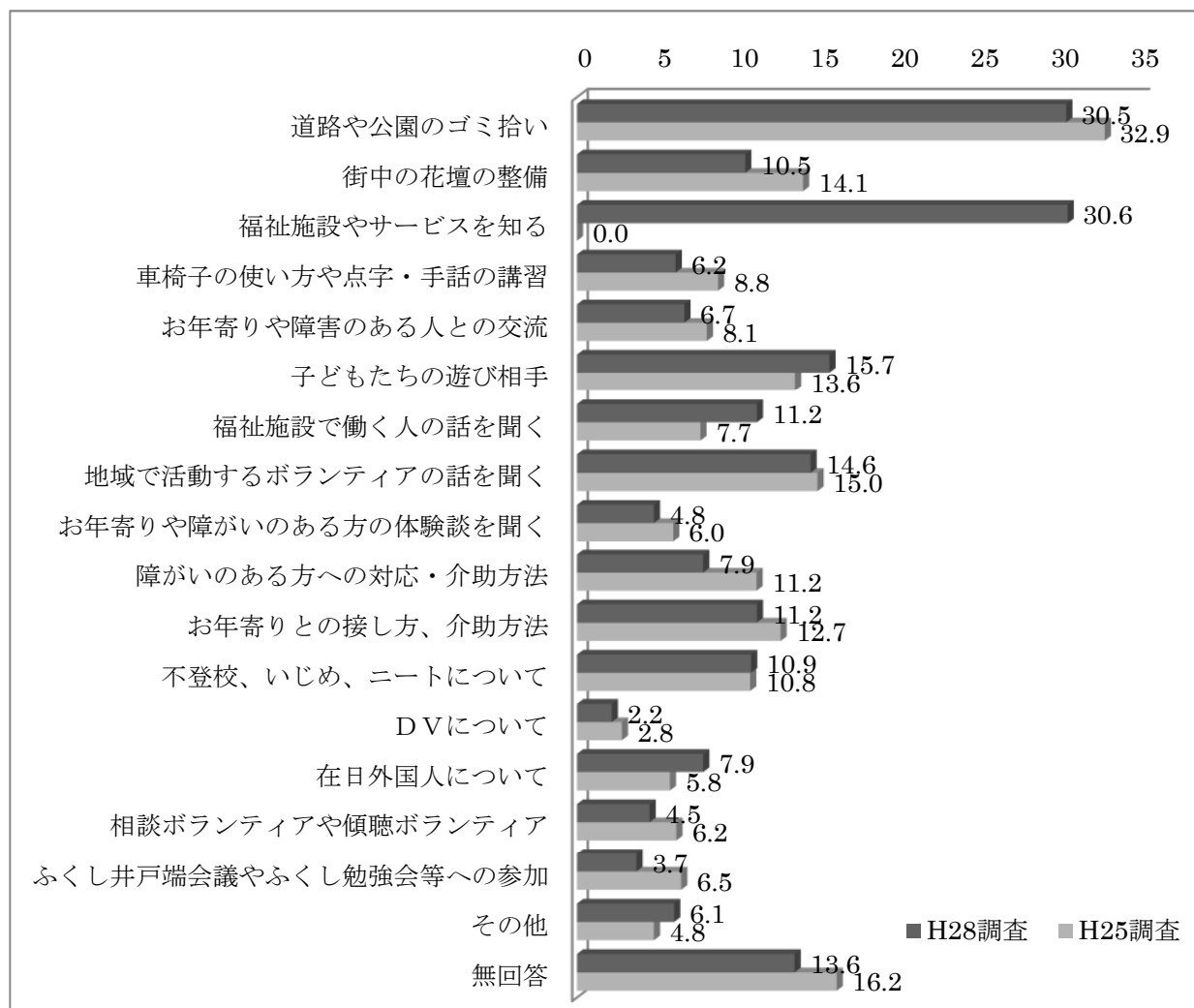
単位：％

		家族・親族	近所の人	友人・知人	自主防災組織	会 社会福祉協議	行政	地域支援者	その他	無回答
近所付き合い合いの程度別	日頃から助け合っている	86.0	56.1	36.8	33.3	16.7	48.2	0.0	0.9	3.5
	気の合った人とは親しくしている	86.8	47.0	40.2	33.8	11.5	43.6	0.0	1.3	4.3
	あいさつはする	86.2	23.7	31.8	25.1	9.1	46.9	0.2	3.0	1.4
	ほとんどつきあいが ない	72.4	8.6	29.5	15.2	12.4	37.1	0.0	12.4	3.8
	その他	77.8	22.2	22.2	11.1	11.1	33.3	0.0	22.2	0.0
	無回答	85.7	42.9	35.7	35.7	7.1	28.6	0.0	0.0	0.0

5 地域の課題について

問 18 あなたは地域の中で、どのようなことを学んだり、活動したいと思いますか。
(3つまで番号に○)

単位：%



地域の中で学んだり、活動したいことについては、「福祉施設やサービスを知る」の割合が30.6%と最も高く、次いで「道路や公園のゴミ拾い」の割合が30.5%、「子どもたちの遊び相手」15.7%、「地域で活動しているボランティアの話を聞く」の割合が14.6%となっています。

年齢別でみると、他の年齢に比べ、20～39歳で「子どもたちの遊び相手」「不登校、いじめ、ニートについて学びたい」の割合が高くなっています。また、年齢が上がるにつれ、「福祉施設やサービスを知る」「福祉施設で働く人の話を聞く」「地域で活動しているボランティアの話を聞く」の割合が高くなる傾向がみられます。

居住地区別でみると、他の地区に比べ、成岩地区で「地域で活動しているボランティアの話を聞く」の割合が高くなっています。また、青山地区で「お年寄りとの接し方、介助方法」の割合が高くなっています。

◆若い年代は子どもに関する事、年齢が上がるにつれて福祉サービス等について関心がある傾向があります。前回調査と同様の傾向です。

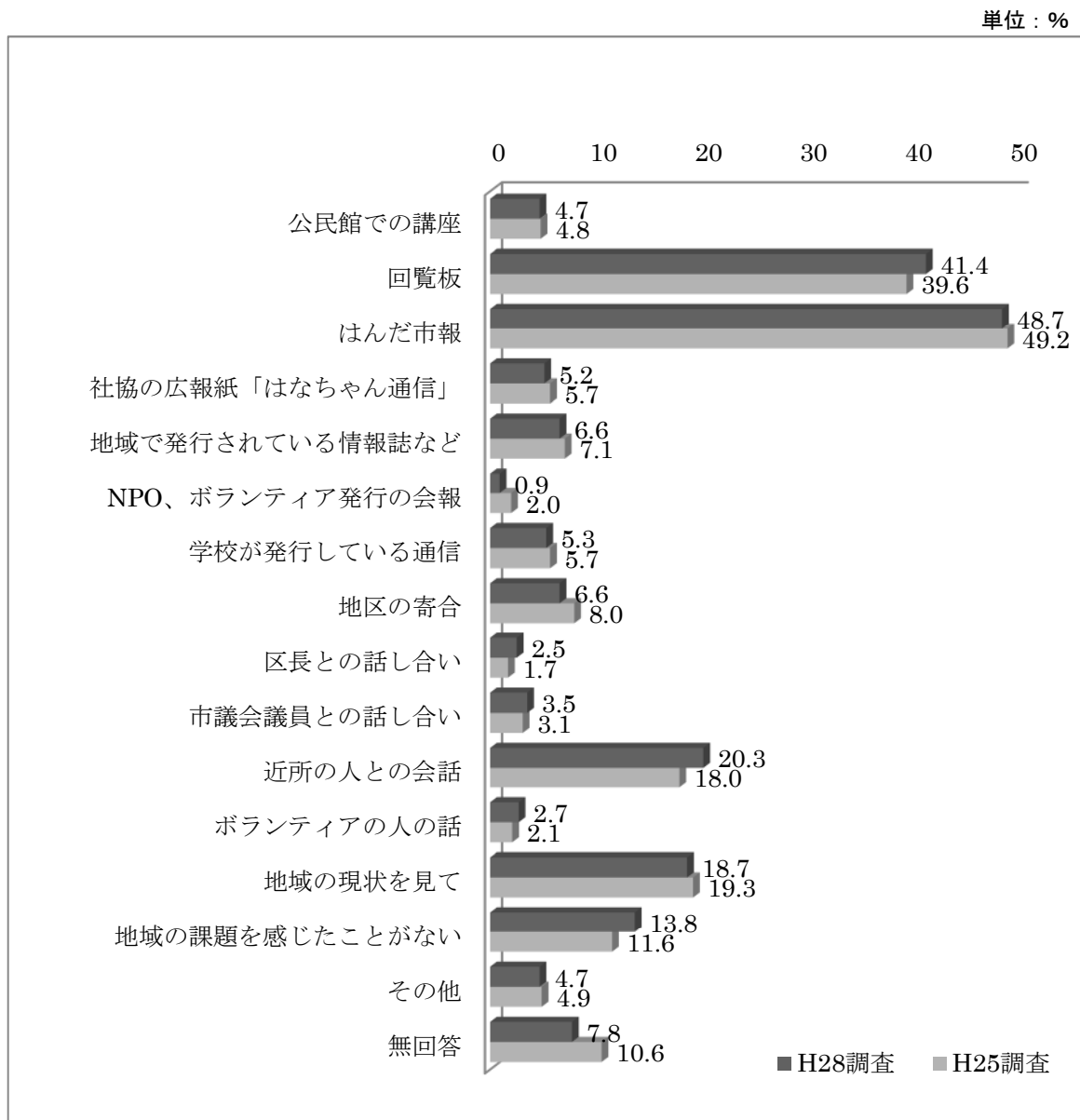
単位：%

		道路や公園のゴミ拾い	街中の花壇の整備	福祉施設やサービスを知る	車椅子の使い方や点字・手話の講習	お年寄りや障害のある人との交流	子どもたちの遊び相手	福祉施設で働く人の話を聞く	地域で活動するボランティアの話を聞く	お年寄りや障がいのある方の体験談を聞く	障がいのある方への対応・介助方法	お年寄りとの接し方、介助方法	不登校、いじめ、ニートについて	DVについて	在日外国人について	相談ボランティアや傾聴ボランティア	ふくし井戸端会議やふくし勉強会等への参加	その他	無回答
年齢別	20～29歳	35.2	8.6	17.1	11.4	14.3	36.2	3.8	5.7	2.9	9.5	11.4	14.3	1.0	13.3	1.9	0.0	9.5	8.6
	30～39歳	32.3	14.3	22.6	3.8	10.5	33.8	3.8	12.0	4.5	9.0	10.5	21.8	3.0	11.3	2.3	1.5	7.5	6.0
	40～49歳	31.4	9.0	28.7	8.0	4.3	15.4	8.5	12.8	5.9	6.9	13.8	19.1	5.3	11.2	5.9	3.2	5.9	8.5
	50～59歳	24.9	5.9	35.7	11.4	4.3	10.8	13.0	14.6	3.8	9.2	13.0	13.5	3.2	9.2	8.1	2.2	5.4	14.6
	60～69歳	31.5	11.8	34.0	2.9	5.9	11.8	13.0	19.3	6.7	7.1	12.6	4.6	0.4	4.6	3.8	4.2	4.6	15.5
	70歳以上	30.4	12.6	34.8	3.2	5.9	5.1	17.4	16.6	4.0	7.1	7.1	1.6	0.8	3.6	4.0	7.5	5.5	20.2
	無回答	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	66.7

単位：%

		道路や公園のゴミ拾い	街中の花壇の整備	福祉施設やサービスを知る	車椅子の使い方や点字・手話の講習	お年寄りや障害のある人との交流	子どもたちの遊び相手	福祉施設で働く人の話を聞く	地域で活動するボランティアの話を聞く	お年寄りや障がいのある方の体験談を聞く	障がいのある方への対応・介助方法	お年寄りとの接し方、介助方法	不登校、いじめ、ニートについて	DVについて	在日外国人について	相談ボランティアや傾聴ボランティア	ふくし井戸端会議やふくし勉強会等への参加	その他	無回答
居住地区別	亀崎地区	28.5	8.5	30.0	3.1	9.2	17.7	10.0	12.3	3.8	8.5	10.0	13.1	1.5	10.0	6.2	3.1	6.9	12.3
	乙川地区	31.5	8.5	33.7	7.4	5.9	16.3	9.3	14.8	7.0	7.0	8.5	13.0	1.5	5.9	3.0	2.6	5.2	13.3
	半田地区	30.7	12.9	32.0	7.4	6.8	15.5	13.3	13.9	4.9	9.4	11.0	9.1	1.0	8.4	6.1	5.2	5.2	12.9
	成岩地区	30.0	10.3	29.1	5.2	6.6	15.5	9.4	16.9	3.8	7.5	13.1	7.0	2.8	8.5	4.7	3.8	8.0	12.7
	青山地区	30.6	10.0	27.6	5.9	6.5	14.1	14.1	14.7	3.5	6.5	15.3	14.1	5.3	8.2	2.9	2.4	5.9	15.9
	わからない	50.0	33.3	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	33.3	16.7	0.0
	無回答	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	14.3	14.3	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	57.1

問 19 あなたが日ごろお住まいの地域の課題を感じる機会は、次のうちどんなときですか。
(3つまで番号に○)



日ごろお住まいの地域の課題を感じる機会については、「はんだ市報」の割合が 48.7%と最も高く、次いで「回覧板」の割合が 41.4%、「近所の人との会話」の割合が 20.3%となっています。

年齢別でみると、60歳以上で「回覧板」「はんだ市報」「近所の人との会話」の割合が高くなっています。一方で、20～39歳で「地域の課題を感じたことがない」の割合が高くなっています。

居住地区別でみると、他の地区に比べ、乙川地区で「回覧板」、「はんだ市報」の割合が高くなっています。一方で、青山地区で「地域の課題を感じたことがない」の割合が高くなっています。

◆地域の課題を感じる機会（情報源）として、「市報」や「回覧板」が重要であることがわかります。また、その割合は年齢が上がるほど高い傾向にあります。前回調査と同様の傾向です。

単位：％

		公民館での講座	回覧板	はんだ市報	社協の広報紙「はなちゃん通信」	地域で発行されている情報誌など	NPO、ボランティア発行の会報	学校が発行している通信	地区の寄合	区長との話し合い	市議会議員との話し合い	近所の人との会話	ボランティアの話	地域の現状を見て	地域の課題を感じたことがない	その他	無回答
年齢別	20～29歳	1.0	21.9	33.3	3.8	6.7	1.0	2.9	5.7	1.0	2.9	9.5	1.0	15.2	23.8	8.6	7.6
	30～39歳	2.3	25.6	36.1	0.0	6.0	1.5	6.8	5.3	2.3	3.8	15.0	1.5	23.3	24.1	8.3	6.8
	40～49歳	3.7	31.4	44.1	4.3	2.1	0.0	11.7	5.9	3.7	3.7	11.7	3.2	19.1	18.1	3.7	6.9
	50～59歳	2.7	38.4	45.9	4.9	4.9	0.5	4.9	5.4	2.2	4.3	18.9	1.6	23.8	13.5	7.0	8.1
	60～69歳	4.6	49.2	54.2	5.9	8.0	1.3	3.8	8.4	2.9	2.9	25.6	3.4	22.7	7.6	3.8	8.0
	70歳以上	9.9	60.1	61.7	8.7	9.9	1.2	2.8	7.5	2.4	3.6	29.2	4.0	9.9	7.1	1.2	8.7
	無回答	0.0	66.7	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0

単位：％

		公民館での講座	回覧板	はんだ市報	社協の広報紙「はなちゃん通信」	地域で発行されている情報誌など	NPO、ボランティア発行の会報	学校が発行している通信	地区の寄合	区長との話し合い	市議会議員との話し合い	近所の人との会話	ボランティアの話	地域の現状を見て	地域の課題を感じたことがない	その他	無回答	
居住地区別	亀崎地区	4.6	40.0	49.2	6.2	6.2	0.8	4.6	6.2	3.8	6.9	19.2	4.6	19.2	12.3	6.2	6.2	
	乙川地区	5.2	44.8	51.1	5.2	5.9	0.4	4.8	9.3	3.0	0.7	23.3	2.2	18.9	10.4	3.0	7.8	
	半田地区	6.5	43.7	50.5	4.2	8.4	2.3	5.5	8.7	2.3	3.2	17.2	4.2	19.1	12.0	5.2	8.1	
	成岩地区	3.8	38.0	46.9	7.5	6.6	0.0	5.6	2.3	1.9	5.2	17.8	1.4	17.8	16.4	5.2	8.0	
	青山地区	1.8	37.6	43.5	3.5	4.1	0.6	5.9	4.7	2.4	4.1	24.7	0.6	18.8	20.6	5.3	7.1	
	わからない	16.7	33.3	33.3	0.0	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	16.7
	無回答	0.0	42.9	57.1	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6	0.0	28.6	0.0	0.0	28.6	

6 半田市地域福祉計画の重点施策について

問 20 半田市地域福祉計画をご存知ですか。(1つの番号に○)

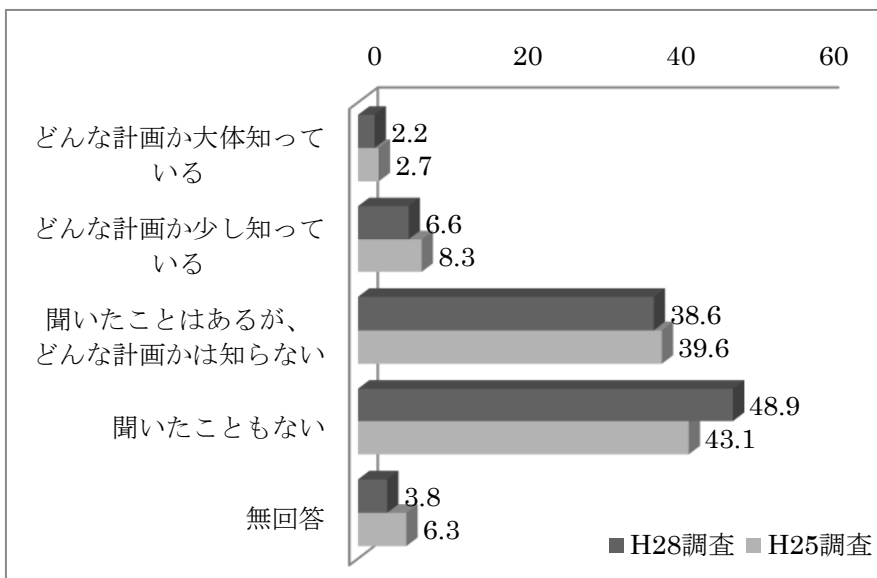
単位：％

半田市地域福祉計画の認知度については、「聞いたこともない」の割合が48.9%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが、どんな計画かは知らない」の割合が38.6%となっています。

年齢別でみると、年齢が上がるにつれ、「どんな計画か知っている」「どんな計画か少し知っている」をあわせて知っている人の割合が高くなる傾向があります。一方で、

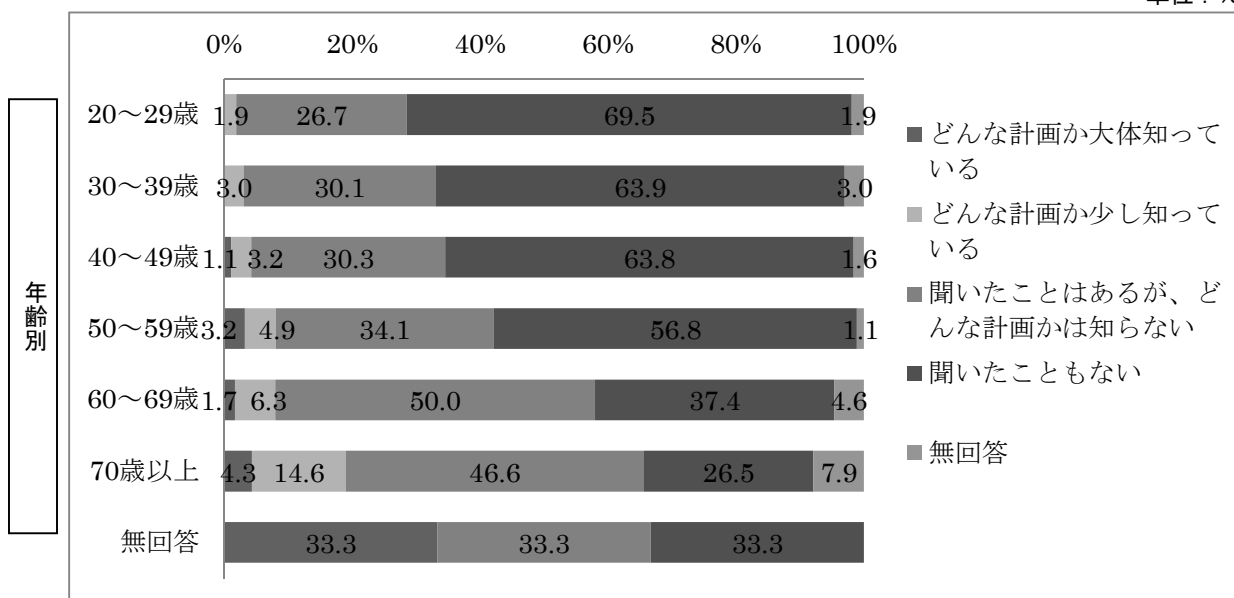
20～49歳では「聞いたこともない」の割合が高く、6割以上となっています。

また、居住地区別でみると、他の地区に比べ、半田地区で「どんな計画か知っている」「どんな計画か少し知っている」をあわせて知っている人の割合が最も高く、次いで成岩地区、乙川地区の割合が高くなっています。一方で、青山地区で「聞いたこともない」の割合が高くなっています。

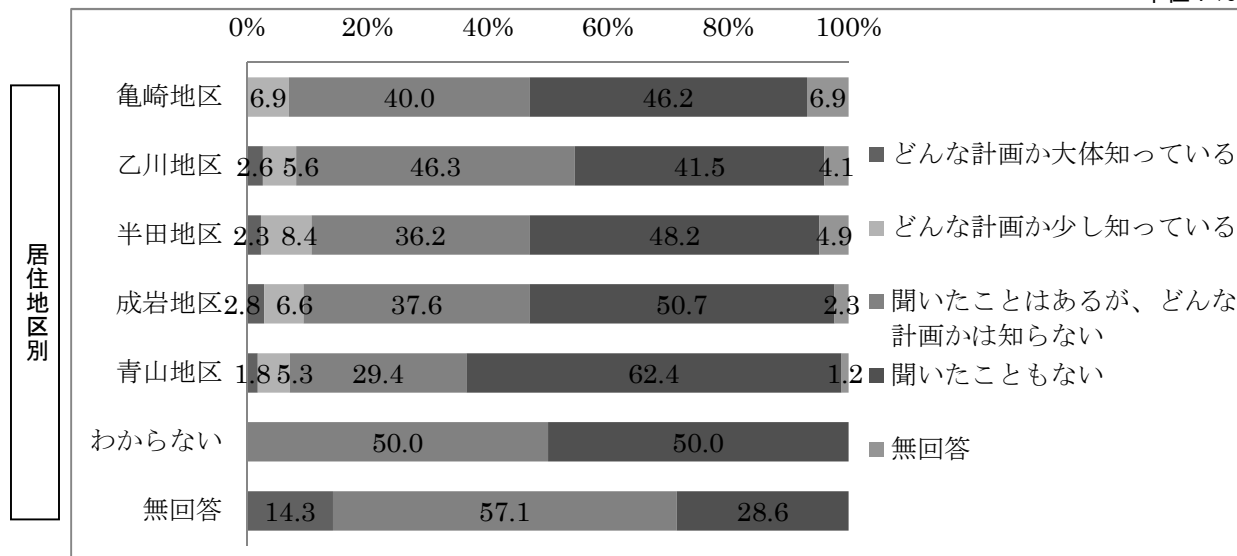


◆計画策定から6年が経過しましたが、計画の認知度がまだ低いことが表れています。その中でも、年齢が下がるほど知られていない傾向です。前回調査と同様の傾向です。

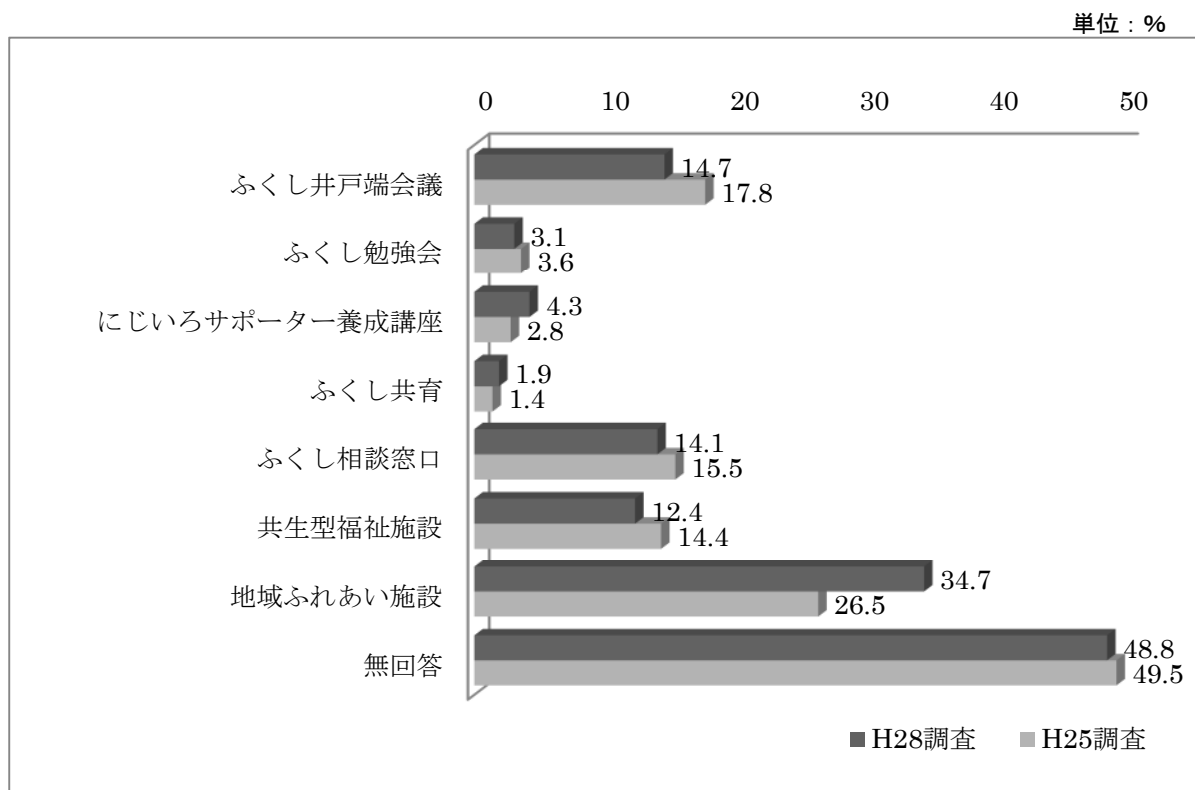
単位：％



単位：%



問 21 以下の項目で知っている・聞いたことのあるものは何ですか。(あてはまるすべての番号に○)



半田市地域福祉計画の重点施策に関連する項目の認知度については、「無回答」の割合が48.8%と最も高くなっています。回答のあった中では、「地域ふれあい施設」の割合が34.7%と最も高く、次いで「ふくし井戸端会議」の割合が14.7%となっています。

年齢別でみると、他の年齢に比べ、20～29歳で「無回答」の割合が高く、6割以上となっています。また、50～69歳で「ふくし井戸端会議」の割合が、70歳以上で「地域ふれあい施設」の割合が高くなっています。

居住地区別でみると、他の地区に比べ、乙川地区で「共生型福祉施設」の割合が高く、3割となっています。また、乙川地区・半田地区で「地域ふれあい施設」の割合が、成岩地区で「ふくし相談窓口」の割合が高くなっています。一方で、青山地区で「無回答」の割合が高く、6割以上となっています。

◆各施策について、より効果的な周知を工夫していく必要があると考えられます。前回調査と比較して、「地域ふれあい施設」の認知が増加しており、特に60歳以上の人が増えています。

単位：％

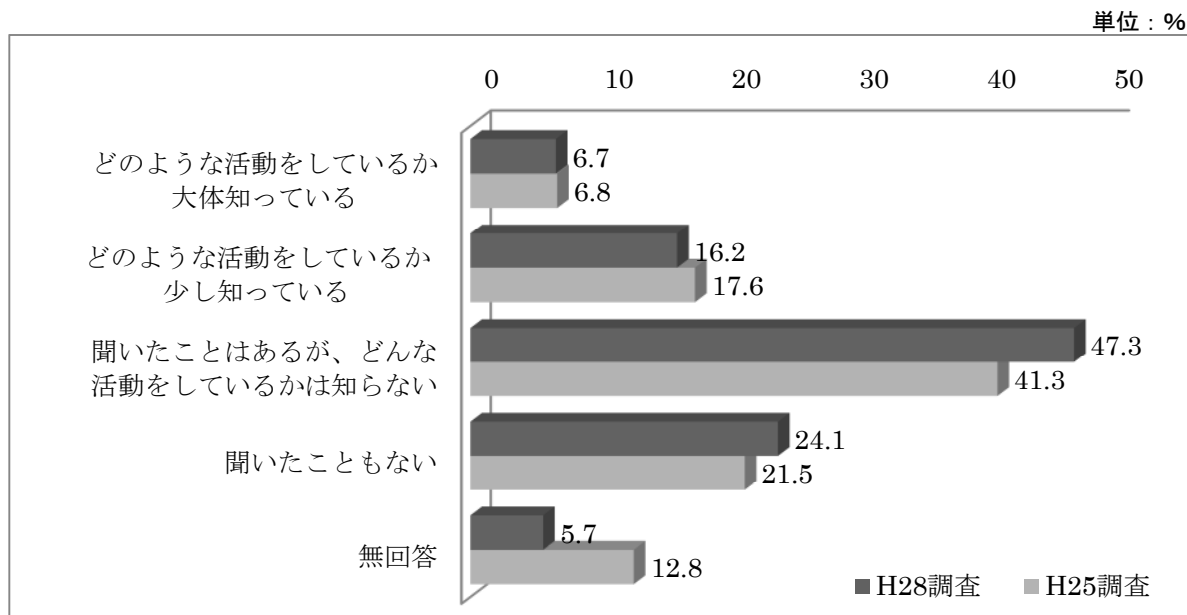
		ふくし井戸端会議	ふくし勉強会	にじいろサポーター養成講座	ふくし共育	ふくし相談窓口	共生型福祉施設	地域ふれあい施設	無回答
年齢別	20～29歳	4.8	1.9	3.8	1.0	13.3	4.8	25.7	64.8
	30～39歳	12.0	0.0	1.5	1.5	9.8	9.0	27.8	57.1
	40～49歳	13.3	1.6	6.4	2.1	10.1	13.8	29.8	55.3
	50～59歳	16.8	4.3	5.4	3.8	8.6	14.1	28.6	55.7
	60～69歳	16.0	3.8	4.6	1.7	17.2	14.7	40.8	40.3
	70歳以上	13.1	3.4	2.2	0.8	14.8	9.2	31.6	24.9
	無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

単位：％

		ふくし井戸端会議	ふくし勉強会	にじいろサポーター養成講座	ふくし共育	ふくし相談窓口	共生型福祉施設	地域ふれあい施設	無回答
居住地区別	亀崎地区	15.4	3.8	4.6	3.8	14.6	9.2	24.6	56.9
	乙川地区	15.6	3.0	4.1	1.1	13.0	30.0	48.5	32.2
	半田地区	14.6	3.2	2.9	2.3	14.6	6.1	46.9	44.0
	成岩地区	14.6	2.3	5.6	2.3	16.4	7.5	22.1	56.3
	青山地区	13.5	2.9	4.1	0.6	11.2	5.3	14.7	67.6
	わからない	16.7	0.0	33.3	0.0	16.7	0.0	33.3	50.0
	無回答	0.0	14.3	0.0	0.0	28.6	0.0	14.3	57.1

7 社会福祉協議会について

問 22 半田市社会福祉協議会をご存知ですか。(1つの番号に○)



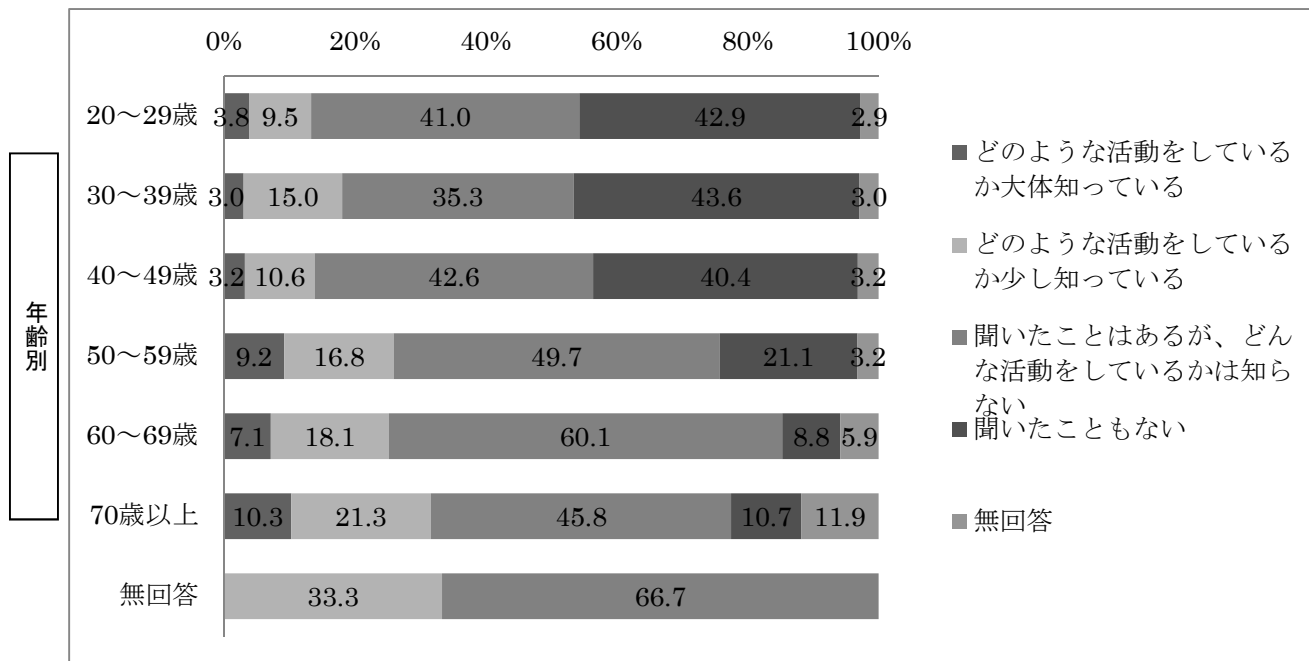
半田市社会福祉協議会の認知度については、「聞いたことはあるが、どんな活動をしているかは知らない」の割合が47.3%と最も高く、次いで「聞いたこともない」の割合が24.1%、「どんな活動をしているか少し知っている」の割合が16.2%となっています。

年齢別でみると、年齢が上がるにつれ、「どんな活動をしているか大体知っている」、「どんな活動をしているか少し知っている」をあわせた知っている人の割合が高くなる傾向がみられます。一方で、20～49歳で「聞いたこともない」の割合が高く、4割以上となっています。

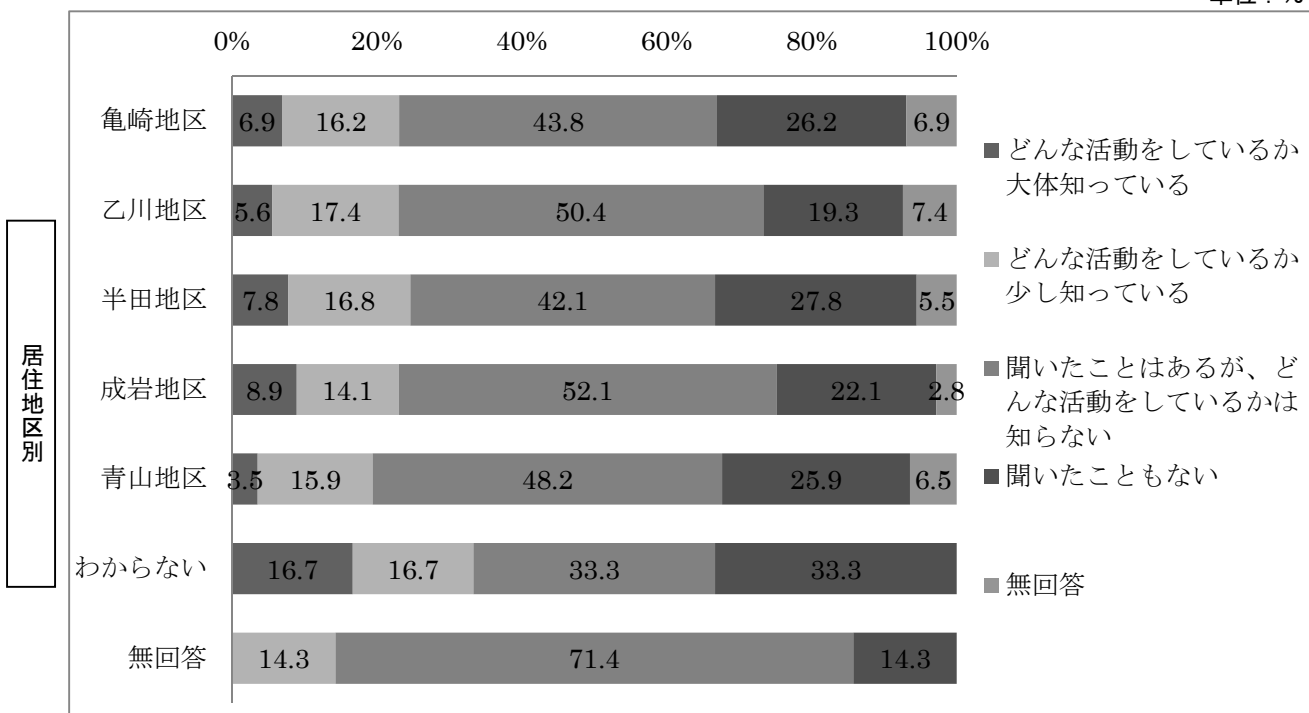
居住地区別でみると、他の地区に比べ、半田地区で「どんな活動をしているか大体知っている」、「どんな活動をしているか少し知っている」の合計の割合が高くなっています。一方で、成岩地区で「聞いたことはあるがどんな活動をしているかは知らない」の割合が高くなっています。

◆前回調査と比べ、認知度は増加しておらず、特に50歳以下については「聞いたこともない」人が4割を超えています。

単位：%

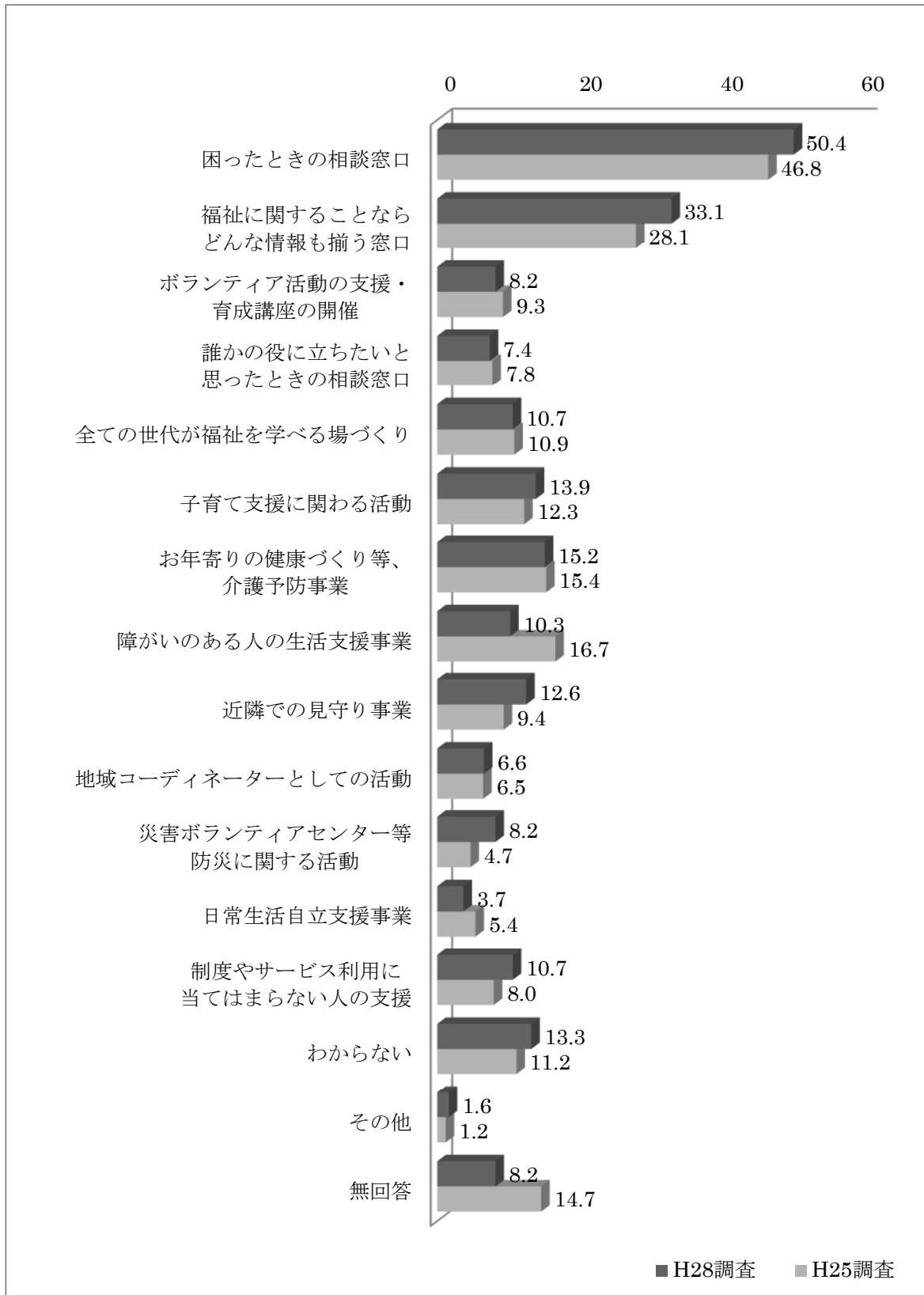


単位：%



問 23 半田市社会福祉協議会に対してどんな事業を望みますか。(3つまで番号に○)

単位：%



半田市社会福祉協議会に対して望む事業については、「困ったときの相談窓口」の割合が 50.4%と最も高く、次いで「福祉に関することならどんな情報でも揃う窓口」の割合が 33.1%、「お年寄りの健康づくり等、介護予防事業」の割合が 15.2%となっています。

年齢別でみると、他の年齢に比べ、20～39歳で「子育て支援に関わる活動」の割合が高くなっています。また、40～69歳で「困ったときの相談窓口」の割合が、60歳以上で「お年寄りの健康づくりなど介護予防事業」の割合が高くなっています。70歳以上では「近隣での見守り事業」も高い割合が見られます。

居住地区別でみると、すべての地区で「困ったときの相談窓口」の割合が高く、約 5割となっています。また、成岩地区で「福祉に関することならどんな情報でも揃う窓口」の割合が、半田地区で「お年寄りの健康づくり等、介護予防事業」の割合が、乙川地区で「近隣での見守り事業」の割合が高くなっています。

家族構成別でみると、他の家族構成に比べ、夫婦のみ、親子と祖父母で「困ったときの相談窓口」の割合が高く、5割以上となっています。また、親子とその他（おじ、おば等）で「ボランティア活動の支援・養成講座の開催」の割合が、親子と祖父母とその他（おじ、おば等）で「全ての世代が福祉を学べる場づくり」の割合が高くなっています。

◆前回同様、「困ったときの相談窓口」、「福祉に関する情報」がとても多く、若い年代で見ると「子育て支援に関わる活動」もとても多い傾向にあります。前回調査と同様の傾向です。

単位：％

		困ったときの相談窓口	福祉に関する情報も揃う窓口	ボランティア活動の支援・育成講座の開催	誰かの役に立ちたいと思ったときの相談窓口	全ての世代が福祉を学べる場づくり	子育て支援に関わる活動	お年寄りの健康づくり等、介護予防事業	障がいのある人の生活支援事業	近隣での見守り事業	地域コーディネーターとしての活動	災害ボランティアセンター等防災に関する活動	日常生活自立支援事業	制度やサービス利用に当てはまらない人の支援	わからない	その他	無回答
年齢別	20～29歳	40.0	24.8	10.5	8.6	10.5	46.7	7.6	11.4	7.6	7.6	7.6	3.8	6.7	19.0	0.0	5.7
	30～39歳	48.9	28.6	5.3	2.3	18.0	34.6	9.0	12.0	10.5	6.8	15.0	3.8	6.8	18.8	3.8	3.0
	40～49歳	52.7	35.6	8.0	11.7	7.4	13.3	6.4	8.0	4.8	8.5	7.4	3.2	11.7	19.1	2.7	3.7
	50～59歳	52.4	38.4	9.7	10.8	8.1	5.4	10.8	11.9	9.2	9.2	9.7	6.5	15.7	14.1	1.6	4.3
	60～69歳	53.8	35.7	8.0	8.4	10.9	5.5	18.5	8.8	13.0	5.5	8.0	2.5	11.8	10.1	2.1	8.8
	70歳以上	49.8	31.2	8.3	3.2	11.1	4.0	28.5	11.1	23.7	4.0	4.3	3.2	9.1	6.3	0.0	17.0
	無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7

単位：％

		困ったときの相談窓口	福祉に関する情報も揃う窓口	ボランティア活動の支援・育成講座の開催	誰かの役に立ちたいと思ったときの相談窓口	全ての世代が福祉を学べる場づくり	子育て支援に関わる活動	お年寄りの健康づくり等、介護予防事業	障がいのある人の生活支援事業	近隣での見守り事業	地域コーディネーターとしての活動	災害ボランティアセンター等防災に関する活動	日常生活自立支援事業	制度やサービス利用に当てはまらない人の支援	わからない	その他	無回答
家族構成別	一人暮らし	48.9	31.1	3.3	5.6	12.2	10.0	18.9	3.3	20.0	7.8	8.9	1.1	11.1	13.3	2.2	13.3
	夫婦のみ	54.0	36.2	10.7	8.1	7.7	5.7	19.1	8.7	15.8	6.0	7.4	4.0	11.4	10.1	1.0	9.1
	親子のみ	48.6	32.6	7.2	8.4	9.6	18.6	11.3	12.5	10.4	6.4	9.6	3.5	10.2	15.4	1.8	6.1
	親子と祖父母	58.8	38.8	11.8	8.2	12.9	20.0	12.9	8.2	10.6	11.8	8.2	3.5	9.4	11.8	1.2	5.9
	親子と祖父母とその他	38.5	23.1	7.7	0.0	38.5	23.1	15.4	15.4	7.7	7.7	0.0	0.0	7.7	15.4	0.0	15.4
	親子とその他	37.5	25.0	37.5	0.0	12.5	25.0	12.5	0.0	37.5	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	12.5
	その他	43.7	25.3	5.7	3.4	19.5	11.5	21.8	12.6	8.0	4.6	4.6	8.0	14.9	14.9	3.4	10.3
	無回答	58.3	25.0	0.0	0.0	8.3	8.3	25.0	8.3	8.3	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3

「半田市地域福祉計画」見直しにあたっての アンケート調査

～調査のご協力をお願い～

市民のみなさまには、日頃より市政に関してご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

本市では、公的なサービスはもとより、地域のみなさまの助け合い、支え合いによって、誰もが地域で安心して暮らすことのできる社会の実現をめざし、平成 22 年度に『半田市地域福祉計画』を策定いたしました。

このアンケート調査は、計画の見直しにあたり、市民のみなさまにご意見をいただき、貴重な資料として使わせていただくために実施します。

なお、調査対象の方は本市在住の 20 歳以上、80 歳以下の方の中から、無作為に 3,000 人の方を抽出しております。ご記入いただいた内容については、すべて統計的に処理いたしますので、回答者個人が特定されたり、個々の回答内容が他にもれたりすることは一切ありません。

お忙しいところ大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

平成 28 年 7 月

半田市長 榊原 純 夫

◆ ご記入にあたってのお願い ◆

- ・ご回答は、できるかぎり宛名のご本人にお願いしますが、ご本人のみで記入が難しい場合は、ご家族の方や一緒にお住まいの方にもご協力いただきますようお願いいたします。
- ・この調査は無記名式ですので、調査票にお名前を記入する必要はありません。
- ・番号を選ぶところでは、**あてはまる項目の番号を、指定の数だけ○をつけてください。**
- ・ご記入のところでは、楷書で明確にご記入ください。
- ・ご記入いただいた調査票は、同封いたしました返信用封筒に入れて、**7月22日(金)までにご返送ください。**(切手は不要です。)
- ・調査内容についてご不明な点がございましたら、下記までお問合せください。

半田市福祉部地域福祉課 担当 山本、大竹
電 話：(0569) 84-0641 (直通) 内線 347・348
F A X：(0569) 22-2904

あなたの日常生活のことについてお聞きします。

問7 近隣の人とは、どの程度付き合いをしていますか。(1つの番号に○)

- | | |
|----------------|--------------------|
| 1. 日頃から助け合っている | 2. 気の合った人とは親しくしている |
| 3. あいさつはする | 4. ほとんど付き合いがない |
| 5. その他 () | |

問8 あなたは、ふだんの暮らしの中で、どのような悩みや不安を感じていますか。
(あてはまるすべての番号に○)

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1. 自分の健康に関する事 | 2. 家族の健康に関する事 |
| 3. 介護に関する事 | 4. 仕事に関する事 |
| 5. 近所付き合いに関する事 | 6. 生きがい・将来に関する事 |
| 7. 住まいに関する事 | 8. 収入や家計に関する事 |
| 9. 子どもに関する事 | 10. 災害に関する事 |
| 11. その他 () | |
| 12. 特にない | |

問9 あなたは困ったことがあるとき、誰に相談していますか。
(あてはまるすべての番号に○)

- | | | |
|-------------|---------------|--------------|
| 1. 家族・親族 | 2. 民生委員・児童委員 | 3. 区長・町内会長 |
| 4. 近所の人 | 5. 友人・知人 | 6. 行政(市役所など) |
| 7. 医療機関 | 8. 学校や保育園、幼稚園 | |
| 9. その他 () | | |
| 10. 相談していない | | |



<問9で「10. 相談していない」と答えた方にお聞きします>

【問9-1】なぜ、相談していないのですか。(1つの番号に○)

- | | |
|-------------------------|----------------------|
| 1. 他人に頼らずに、自分で解決したい | 2. 信頼できる人・相談できる人がいない |
| 3. 顔見知りの人に相談するのは気まずい | 4. 他人を家の中に入れてたくない |
| 5. なんとなく相談しづらい | 6. 今までに困ったことがない |
| 7. どこに(誰に)相談したらよいか分からない | |
| 8. その他 () | |

問 10 近所に困っている方がいるとき、あなたができることは何ですか。

(あてはまるすべての番号に○)

- | | |
|---|--------------|
| 1. 安否確認や声かけ | 2. 趣味などの話し相手 |
| 3. 電球の取り換えなどの簡単な作業 | 4. ちょっとした買い物 |
| 5. ゴミ出し | 6. 家の掃除 |
| 7. 料理をつくってあげること | 8. 洗濯 |
| 9. 短時間の子どもの預かり | 10. 子育ての相談 |
| 11. 生活についての相談 | |
| 12. 自分の知っている情報や相談窓口を伝える | |
| 13. 市役所・社会福祉協議会（包括支援センター、障がい者相談支援センター）へ連絡 | |
| 14. その他（ | ） |
| 15. 特にできることはない | |

問 11 あなたは、今後どのようなことで地域に貢献できると思いますか。

(あてはまるすべての番号に○)

1. 地域のイベントや作業への参加
2. 地域住民がふれ合える場所として、空き家・空き店舗を貸す
3. 地域活動のために田畑を貸す
4. 農業指導、土木指導、パソコン操作などの専門知識の提供
5. スポーツや文化活動の指導
6. レクリエーションなどの指導
7. 地域での子ども、お年寄り、障がいがある方が集える場所ができた場合の話し相手
8. 地域の防犯のための見回り
9. 災害が起こった場合のお年寄りや障がいのある方の避難誘導
10. ちょっとした話し相手
11. 自分の知っている情報や相談窓口を伝える
12. 身近な地域での困りごとなどをみんなで考える場への参加（ふくし井戸端会議等）
13. 地域の人が集う場所でボランティアスタッフとして活動する
14. その他（
15. 特にできることはない

問 12 あなたは福祉に関してどのような情報を得たいですか。(あてはまるすべての番号に○)

- | | |
|------------------------|------------------|
| 1. 福祉サービスの種類、内容 | 2. 福祉サービスの利用方法 |
| 3. 福祉サービスの利用に係る費用 | 4. 福祉サービスの相談窓口 |
| 5. 保育や子育てに関する情報 | 6. ボランティアに関する情報 |
| 7. 各種の福祉講座や教室、講習会の開催状況 | 8. 就労に関する情報 |
| 9. 就学に関する情報 | 10. 福祉事業所のサービス内容 |
| 11. 健康に関する情報 | |
| 12. その他（ | ） |
| 13. 特に得たい情報はない | |

問 14 あなたはボランティア活動をしていますか。(1つの番号に○)

1. 活動している → 問 14-1・14-2 へ
2. 現在は活動していないが、過去に活動したことがある
3. 活動したことはないが、今後活動したい → 問 14-3 へ
4. 活動したことはなく、今後も活動しないと思う → 問 14-4 へ

＜問 14 で「1. 活動している」「2. 現在は活動していないが、過去に活動したことがある」と答えた方にお聞きします＞

【問 14-1】どのようなボランティア活動をしていますか。(していましたか。)

(あてはまるすべての番号に○)

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1. 子育てや児童に関わる活動 | 2. 青少年の教育・育成に関わる活動 |
| 3. お年寄りに関わる活動 | 4. 障がいのある方に関わる活動 |
| 5. 健康づくり・医療に関わる活動 | 6. 自然や環境保護に関わる活動 |
| 7. スポーツ・文化・レクリエーション活動 | 8. まちづくりに関わる活動 |
| 9. 防犯、防災に関わる活動 | 10. 身近な話し相手や相談に関わる活動 |
| 11. 地域の人が集う場の運営に関わる活動 | |
| 12. その他 () | |

【問 14-2】ボランティア活動をはじめたきっかけは何ですか。(1つの番号に○)

- | | |
|-------------------------|---------------------------|
| 1. 必要に迫られて | 2. 友人・知人に誘われて |
| 3. 仕事上の付き合いから | 4. 本、マスコミ、インターネットから興味を持った |
| 5. 市報など行政の発行する情報誌を見て | 6. ボランティア団体等の広報誌を見て |
| 7. 生きがいを求めて | 8. 時間ができたので |
| 9. 学校や職場の勧めで | 10. 学校・大学などのサークル活動から |
| 11. 活動している人たちを見たり、話を聞いて | |
| 12. 市役所・社会福祉協議会の紹介を受けて | |
| 13. 地域や人とのつながりを求めて | |
| 14. その他 () | |

＜問 14 で「3. 活動したことはないが、今後活動したい」と答えた方にもお聞きします＞

【問 14-3】今後、どのようなボランティア活動に参加したいと思いますか。

(あてはまるすべての番号に○)

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1. 子育てや児童に関わる活動 | 2. 青少年の教育・育成に関わる活動 |
| 3. お年寄りに関わる活動 | 4. 障がいのある方に関わる活動 |
| 5. 健康づくり・医療に関わる活動 | 6. 自然や環境保護に関わる活動 |
| 7. スポーツ・文化・レクリエーション活動 | 8. まちづくりに関わる活動 |
| 10. 防犯、防災に関わる活動 | 10. 身近な話し相手や相談に関わる活動 |
| 11. 地域の人が集う場の運営に関わる活動 | 12. 特に決めていないが、何か社会貢献 |
| 13. その他 () | がしたい。 |

<問 14 で「4. 活動したことはなく、今後も活動しないと思う」と答えた方にお聞きします>

【問 14-4】活動しない理由は何ですか。(1つの番号に○)

- | | |
|-----------------|-------------|
| 1. 時間をとられたくない | 2. 仕事が忙しい |
| 3. 他の人に任せておけばよい | 4. 体調がすぐれない |
| 5. 興味がない | 6. 実益がない |
| 7. 家族の理解がない | 8. 面倒だから |
| 9. その他 () | |

すべての方がお答えください。

問 15 あなたが、自由になる時間帯はいつですか。(あてはまるすべての番号に○)

- | | | |
|---------------|--------------------|-------------|
| 1. 平日の午前 | 2. 平日の午後 | 3. 平日の夜間 |
| 4. 土曜日の午前 | 5. 土曜日の午後 | 6. 土曜日の夜間 |
| 7. 日曜・祝日の午前 | 8. 日曜・祝日の午後 | 9. 日曜・祝日の夜間 |
| 10. 自由に時間がとれる | 11. 自由になる時間がほとんどない | |

※概ね時間帯は次のとおりと考えてください。

午前とは 8 時から 12 時 午後とは 12 時から 18 時 夜間とは 18 時以降

災害時における助け合いについてお聞きします。

問 16 南海トラフ巨大地震等が懸念される中で、災害時における地域の助け合いは、非常に重要なことです。あなたの住む地域における災害時の備えとして、どのようなことが重要だと思えますか。(3つまで番号に○)

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1. 災害対策の学習会 | 2. 日頃からのあいさつ、声かけや付き合い |
| 3. 地域での避難訓練 | 4. 危険箇所の把握 |
| 5. 地域における援助体制の構築 | 6. 地域の要配慮者の把握 |
| 7. 要配慮者に対する情報伝達体制の構築 | 8. 災害ボランティアの育成 |
| 9. その他 () | |

問 17 被災後の生活において、あなたは誰を頼りにしますか。(あてはまるすべての番号に○)

- | | | |
|------------------|------------|--------------|
| 1. 家族・親族 | 2. 近所の人 | 3. 友人・知人 |
| 4. 自主防災組織(自治区など) | 5. 社会福祉協議会 | 6. 行政(市役所など) |
| 7. その他 () | | |

地域の課題についてお聞きします。

問 18 あなたは地域の中で、どのようなことを学んだり、活動したいと思いますか。
(3つまで番号に○)

1. 道路や公園などのゴミ拾い
 2. 街の中の花壇の整備
 3. 福祉施設やサービスを知る（見学等）
 4. 車イスの使い方や手話・点字などの講習
 5. お年寄りや障がいのある方等との交流
 6. 子どもたちの遊び相手
 7. 福祉施設で働く人の話を聞く
 8. 地域で活動しているボランティアの話を聞く
 9. お年寄りや障がいのある方の体験談を聞く
 10. 障がいのある方への対応・介助方法
 11. お年寄りとの接し方、介助方法
 12. 不登校、いじめ、ニートについて学びたい
 13. DV*について学びたい
 14. 在日外国人について学びたい
 15. 相談ボランティアや傾聴ボランティア
 16. ふくし井戸端会議やふくし勉強会等への参加
 17. その他（)
- ※DV：配偶者やパートナー、家族である者（であった者）から受ける暴力

問 19 あなたが日ごろお住まいの地域の課題を感じる機会は、次のうちどのようなときですか。(3つまで番号に○)

1. 公民館での講座
2. 回覧板
3. はんだ市報
4. 半田市社会福祉協議会の広報紙（はなちゃん通信）
5. 地域で発行されている情報紙など
6. NPO法人、ボランティア団体が発行している会報
7. 学校が発行している通信
8. 地区の寄り合い
9. 区長との話し合い
10. 市議会議員との話し合い
11. 近所の人との会話
12. ボランティアの人の話
13. 地域の現状を見て
14. 地域の課題を感じたことはない
15. その他（)

半田市地域福祉計画の重点施策についてお聞きします。

問 20 半田市地域福祉計画をご存知ですか。(1つの番号に○)

1. どのような計画か大体知っている
2. どのような計画か少し知っている
3. 聞いたことはあるが、どんな計画かは知らない
4. 聞いたこともない

問 21 以下の項目で知っている・聞いたことのあるものは何ですか。
(あてはまるすべての番号に○)

1. ふくし井戸端会議
2. ふくし勉強会 (知ったク！ふくしゼミナール)
3. にじいろサポーター養成講座
4. ふくし共育
5. ふくし相談窓口
6. 共生型福祉施設 (なるなるの家、おっかわハウス)
7. 地域ふれあい施設 (フレンド乙川、やなべふれあいセンター、さくらの家、かりやど憩の家、有脇ふれあいセンター)

社会福祉協議会についてお聞きします。

問 22 半田市社会福祉協議会をご存知ですか。(1つの番号に○)

1. どのような活動をしているか大体知っている
2. どのような活動をしているか少し知っている
3. 聞いたことはあるが、どんな活動をしているかは知らない
4. 聞いたこともない

問 23 半田市社会福祉協議会に対してどのような事業を望みますか。
(3つまで番号に○)

1. 困ったときの相談窓口 (社会福祉に関する総合的な相談・援助活動)
2. 福祉に関することならどのような情報でも揃う窓口 (社会福祉に関する情報提供活動の実施)
3. ボランティア活動の支援・養成講座の開催
4. 「誰かの役に立ちたい」「ボランティアしたい」と思ったときに相談できる窓口 (ボランティアの派遣調整・ボランティア活動の相談)
5. こどもたちから大人まで、すべての世代が福祉を学ぶことができる場づくり (ふくし共育・啓発活動の実施)
6. 子育て支援に関わる活動
7. お年寄りの健康づくりなど介護予防事業
8. 障がいのある人の生活支援に関わる事業
9. 近隣での見守り (助け合い) 事業
10. 地域コーディネーター*としての活動
11. 災害ボランティアセンターなど防災に関する活動
12. 日常生活自立支援事業 (判断能力に不安のある方の金銭管理など)
13. 制度やサービス利用にあてはまらない方や地域課題へのすきま支援
14. わからない
15. その他 ()

※地域コーディネーター：情報・人・場所などの地域の資源をつなぎ、地域での生活を支えるネットワークの中心になる役割をいう。

